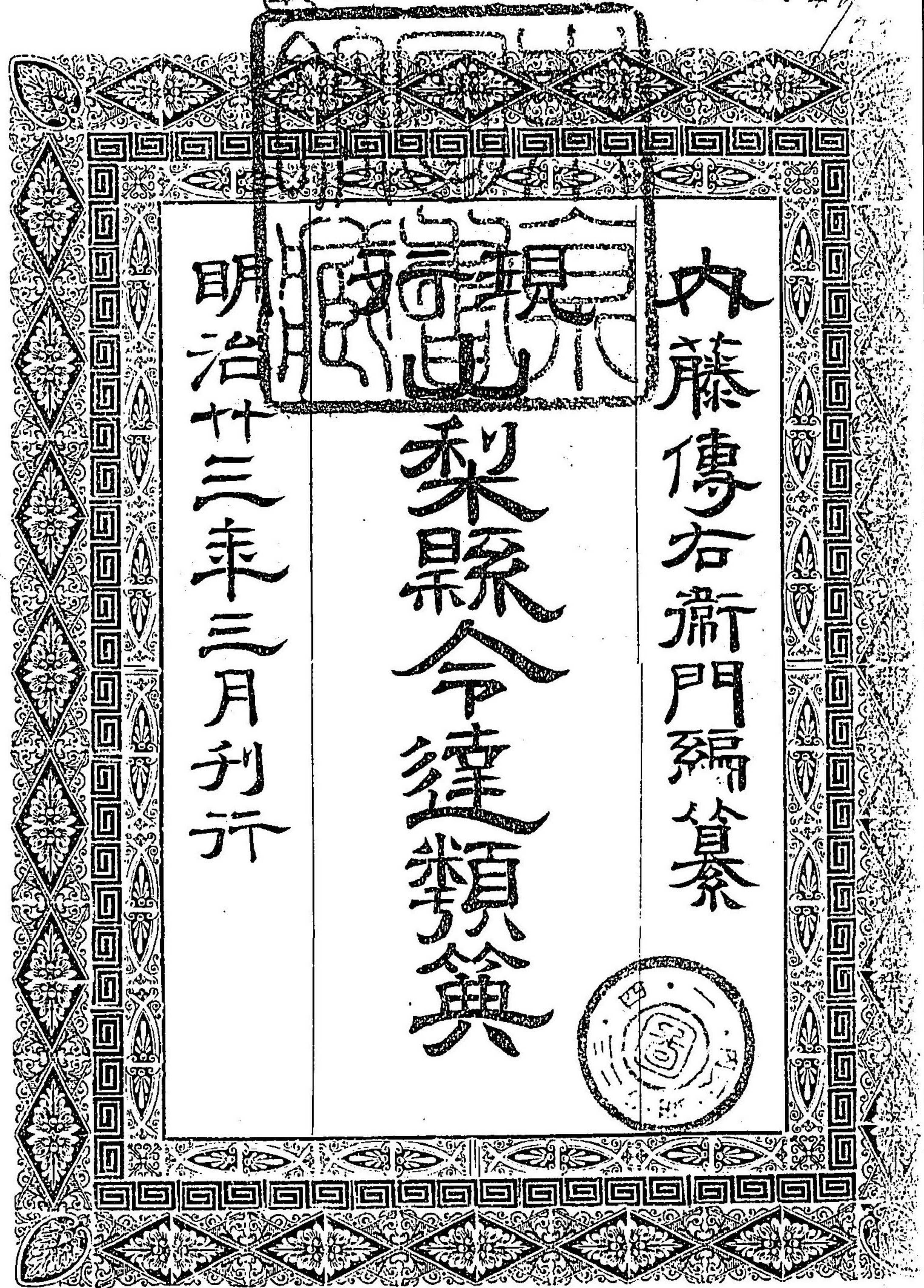



井打126

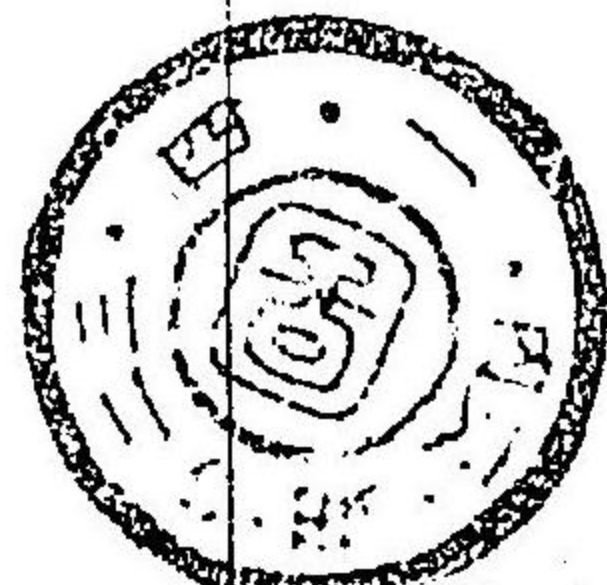
C2
111305

特14
908

№2846




 内藤傳右衛門編纂
 梨縣令達類纂
 明治廿三年三月刊行



行現 山梨縣令達類典

凡 例

- 一 本書ハ明治初年ヨリ全廿二年十二月ニ至ルノ間
山梨縣下一般ニ關シ發布セラレタル縣令及告示
等ヲ蒐輯スルヲ以テ主トセシト雖モ間々之ニ從
屬セルモノハ達訓令ノ類モ亦相聯揭シテ參者ニ便ス
- 一 本書ヲ分テ十二類トシ其相類似スルモノヲ聚メ
テ一部類ト爲ス
- 一 本書主トスル所本ト現行ニ在ルヲ以テ其令達中
改正補刪等ニ係ルモノハ直チニ其條項ニ就テ加

除修正ス但参考上必要アリト認ムルモノハ釐頭
或ハ首尾ニ其改正達文及年月日等ヲ附載ス
一一令達ニシテ事數類ニ涉ルモノ、如キハ其關係
ノ重モナル部類ニ掲ケ他ハ其大意ヲ摘録スルニ
止ム
一本書ニ遺漏セルモノ及ヒ單ニ郡市村吏員ノ職務
上ニ係ル取扱手續等ノ如キモノハ猶次篇ヲ俟テ
悉ク纂輯シ本篇ト併セテ完全ナラシメントス者
者請フ之ヲ諒セヨ

明治廿二年十二月

編者誌

現行 山梨縣令達類典

總目錄

- 第一類 令達並願伺届
- 第二類 會議及議員
- 第三類 農工商附運漕
- 第四類 土地並土功
- 第五類 兵事
- 第六類 教育
- 第七類 衛生
- 第八類 戶籍附社寺

- 第九類 出納並儲蓄
- 第十類 警察
- 第十一類 租稅
- 第十二類 雜

行現 山梨縣令達類典目錄
第一類 令達並願伺届

- (一) 縣令告示其他公報公布式 一 丁
- (參着) 山梨縣報發賣所 二 丁
- (二) 願伺届諸調書用紙 二 丁
- (三) 願伺 = 對スル指令遷延ノ時申出方 三 丁
- (四) 警察署 = 差出ス願届等ニシテ其分署ヲ經由スヘキ書目 三 丁
- (五) 警察署及分署ニ差出ス願届中巡查駐在所ニ差出スヲ得ル書目 四 丁
- (參着) 得遺失物届ニハ書面ヲ添フルニ及ハサル件 六 丁
- (六) 願伺届書部數 六 丁
- (參着) 願書ニ添付スヘキ規則書部數 八 丁
- (七) 郡長宛ヲ以差出ス願届 九 丁
- (八) 知事宛ヲ以收稅部出張所へ差出ス願届 十 丁

願屆書～區戶長添印並無用ノ文字省畧方十丁
願伺書～戶長奧書加印ノ件 十二丁
願伺屆書ハ約束郵便法ニ據リ取扱ノ件 十三丁
願伺屆書ニ奧書ヲ要セサル件 十三丁
營業鑑札下付願ニ指令ヲ與ヘサル件 十三丁
御料局静岡支廳全出張所～差出ス願伺屆 十三丁

第二類 會議及議員

一 府縣會議規則中心得條件 一丁
二 縣會議員改選交替手續 二丁
三 縣會議員選舉人名原簿及選舉人名簿調製方 二丁
全上帳簿書式 三丁

縣會町村會議員選舉等ニ關スル處理方 四丁
縣會議事細則 五丁
縣會傍聽人取扱手續 十二丁
縣會傍聽規則 十二丁

水利土功會等存續方 十三丁
存續會議ノ評決施行方 十三丁
全上ノ費用收支取扱及議員選舉方 十三丁

町村會規則 十四丁
町村費及町村會取扱手續 十九丁
聯合町村會、學區會、水利土功會 廿一丁
學事會規則 廿三丁
町村聯合衛生會設立案 廿四丁

第三類 農工商附運漕

種牡牛馬取締規則 一丁
田圃蟲害豫防規則 三丁
田圃蟲害ノ景況申報方 五丁

銃獵期限 五丁
有害鳥獸(威殺)銃取締規則 五丁
獸醫假開業規程 五丁

假開業獸醫營業區域及受持人名 七丁
借區開坑願圖面雛形 十二丁
借區繼年期出願方 十三丁

他府縣人ノ坑業ヲ出願スルトキ代理者取 十三丁
定方 十三丁
土石拋下規程 十三丁

十一 蠶種檢查規則施行手續 十五丁

十二 蠶絲業組合規則 十九丁

十三 同業組合規則 廿一丁

(參看) 同業組合規則施行方 廿三丁

十四 勘業通信規程 廿三丁

十五 富士川物貨運搬營業取締規則 廿六丁

第四類 土地並土功

一 土地開懇願出方 一丁

二 耕地合併分裂ニ關シ地價訂正方 二丁

三 居住地外ニ所有地アル者等納稅代理者取
定方 二丁

四 居住地外ニ所有ノ地所段別地價等届出方 三丁

(參看) 他町村民所有ノ地所其居住地ノ村役場
ニ通報方 一丁

五 土地分合筆取扱手續 三丁

六 水源ニ關スル民有山林取締心得 四丁

七 民有林樹木伐採届出方 六丁

八 民有林樹木斫伐又ハ礦物掘採届出方 七丁

九 民有山野火入取締規則 七丁

十 共有山林保護取締要領 九丁

十一 堤塘樹竹保護方 十一丁

十二 堤塘竹林委託規則 十二丁

十三 公園地保護取締委託 十三丁

(參看) 公園地貸渡條規 十三丁

十四 墓地及埋葬取締細則 十六丁

十五 共葬墓地外ニ於ル埋葬禁止 十六丁

十六 寺院舊境内墓地下渡方 十七丁

(參看) 共葬墓地ハ町村共有地ニ定ムルキ件 十七丁

十七 砂防工事施行ノ箇所ニ於ル禁制 十八丁

(參看) 砂防工事施行ノ箇所ニ於ル禁制 十八丁

十八 河身改修工事落成ノ箇所ニ於ル禁制 廿一丁

(參看) 河身改修工事落成ノ箇所ニ於ル禁制 廿二丁

十九 量水標建設ノ箇所ニ於ル禁制 廿三丁

二十 河川ニ關係アル水車新設願出方 廿四丁

二十一 堤防功事人夫課出方 廿五丁

(參看) 全上調理手續

(十五) 小學授業生免許手續 六十丁
(十六) 小學校職員俸給並旅費規則 六十三丁
(十七) 小學校職員職制 六十六丁

(參看) 小學校職員任免手續 六十七丁
小學校長訓導歸省願等ニ關スル件 六十八丁
小學校教員配置標準 六十八丁
小學校教員職員提灯記章 六十九丁

(十八) 尋常中學校職員職制 七十丁
(十九) 學齡兒童就學規則 七十一丁
(參看) 全上取扱心得 七十二丁

(二十) 醫學留學生規則 七十三丁
(二十一) 學事會規則 七十八丁

第七類 衛生

(一) 賣藥規則 一丁
(二) 賣藥ノ許可ヲ得サル藥劑ヲ販賣施與禁止 十丁
(三) 賣藥規則外藥劑販賣取締規則 十丁
(四) 藥湯營業願出方 十六丁
(五) 禁止或ハ廢業ノ賣藥請賣行商人名届出方 十六丁

(六) 醫師開業並移轉届出方 十七丁

(七) 藥舖營業規則 二十丁

(八) 鍼灸灸治營業取締規則 廿五丁

(九) 入齒拔牙口中療治接骨營業取締規則 廿七丁

(十) 產婆營業規則 廿九丁

(十一) 中毒者届出心得 三十丁

(十二) 麻疹病ヲ診察シタル醫師ノ届出方 卅一丁

(十三) 脚氣病ヲ診斷シタル醫師ノ届出方 卅一丁

(十四) 傳染病豫防心得 卅三丁

(參看) 醫師衛生委員傳染病取扱心得 卅三丁

(十五) 醫師產婆ヨリ差出ル死亡届、死産証、死体檢案 四十二丁

書式 四十三丁

(十六) 鑛泉浴場開業規則 四十六丁

(十七) 種痘細則 四十八丁

(參看) 種痘所設置準則 五十八丁

(十八) 病院診療規則 五十九丁

(十九) 私立病院設置規則 六十一丁

- (二十) 販賣水取締規則 六十四丁
 - (二十一) 牛乳販賣規則 六十九丁
 - (二十二) 未熟ノ菓物ヲ賣鬻スルヲ禁ス 七十三丁
 - (二十三) 腐敗ノ魚類ヲ販賣スルヲ禁ス 七十三丁
 - (二十四) 有毒ノ染料ヲ食物ニ用フルヲ禁ス 七十三丁
 - (二十五) 飲食物ニ覆蓋ヲ設クヘキ件 七十三丁
 - (二十六) 甲府飲用水路ノ上流ニ於テ薪材等ヲ流下スルヲ禁ス 七十四丁
 - (二十七) 斃牛馬等路傍ニ捨ツルヲ禁ス 七十四丁
 - (二十八) 街路其他掃除規則 七十五丁
 - (二十九) 町村聯合衛生會設立案 八十一丁
- 第八類 戶籍附社寺**
- (一) 順序ヲ踏ミタル家督相續願出方 一丁
 - (二) 順序ニアラザル相續者届出方 一丁
 - (三) 出產死亡失踪者復歸廢戶主届及送入籍請求并届書式 一丁
 - (四) 逃亡失踪者届出方 六丁
 - (五) 寄留者届出手續及届書式 六丁

- (六) 郡内他町村へノ寄留者届出方 七丁
 - (七) 家族者附籍届出方 十一丁
 - (八) 實印彫刻改刻紛失遺失届出方 十二丁
 - (九) 郷村社規則 十三丁
 - (十) 寺院惣代人撰定方 十五丁
 - (十一) 氏子換届出方 十五丁
 - (十二) 祠宮祠堂寺院住職旅行等ノ節代理人取定方 十六丁
 - (十三) 社寺ノ所有物ヲ書質入セントスルトキ伺出方 十六丁
 - (十四) 佛像他管へ出開帳願出方 十六丁
- 第九類 出納並儲蓄**
- (一) 歳入歳出々納規則中心得事項 一丁
 - (二) 納金手數料廢止 二丁
 - (三) 管内共有儲蓄金取扱規則 三丁
 - (四) 備荒儲蓄金取扱規則 七丁
 - (五) 貯蓄金告諭 七丁
- 第十類 警察**
- (一) 宿屋取締規則 一丁

二	外國人宿泊ノ節取扱方	八丁
三	外國人疾病ニ罹リタルトキ止宿取扱方	十三丁
四	社寺參籠人ノ氏名等記帳方	十三丁
五	雇人口入營業取締規則	十三丁
六	質屋取締規則	十八丁
七	他ノ依頼ヲ受ケ物品ヲ典賣スル者其品主ノ姓名ヲ告ケサルヲ禁ス	廿一丁
八	古物商取締規則	廿二丁
九	賣物品ニ印章ヲ畫シヲ禁ス	廿六丁
十	印刻營業取締規則	廿六丁
十一	印判彫刻保証狀ノ件	廿八丁
十二	文字不明ノ印判ヲ用ヒ又ハ賣買彫刻ヲ禁ス	廿九丁
十三	實印新刻改刻紛失遺失届出方	廿九丁
十四	湯屋營業取締規則	廿九丁
十五	湯壺ハ當分改造ニ及ハサル件	卅二丁
(參看)	諸興行取締規則	卅二丁
(參看)	劇場寄席ニテ興行ノ外集會ヲ要スル所届出方	卅五丁

十六	諸遊技場取締規則	三十五丁
十七	諸遊藝取締規則	三十六丁
十八	藝妓幫間免許地	三十八丁
十九	貸座敷娼妓取締規則	三十八丁
二十	貸座敷娼妓賦金	四十四丁
二十一	藝妓ニ非サル者宴席ニ於テ音曲歌舞等ノ所業ヲ禁ス	四十五丁
二十二	芝居茶屋待合茶屋營業願出方	四十五丁
二十三	營業人力車取締規則	四十五丁
二十四	人力車夫道路中央ニ立塞カルヲ禁ス	四十四丁
二十五	乘合馬車取締規則	五十四丁
二十六	荷馬車營業ハ許可ヲ受クルニ及ハサル件	六十五丁
二十七	荷馬車ノ馬丁ノ其荷馬車ニ乗ルヲ禁ス	六十五丁
二十八	諸製造所建設規則	六十六丁
二十九	販賣水取締規則	六十八丁
三十	打揚及仕掛煙火願出方	六十八丁
三十一	煙火製造及製造販賣願出方	六十八丁
三十二	屠獸場取締規則	六十九丁

- 三十三 食用ニ供スル獸類ヲ屠獸場外ニ於テ屠殺ス 十四 七十一丁
- 三十四 街路取締規則 七十二丁
- 三十五 街路其他掃除規則 七十九丁
- 三十六 道路取締規則 七十九丁
- 三十七 道路取締規則適用ノ個所 八十二丁
- 三十八 荷車地車ノ臺木ニ地摺木ヲ附帶スルヲ禁ス 八十三丁
- 三十九 富士川漁獵取締規則 八十三丁
- 四十 富士川物貨運搬營業取締規則 八十四丁
- 四十一 荒川上流ニ於テ材木等ヲ流下スルヲ禁ス 八十四丁
- 四十二 用水井戸取設ノ節願出方 八十四丁
- 四十三 民有山林火入取締規則 八十四丁
- 四十四 消防規則 八十四丁
- 四十五 畜犬取締規則 九十二丁
- 四十六 機關機銃ヲ用ヒ猪鹿等ヲ捕ルヲ禁ス 九十三丁
- 四十七 有害鳥獸(威殺)銃取締規則 九十四丁
- 四十八 銃砲賣買讓與等願出方 九十七丁
- 四十九 職業用火藥買受許可証願出方 九十八丁

- 五十 コロールカナル賣買授受願出方 九十八丁
 - 五十一 墓地埋葬取締細則 九十九丁
 - 五十二 共葬墓地外ニ於ル埋葬禁止 百六丁
 - 五十三 盜難届出方 百六丁
 - 五十四 漂流物届出方 百六丁
 - 五十五 野守雇入心得 百八丁
 - 五十六 乞食取締方 百十丁
 - (參看) 乞食取締注意方 百十丁
 - 五十七 講中ト唱ヘ病者ノ祈禱ヲ爲スヲ禁ス 百十一丁
 - 五十八 博奕ニ紛敗所業ヲ禁ス 百十一丁
 - 五十九 瘋癲病者ヲ鎖鋼セントスルヲ願出方 百十二丁
 - 六十 新聞雜誌類受賣人届出方 百十二丁
 - 六十一 違警罪罰則 百十二丁
- 第十一類 租 稅**
- 一 地租條例取扱心得 一丁
 - 二 預リ米取扱手續 四十七丁
 - 三 酒造營業人心得書 四十九丁
 - 四 酢元ニ供スル酒類製造ニ關スル件 九十五丁

- 五 自家用料酒製造屆書式及標札雛形 九十五丁
- 六 醬油製造營業手續 九十六丁
- 七 菓子稅施行方 百十八丁
- 八 煙草稅則施行方 百廿六丁
- 九 煙草作付地段別及收穫高屆出方 百四十八丁
- 十 煙草賃切人取締規則 百五十二丁
- 十一 賣藥規則並賣藥印紙稅施行細則 百五十三丁
- 十二 賣藥印紙交換願出方 百七十六丁
- 十三 人民所持ノ印紙類ヲ印紙賣捌人ニ賣渡方 百七十六丁
- 十四 車稅施行細則 百七十七丁
- 十五 所得稅調查委員撰舉及委員會細則 百七十八丁
- 十六 所得稅調查委員改選退職手續 百八十二丁
- 十七 所得稅調查委員旅費手當支給規則 百八十二丁
- 十八 甲府市所得稅調查委員ニ關スル件 百八十三丁
- 十九 地方稅徵收期限 百八十四丁
- 二十 營業稅雜種稅徵收規則 百八十五丁
- 二十一 漁業稅規則 百九十二丁
- 二十二 地方稅戶數割賦課法 百九十四丁

- 二十三 地方稅戶數割納期前他ニ移住ノ者納稅方 百九十八丁
- 二十四 地方稅ニ係ル營業者ノ家族等行商鑑札携帶方 百九十八丁

第十二類 雜

- 一 郡長委任條件 一丁
- 二 市長委任條件 三丁
- 三 帶勳有位者參賀並轉居其他屆出方 三丁
- 四 巡查採用規則 四丁
- 五 正午砲發射 六丁
- 六 御料地產物公賣規則 九丁
- 七 甲府谷村治安裁判所管內各出張所開廷日割 十九丁

現行 山梨縣令達類典

第一類 令達並願伺届

(一) 縣令告示其他公報公布式

○縣令第九十五號 明治二十年十二月廿八日

縣令告示其他公報公布式左ノ通り相定メ來明治廿一年一月一日ヨリ施行ス

但明治十九年九月縣令第四號ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

縣令告示其他公報公布式

第十條 縣令告示訓令其他縣廳ヨリ發スル諸達報告等ハ總テ山梨縣報ニ登載シテ之ヲ

第十一條 山梨縣報ハ每週一回之ヲ發行シ臨時急施ヲ要スルモノハ別ニ號外ヲ以テ發行

第十二條 縣令告示其他公報公布式ハ縣報ニ登載ノ日ヨリ七日ヲ以テ施行ノ期限トス但至急ヲ要シ即日

第十三條 縣令告示其他公報公布式ハ特ニ施行ノ期限ヲ定ムルモノハ此限リニアラス

第十四條 山梨縣報ハ發賣ヲ許シ發賣所ハ告示ヲ以テ別ニ之ヲ示ス

(參看)

○山梨縣報發賣所

告示第三百二十九號 明治二十年十二月廿八日

山梨縣報ハ左ノ二ヶ所ニ發賣ヲ許ス

第一類



西山梨郡甲府常磐町
又 新 社
全 町
内藤傳右衛門

(二) 願伺届諸調書用紙

甲第四百四十七號 明治八年五月十日
諸願伺届其他諸調書用紙區々ニシテ差支不少候條自今副書ハ必ス美濃又ハ大半紙罫紙ニ相認メ差出スヘシ若本書副書トモ半紙等ニ相認メ差出スモノハ其時々認メ直シノ義申付ヘキニ付兼テ可相心得此旨布達候事

(三) 願伺ニ對スル指令遷延ノ時申出方

○甲第三百二十九號 明治九年十一月六日
諸願伺ニ對スル指令何等ノ事故モ相達セスシテ數日遷延スル時ハ其旨封書ヲ以テ申出不苦候條此旨布達候事

○甲第二百六十五號 明治十一年十二月十二日
明治九年甲第三百二十九號ヲ以テ諸願伺等ノ指令何等ノ事故モ申達セスシテ數日遷延スルモノハ封書ヲ以テ申出不苦旨相達置候處右指令遷延ノ事ノミナラス主任者ヨリ口達或ハ指示スル義ニ付不了解ノ廉アラハ同様封書ヲ以テ申出苦シカラサル義ト心得ヘシ此旨布達候事

但其申出書ハ上封ニ必ス自己ノ住所姓名ヲ記シ且親展ト認メ置クヘシ

(四) 警察署へ差出ス願届等ニシテ其分署ヲ經由スヘキ書目

○縣令第七十八號 明治二十年九月廿八日
所轄警察署ニ差出スヘキ左記ノ願届及ヒ其變更廢止ニ係ルモノハ總テ所轄分署 分署所轄ノモノニ限テ經由スヘシ

- 一 古物商開業願
- 一 古物商支店開業願
- 一 古物商床店露店開設及行商願
- 一 質屋開業願
- 一 質屋支店開業願
- 一 芝居茶屋開業願
- 一 待合茶屋開業願
- 一 諸遊技場開業願
- 一 諸遊藝開業願
- 一 湯屋藥湯開業願
- 一 印判彫刻開業願
- 一 印判彫刻營業証認允願
- 一 旅人宿開業願

- 一 雇人口入開業願
- 一 貸座敷及藝娼妓出稼願
- 一 演劇興行願
- 一 殺獸願
- 一 碑表建設願
- 一 火藥運搬願
- 一 免許銃賣買讓與願
- 一 火藥賣買願
- 一 獸類傳染病願

五 警察署分署へ差出ス願届書中巡查駐在所へ差出スヲ得
得ル書目

○告示第四十二號 明治廿二年三月十六日
警察署分署へ差出スへキ願届書中左ニ掲クルモノハ便宜巡查駐在所へ差出スコトヲ得
但明治十九年六月甲第四十九號布達ハ取消ス
巡查駐在所へ差出ス書目

- 一 變死傷及行倒人届
- 二 盜難及火災届
- 三 贗造變造貨紙幣發見届

- 四 免許銃賣買讓與届
- 五 諸營業者廢業轉住改氏名届
- 六 流質物及古物着荷届
- 七 失踪逃亡及復歸届
- 八 屠獸届
- 九 道路ニ關スル願届
- 十 檢査ヲ要スル建物落成届
- 十一 墓地火葬場管理者届
- 十二 煙火打揚ケ願
- 十三 遺失物及流失物届
- 十四 得遺失物及流失發見届
- 十五 神佛祭典開帳法會届
- 十六 山林火入及田圃蟲送届
- 十七 遊藝興行順延及藝人増減届
- 十八 許可ヲ得タル市場開閉届
- 十九 棄子迷子届
- 第五項第七項ハ戶長ノ奥印ヲ要ス
- 第一項第二項第十九項ハ時日ヲ移サズ迅速届ヘシ

(參看)

○得遺失物届ニハ書面ヲ添ユルニ及ハサル件

告第七十號 明治二十年三月十日

明治十九年甲第四十五號布達警察署分署交番所へ願届ノ條件並手續中第四類

得遺失物ノ届書ニハ自今書面ヲ添ユルニ及ハス

(六) 願届書部數

○告示第五百五十八號 明治二十一年十一月十七日

自今左ニ掲クル諸願書ハ總テ壹通ヲ差出スヘシ

- 一 銃砲買賣營業願
- 一 火藥買賣營業願
- 一 軍用銃買入願
- 一 火藥買入願
- 一 馬車營業願
- 一 馭者馬丁鑑札願
- 一 人力車營業願
- 一 人力車挽子鑑札願
- 一 車臺馬匹檢査願
- 一 古物商營業願

- 一 質屋營業願
 - 一 宿屋營業願
 - 一 印刷營業願
 - 一 有害鳥獸殺銃免狀願
 - 一 屠獸場檢査願
 - 一 牛乳搾取人請賣人標札檢印願
 - 一 氷貯藏所並販賣所看板檢印願
 - 一 雇人口入營業願
 - 一 諸遊藝(遊藝師匠、遊藝稼人、相撲俳優、藝妓、幫間等)營業願
 - 一 貸座敷、娼妓、營業願
 - 一 諸遊技場(大弓、半弓、室内射的、玉突、吹矢、借馬、投扇鏡、碁將棋等)開設願
- 告示第十五號 明治廿二年二月二日
- 自今諸願届書ハ左ノ類別ニ從ヒ差出スヘシ但シ昨廿一年告示第五百五十八號ニ掲クル諸願書等ハ此限外トス
- 一 人民ヨリ縣廳又ハ郡役所へ差出ス願届書類 二 通
 - 但鑑札及免許証下附願ノ類ハ一通トス
 - 一 全上届書類 一 通
 - 一 人民ヨリ差出ス願書ニシテ内務其他各省へ進達スル書類 三 通

一 全上屆書類

○告示第二十九號 明治廿二年三月二日

本年告示第十五號第三項願書中鑛山試掘借區通洞採收ニ關スルモノハ自今正副二通差出スヘシ

○告示第五十四號 明治廿二年四月六日

本年告示第十五號諸願伺屆書部數類別第一項中左ニ掲クル願書ハ調査上要用有之ニ付自今正副三通ヲ差出スヘシ

一 私立銀行

一 銀行類似會社

一 農工商諸會社

一 同業組合

○告示第百廿五號 明治二十二年十一月十六日

本年告示第十五號第三項中獸醫開業免狀並同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ハ自今正副二通差出スヘシ

(參看)

○願書ニ添付スヘキ規則書部數

訓令第七號 明治廿二年二月六日 郡役所戶長役場

私立銀行並銀行類似會社ニシテ自今其規則改正ヲ出願スルトキハ現行規則寫

二部添付致サスヘシ

○同上申書副本ヲ要セサル件

達甲第三十三號 明治廿一年十一月二日 郡役所戶長役場

諸同上申書等自今副本ヲ添付スルニ及ハス

(七) 郡長宛ヲ以テ差出ス願屆

○縣令第六十四號 明治二十年八月十五日

左ノ各項ニ關スル願屆等ハ自今其所轄郡長ヘ差出スヘシ

一 國稅地方稅備荒儲蓄金及町村費不納者處分ノ事

二 徵兵取調ノ事

三 逃亡死亡絶家ノ財產處分ノ事

四 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事

五 電線道路田畑水利ニ障害アル官有樹木ヲ伐採スル事

六 河岸地借地檢査ノ事

七 印紙賣捌願ノ事

八 學校資金ノ事

九 地方稅支辨ニ係ル道路堤防急破修繕ノ事

十 非常水害防禦ノ爲メ三等官林竹木伐採ノ事

十一 地券書換願ノ事

十二 社寺什物取締ノ事

十三 府縣社以下并寺院境内枯損竹木伐採及竹木栽培願ノ事

十四 度量衡檢査ノ事

十五 諸貸下金徵收處分ノ事

(八) 知事宛ヲ以テ收稅部出張所へ差出ス願届

○縣令第三十九號明治廿二年六月廿二日

左ノ各項ニ關スル件ハ明治廿二年七月一日ヨリ知事宛ヲ以テ所轄收稅部出張所へ差出スヘシ

但從前ノ令達ニシテ本文ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

一 土地ニ關スル願届

一 國稅ヲ課スル諸營業鑑札ニ關スル願届

但職遊獵及ヒ賣藥營業ニ關スル願届ハ此限リニアラズ

一 船車檢印ニ關スル願届

一 諸印紙ニ關スル願届

(參看)

○願届書へ區戶長添印並無用ノ文字省略方

第三十三號明治廿六年山梨八代巨摩三

自今諸願届書共其村町正副戶長ハ勿論區長添印ノ上可差出此段更ニ相達候也

甲第四十五號明治廿六年三月廿九日拔抄

一 諸願届之類正副區長與印ノ上差出候様相達置候處故障筋等ニ關ハル外尋常之分ハ自今正副戶長與印而已ニテ可差出事

一 願届等文中無用之文字作恐冥加至極難有仕合廣大之御慈悲杯之ヲ無用ノ文字ト云フヲ用ヒ又被仰出被仰付

被仰下是等ハ達ニ換ヘシ御沙汰是ハ御差圖ニ換ヘシ等ノ文字ハ夫々御規則モ有之事ニ付相改可

申都テ文体ハ無益ヲ省主意分明ナルヲ主トシ切要之文字而已相認可申事

但書式之大体左之通可相心得候尤伍長ノ制ハ追而可相達事

何々之義願

私義何々之義ニ付云々此段奉願候以上

何郡第何區何村第何番

何 誰 印

年 月 日

組 合 伍 長

何 誰 印

右 村 副 戶 長

何 誰 印

同 戶 長

何 誰 印

長官宛
何々之義何

私何々之子細云々此段奉伺候以上

何郡第何區何村第何番

年月日

何誰印

前書之通相違無御座候以上

組合伍長

何誰印

右村副戸長

何誰印

同戸長

何誰印

長官宛

右之趣管内無洩相違者也

○願伺書へ戸長與書加印ノ件

乙第四十二號明治十五年六月五日

郡役所

人民ヨリ官廳へ對スル願伺書等戸長ノ與印ヲ乞フ場合戸長ノ意見ヲ以テ與書加印ヲ差拒ミ壅蔽スル等ノ儀無之様豫テ相達置候趣モ有之ニ付右等不都合ハ

無之筈ニ候得共追々交替等ニテ不心得ノ者有之モ難圖候條猶一般戸長へ示達シ置クヘシ此旨相達候事

○願伺届書ハ約束郵便法ニ據リ取扱フノ件

乙第六十一號明治十六年八月廿二日

郡町村役所

人民ヨリ管廳へ差出候諸願伺届書等戸長ニ於テ與書調印ノ上進達スルモノハ渾テ約束郵便法ニ據リ取扱候筈ニ付爲心得此旨相達候事

○願伺届書ニ與書ヲ要セサル件

訓令第五號明治廿二年二月二日

郡役所戸長役場

人民ノ諸願伺届書ニシテ別段例規ニ書式アルモノ及ヒ証明ニ係ルモノ、外ハ自今總テ與書ヲナサス其書面ノ末尾ニ適宜年號月日ヲ記シ郡役所戸長役場ノ印ヲ押捺シテ差出スヘシ

○營業鑑札下附願ニ指令ヲ與ヘサル件

訓令第七十六號明治二十一年十一月廿四日

郡役所戸長役場

從前諸營業人ヨリ營業鑑札下附ノ義願出候節該願書へ指令ノ上鑑札下附候處自今指令セス直ニ鑑札ノ下附候條其旨相心得鑑札下附方取計フヘシ

九 御料局静岡支廳同出張所へ差出ス願伺届

○告示第百十一號明治廿二年九月廿八日

今般縣下一圓官林及官有山林原野皇宮地附屬地ニ編入相成候ニ付テハ去ル廿五日ヲ以

御料局静岡支廳へ事務引繼候條自今借地及産物拂下ニ係ル願書ハ同支廳長宛チ以テ所轄^{甲府}出張所へ其他ハ直ニ同支廳へ差出スヘシ

告示第百二十六號^{明治二十二年十一月十六日}

御料局静岡支廳管内御料地ニ係ル人民願書差出方ノ義ニ付本年九月中第百十一號ヲ以テ告示及置候處今般同應ヨリ更ニ左ノ通り通牒アリタリ但シ該書面ハ渾テ願人在籍市村長ノ與印ヲ要スル義ト心得ヘシ

一 借地及ヒ産物拂下願及ヒ此願ニ起因セル伺届書

一 被害届

右ハ支廳長^{御料局理事}宛チ以テ所轄^{甲府}出張所へ差出スヘシ

一 立木拂受人ヨリ出ス所ノ木挽小屋敷地又ハ炭竈敷地借用願及ヒ此願ニ起因セル伺届書

伺届書

一 貸地内ノ事業ニ必要ナル小屋掛敷地借用願及ヒ此願ニ起因セル伺届書

一 神社ノ祭典佛閣ノ開扉及ヒ諸興行等ニ必要ナル敷地借用願及ヒ此願ニ起因セル伺届書

伺届書

右ハ所轄^{甲府}出張所長^{御料局 屬 服部久宛チ以テ同所へ差出スヘシ}

告示第百三十號^{明治二十二年十一月三十日}

本年十一月告示第百二十六號御料局静岡支廳へ差出スヘキ書面ノ内其主願ニ起因セル伺届及再願ノ場合ニ於テハ願人在籍市村長ノ與書ヲ要セサル義ト心得ヘシ

第一類 會議及議員

(一) 府縣會規則中心得條件

○甲第五拾號^{明治二十二年二月十二日}

明治十一年第十八號公布府縣會規則中左ノ條件爲心得布達候事

一 府縣會規則第十三條第十四條ニ係ル議員及撰舉人タルヘキ者ノ年齢ハ撰舉會期月マテニ通算スヘシ

一 右全條ニ定ムル限内ノ者ハ戸主ニ非スト雖モ議員トナリ及議員ヲ撰舉スルコトヲ得

一 全第十七條但書ニ投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシト有レトモ町村戸長ハ代人トナス可カラズ

一 全第十條ニ依リ出ス所ノ議員共ニ議長副議長ニ選ハルコトアルモ議長副議長ハ其郡ノ議員タル木分ヲ失フモノニ非サレハ更ニ議員ヲ補選スルニ及ハス

一 全第二十四條ニ依リ議員ノ欠ヲ補フ爲メ選マレタル議員ノ任期ハ其補フ所ノ先議員ノ選マレタル年ヨリ通算ス

一 已ニ議員ニ舉ケラレタル者ト雖モ在任中其所有ノ地租減少シテ成規ノ高ニ及ハサルトキハ退任セシムヘシ

一 議員及撰舉人トナルヲ得ヘキ者其所有地ヲ質入書入トナスモ處有權ヲ移轉スルニ非サルヲ以テ仍モ議員及撰舉人トナルノ權ヲ失フコトナシ

一新律綱領頒布後徒一年已上ノ刑ニ處セラレタル者ハ第十三條第二款ニ依リ議員タルコトヲ得ス

(二) 縣會議員改選交替手續

○甲第五拾五號 明治十八年六月二十日

明治十五年本縣甲第拾壹號布達本縣縣會議員並常置委員交替手續縣會ノ決議ヲ取リ左之通改定ス

縣會議員改選交替手續

- 一 議員ノ改撰ハ其年通常會終ルノ後直ニ執行スルモノトス
- 一 後任議員撰定ノ上縣廳ハ之ヲ前任議員ニ報告シ前任議員ハ其報告ヲ期トシ解職スルモノトス

右布達候事

(三) 縣會議員選舉人名原簿及選舉人名簿調製方

縣令第五十六號 明治二十二年八月三日

本年法律第六號府縣會議員選舉規則附則第一項ニ據リ本縣々會議員選舉人名原簿及選舉人名簿調製方左ノ通相定メ尙本年定期ノ原簿名簿調製期限ニ於テ之ヲ訂正セシム

一 市村長ハ八月十五日ヲ期トシ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ九月一日マテニ郡長ニ市長ハ議員選舉區域所屬ノ郡長ニ差出スヘシ

一 郡長ハ市村長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ九月十五日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製ス

ヘシ

一 郡長ハ九月廿日ヨリ十五日間選舉人名原簿選舉人名簿ノ寫ヲ其郡役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

一 選舉人名簿ハ十月十五日ヲ以テ確定ノ期限トス

(參看)

○選舉人名原簿全人名簿書式

訓第四十七號 明治廿二年八月十日

郡 役 所
元 戶 長 役 場

府縣會議員選舉規則ニ據リ調製スル選舉人名原簿並選舉人名簿ハ左ノ書式ニ據ルヘシ

○選舉人名原簿書式

(印ハ朱書)

氏 名	何 某	何 某	何 某
生 年 月	年 號 何 年 何 月	年 號 何 年 何 月	年 號 何 年 何 月
住 所	何 郡 何 村	何 市	何 郡 何 村
地 租 總 數	何 圓 何 錢 何 厘	何 圓 何 錢 何 厘	何 圓 何 錢 何 厘
地 租 納 稅 地	何 市	何 郡 何 村	何 郡 何 村

被選權有無	氏名	生年月	住所	地租總額	地租納稅地	被選權有無
○有	○何某	○年號何年何月	○何市	○何圓何錢何厘	○何市	○無
○有	○何某	○年號何年何月	○何市	○何圓何錢何厘	○何市	○無
○有	○何某	○年號何年何月	○何市	○何圓何錢何厘	○何市	○無

選舉人名簿書式

地租總額	住所	氏名
○何圓何錢何厘	○何郡何村	○何某
○何圓何錢何厘	○何市	○何某

(參看) ○縣會町村會議員選舉等ニ關スル處理方

郡 役 場

訓令第三號 明治廿一年一月廿四日

縣會町村會議員ノ選舉投票調査其他選舉會中ノ取締等ハ已ニ順序手續施設相成居候得共抑右選舉ノ義ハ人民公權ノ消長ニ關シ重大ノ事件ニシテ將來政治思想ノ増進スルニ隨ヒ其競争モ益劇甚ニ赴クベシ且多少弊害ヲ醸ス等ノ恐モナキニ非ルヲ以テ其取扱方最モ鄭重ニセサルヘカシザル義ニ付キ選舉人投票ノ名簿等ハ平素明瞭ニ調査致置キ投票用紙ノ如キモ定數ノ外濫リニ下付セス書損破壊等アルトキハ交換下付シ不用ニ屬スルモノハ逐一返戻セシメ其他被選人名ノ公示及投票審査選舉開會前後ノ取締法等尙一層精密ニシテ公平明確ニ處理候様厚ク注意致スヘシ

(附載)

○縣會議事細則

山梨縣會議事細則

第一章 議場整理

- 第一條 議事ハ午前第九時ニ始メ午後第四時ニ終ル時宜ニ依リ時間ヲ伸縮スルハ議長ノ指揮ニ依リ若クハ會議ノ決ニ依ル
- 第二條 議員ノ席次ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 議事中ハ議長ノ姓名ヲ稱ヘスシテ議長ト呼ヘシ又議員相互ノ稱呼ハ其席次ノ番號ヲ用ユヘシ

第四條 議長副議長共ニ疾病事故有リテ出席セサルトキハ議員中ヨリ假議長ヲ公撰シ其日ノ會議ヲ開クヘシ

第五條 議長ハ時宜ニ依リ議員ノ發言ヲ止メ又ハ中止スルコトヲ得

第六條 議題外ニ起ル總テノ事件ハ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ル

第二章 議案修正案並建議

第七條 議案又ハ報告書ハ議長之ヲ議員ニ分付スヘシ

第八條 修正說ハ二次會及三次會ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得但二次會ニ於テ賛成無キモノ及三次會ニ於テ五名以上ノ賛成ヲ得サルモノハ並ニ之ヲ議題トナスコトヲ得ス

第九條 修正說ヲ提出セントスル者ハ文案ト爲シ之ヲ議長ニ出シ又ハ議席ニ在リテ陳述スヘシ

第十條 第二次會ニ於テ後ノ條項テ修正シタル爲メ更ニ前ノ條項ニ返リ修正說ヲ提出スルコトヲ許サス

第十一條 建議ヲナサントスル者ハ録シテ文案トナシ之ヲ議長ニ出シ獨其旨趣ヲ演述スヘシ

第十二條 建議ノ事柄瑣小ニ涉ル者（議題ノ先後分合及時間ノ伸縮等ノ類）ハ直ニ之ヲ演述スヘシ

第十三條 建議ノ大意可ト決スルモ細目ニ涉リ審議ヲ要スルモノハ委員ニ付シテ議案ヲ作ラシメ第十七條ノ區別ニ從ヒ之ヲ議ス其建議書ヲ草定スルニ

止マルモノハ委員ヲシテ之ヲ草定セシメ又ハ其草案ヲ小會議ニ付シ議定スルコトアルヘシ

第十四條 建議ノ事柄ニ依リ其會期中既ニ議決セル條件若シハ其主意ト抵觸スルモノアリト認ムルトキハ議長ハ之ヲ會議ニ問ヒ其建議ヲ採用セサルコトアルヘシ

第三章 議事

第十五條 議事ハ議案ヲ分付シ又ハ委員ノ報告ヲ得タル日ヨリ少シモ一日ヲ隔テ、之ヲ開クヘシ但至急ヲ要スル場合又ハ議事ノ都合ニ於テ己ムヲ得サルコトアルトキハ此限リニアラス

第十六條 議事ヲ開クキハ議長先議題ヲ告知シ書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシム

第十七條 議事ハ第一次第二次第三次ノ三會ニ區別ス

第十八條 議案ニ就キ立案者ノ説明ヲ要スルモノハ第一次會ノ始メニ於テ之ヲ質問スルコトヲ得

第十九條 第一次會ニ於テハ議題ノ大意ヲ議シ可決スルトキハ議長ハ二次會ノ期日ヲ定ム若シ否決スルトキハ其議案ハ消滅スルモノトス

第二十條 第一次會ニ於テ議案ノ大意可ト決スルモ議員二名以上ノ請求ニ依リ二次會ヲ開クニ先テ議案全部ヲ査理セントスルトキハ會議ニ問ヒ委員ヲ撰テ之ヲ付托シ其報告ヲ待テ二次會ヲ開クヘシ

第二十一條 第二次會ニ於テハ議案ヲ逐條ニ討論議決(字句ヲ修正シ條項ヲ加除分合及轉置スル等)シ

但議決セル條項ノ整理ヲ要スルトキハ之ヲ委員ニ付托シ其報告ヲ待テ第三次會ヲ開クコトアルヘシ

第二十二條 第二次會ニ於テハ議案ノ性質ニ依リ議長ノ意見若クハ會議ノ決ヲ以テ數條或ハ數項ヲ聯絡シ又ハ一條ヲ數節ニ分チ及條項ノ順序ニ拘ラスシテ議決スルコトヲ得

第二十三條 第三次會ニ於テハ全案ニ就テ議決スヘシ

第二十四條 第三次會ニ於テ議題ノ主意可ト決スルモ猶其條項又ハ字句ノ整理ヲ要スルトキハ之ヲ委員ニ付托スルコトヲ得

第二十五條 第二次會ハ第一次會後第二次會ハ第二次會後少クモ一日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但至急ヲ要スル場合又ハ議事ノ都合ニ於テ己ムヲ得サルコトアルトキハ此限リニアラス

第四章 發言

第二十六條 發言セントスル者ハ起立シテ議長ト呼フヘシ議長ハ其番號ヲ回呼シテ發言セシム但議員ノ討論問答ハ必ス議長ニ向テ之ヲナスヘシ

第二十七條 一議員演說ノ間ハ他ノ議員ハ之ヲ默聽スヘシ

第二十八條 一議題審議中ハ他事ニ就テ發言スルコトヲ許サズ

但無用ノ論辨ヲナスモノアリト認ムルトキハ議長ハ之ヲ制止スルコトヲ得

第二十九條 議長發言セントシテ起立スルトキハ論辨中ノ議員ハ其論辨ヲ止ムヘシ

第三十條 議長議題ニ就テ意見有ルトキハ副議長ニ席ヲ讓ルヘシ副議長モ亦意見有ルトキ以テ之ヲ辭スルトキハ議長ハ一議員ヲ舉ケテ代理セシメ議席ニ着キ發言シ總体又ハ一條ヲ議決シタル後議長席ニ復スヘシ

第五章 決議

第三十一條 出席ノ議員ハ可否ノ數ニ入ラサルヲ得ス

第三十二條 可否ヲ決スルノ法ハ起立投票ノ二種トシ議長便宜ニ之ヲ用ユヘシ

第三十三條 議題ノ順序ハ議長之ヲ定メ或ハ會議ノ決ヲ取ル

第三十四條 第二次會ニ於テ議案每條朗讀ノ後暫クシテ發言無キトキハ議長之ヲ可決セル者トシ次條ノ審議ニ移ルコトヲ得

第三十五條 修正說ハ原案ニ先チ可否ヲ決ス修正說多數ナルトキハ最原案ニ異ナルモノヲ先ニス若シ決ヲ取ルノ先後ニ論有ルトキハ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ル

第三十六條 議長ノ意見若クハ議員二名以上ノ請求ニ依リ議題ヲ分離シ又ハ

之ヲ合併シテ決テ取ラントスルトキハ議長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ル
第三十七條 辨論未ク了ラスト雖モ議長ニ於テ論旨既ニ悉クセリト認ムルト
キハ之ヲ會議ニ問ヒ其議題ノ決ヲ取ルヘシ

明治十六年四月通常會議定認可

第三十八條 二次會又ハ三次會ニ於テ修正說數派ニ分レ原案ト共ニ各過半數
ノ全意ヲ得サルトキハ委員ヲ撰定シ議案修正ノ上再ヒ之ヲ議ス
再議ノ上猶修正說數派ニ分ルニ於テハ第一ノ修正說ヨリ順次可否ノ決ヲ取
リ諸說皆過半數ノ全意ヲ得サルトキハ更ニ原案ニ可否ヲ決ス
第三十九條 可否ノ數ハ書記之ヲ點檢シ其決定ハ議長之ヲ告知ス

第六章 小會議

第四十條 小會議ハ議案若シハ委員ノ報告ニ就キ質問ヲ要スルトキ其他特ニ
要ナル場合ニ於テ之ヲ開シ
但小會議ハ時宜ニ依リ傍聽ヲ禁スルコトアルヘシ

第四十一條 小會議ニ於テハ第四十五條第四十六條第四十七條ヲ除外本則
ニ從フヲ要セス

第七章 委員

第四十二條 議長ノ意見若シハ議員二名以上ノ請求ニ依リ委員ヲ撰シ議案又
ハ修正案ヲ査理セシメントスルトキハ會議ノ決ヲ取ル

第四十三條 委員ハ議長之ヲ撰シ又ハ議員ヲ撰テ公撰セシム但其人員ハ奇數
ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 委員ハ其付托セラレタル全案中ニ就テ其條項ヲ取捨シ又ハ之ヲ
改竄スルコトヲ得其意見ハ委員過半數ニ依リテ之ヲ決シ其理由ヲ議長ニ報
告スヘシ

第八章 議場取締

第四十五條 議事中ハ議員相私語シ又ハ吸煙シ總テ議事ヲ妨クルノ舉動アル
コトヲ許サス

第四十六條 議事中ハ議員議長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ議場ヲ退クコトヲ
許サス

第九章 附則

第四十七條 遲參ノ議員ハ議長ノ許可ヲ得テ席ニ着クヘシ

第四十八條 議員欠席スルトキハ開會時限ニ先テ其事由ヲ議長ニ届ケ出ヘシ

第四十九條 會議ノ招集ニ應セス又ハ不參連續三日以上ニ及フモノハ其事故
ヲ審査シ會議ノ決ヲ以テ退職者タルヲ定ム

但事故審査委員ハ臨時之ヲ公撰スヘシ

第五十條 議員五名以上ノ發議ヲ以テ此規則ノ改正ヲ求ムルトキハ之ヲ會議
ニ附シ通常ノ手續キテ以テ之ヲ議決スヘシ

○縣會傍聽人取扱心得

山梨縣會議事傍聽人取扱手續

第一條 會議ノ傍聽牌ヲ乞フ者アルトキハ其族籍ヲ記シタル名刺ヲ出サシメ之ヲ傍聽人名簿ニ登記シ牌面番號ノ順序ヲ逐テ之ヲ渡スヘシ但傍聽牌ハ一日限リ之ヲ収ムヘシ

第二條 傍聽人本日滿場ニ至リ猶傍聽ヲ乞フ者アルトキハ其旨ヲ告ケ且(縣會議事傍聽人滿場)ト書シタル標札ヲ門外ニ掲シヘシ

第三條 傍聽席、傍聽牌ノ數ニ應シテ每席番號ヲ附スヘシ議事始マルトキハ議員着席前ニ傍聽人ニ報シテ其席ニ着カシムヘシ

○縣會傍聽規則

山梨縣會議事傍聽心得

第一條 會議ヲ傍聽スル者ハ必ス傍聽牌ヲ齎スヘシ但傍聽牌ハ一日限リ之ヲ返還スヘキモノトス

第二條 傍聽牌ハ其日開會ニ先テ議場受付所ニ到リ名刺ヲ出シテ之ヲ乞フヘシ受付所ニ於テハ出頭ノ順序ニ從テ之ヲ渡スヘシ但本日滿場ニ至レハ傍聽ヲ得ス

第三條 傍聽牌ヲ受取タルモノハ傍聽人扣所ニ扣ヘ議事始マルノ報ヲ得ハ議場傍聽席ニ到リ所持ノ牌面ニ照シ全番號ノ席ニ着クヘシ

第四條 會議ヲ傍聽スル者ハ靜肅ヲ主トスヘシ談話喫烟及ヒ雜沓スルヲ禁ス若シ規則ニ背キ議事ノ妨ケヲナス者ト認ムル者ハ議長書記ニ命ジテ之ヲ退去セシムヘシ

〔四〕 水利土功會等存續方

○縣令第四十六號 明治廿二年六月二十八日

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若クハ學事ニ關スル町村聯合會ニシテ本年六月縣令第四十一號ヲ以テ分合シタル町村區域及同令ニ依リ郡長ノ告示スル町村組合ノ區域ニ符合セサルモノハ本年三月法律第十一號ニ依リ之ヲ存續ス本令ニ依リ存續スル會議ハ總テ郡長ニ於テ管理スヘシ

(參看)

○存續會議ノ評決施行方

達甲第拾壹號 明治廿二年七月十三日 郡元 郡長 役場 本年縣令第四十六號ヲ以テ存續シタル會議ノ評決ハ郡長ノ便宜ニ依リ直ニ關係町村長ヲシテ施行セシムヘシ

○全上ノ費用收出取扱及議員選舉方

訓令第三十六號 明治廿二年六月廿九日 郡長 役場 本年縣令第四十六號ニ依リ存續スル會議ノ議定ヲ以テ收入支出スル費用ハ市町村制ニ依リ取扱フヘシ

該會議員ノ改選若シハ補欠選舉ヲ要スルトキハ區町村會法第九條ニ依リ選舉權ヲ有スルモノ同法第十條ニ依リ被選舉權ヲ有スルモノ中ニ就テ直ニ選舉セシムヘシ

前項選舉ノ手續其他ノ規定ハ從前ノ令達ニ依ルヘシ

五 町村會規則

甲第四拾四號 明治十七年七月二日

町村會規則別紙之通之ヲ定ム
右布達候事

町村會規則

第一章 總 則

第一條 町村會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開クモノヲ通常會トシ臨時會ニ開クモノヲ臨時會トス

第二條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第三條 町村會ハ毎年通常會ノ初ニ於テ前年度町村費出納決算ノ報告ヲ受ク

第四條 戶長ハ議事細則ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルヲ得

第二章 撰 舉

第五條 町村會議員ノ定數ハ戶數三百戶未滿ノ町村ハ六八三百戶以上五百戶未滿ノ町村ハ八八五百戶以上ノ町村ハ拾八トス

町村ノ狀況ニ依リ戶長ハ適宜議員撰舉ノ區域ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ得テ施行スルヲ得

第六條 戶長事故アリテ議員中ヨリ議長ヲ指定スル場合ニ於テハ議員ハ其指定ヲ拒ムヲ得ス

第七條 書記ハ議長之ヲ撰ミ庶務ヲ整理セシム

第八條 議員ヲ撰舉セントスルトキハ戶長ニ於テ撰舉會ヲ開クヘキ日ヲ定メ少シモ十日日前ニ該町村内ニ公告スヘシ

第九條 撰舉ノ投票ハ豫定ノ日該町村役所ニ於テ之ヲ爲シ戶長之ヲ調査シ撰舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ
但便宜ニ依リ役所外ニ於テ撰舉會ヲ開クヲ得

第十條 撰舉人ハ豫メ戶長ヨリ附與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被撰人ノ姓名年齢ヲ記シ豫定ノ日之ヲ戶長ニ出スヘシ投票ハ多數ノ者ヲ以テ當撰トシ同數ノ者ハ年長ヲ取リ同年ノ者ハ隨テ以テ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシ

第十一條 投票終ルノ後戶長ハ撰舉人名簿ニ就テ當票ノ當否ヲ查シ又被撰舉人名簿ニ就テ當撰人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不當ナル者アルカ或ハ當撰人自ラ其撰ヲ辭スルトキハ順次當票ノ多數ヲ得タルモノヲ取ル

第十二條 當撰人ノ當否ヲ査定スル后戶長ハ其當撰人ヲ役所ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スヘシ

但當撰人各請書ヲ出シタル后戸長ハ其姓名ヲ町村内ニ公示スヘシ

第十三條 議員ノ任期ハ六年トシ三年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回三年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

但前任者ヲ再撰スルヲ得

第十四條 議員中區町村會法第十條ニ定メラレタル各款ニ遭遇スルカ又ハ其町村外ニ轉住スルカ其他總テ欠員アルトキハ之レニ代ル者ヲ撰擧ス

第三章 議 則

第十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル處ニ依ル

第十七條 戸長ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明シ又ハ代理人ヲシテ辨明セシムルヲ得

第十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但議長ハ時宜ニ依リ傍聽ヲ禁スルヲ得

第十九條 議員ハ會議ニ當リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付褻貶毀譽ニ涉ルヲ得ス

第二十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開 閉

第二十一條 町村會ハ毎年一度五月ニ於テ之ヲ開ク其開期ハ七日以内トス其開閉ハ戸長

之ヲ命ス

第二十二條 通常開期ノ外會議ニ附スヘキ事件アルトキ戸長ハ臨時會ヲ開クヲ得其開期ハ三日以内トス

但該會ヲ要スル事由ハ郡長ヲ經テ縣廳ニ報告スヘシ

第五章 聯合町村會附水利土功會學區會

第二十三條 數町村ニ關涉スル事件ニ付聯合町村會ヲ開設スルトキハ左ノ例ニ依リ議員ヲ出スヘシ

一二町村會ヲ聯合開設スルモノハ 每 町 村 各 四 人

一三町村會以上五町村會以下ヲ以聯合開設スルモノハ 每 町 村 各 三 人

一六町村會以上拾町村會以下ヲ以聯合開設スルモノハ 每 町 村 各 二 人

一十一町村會以上ヲ以聯合會開設スルモノハ 每 町 村 各 一 人

第二十四條 數町村ニ戸長一人ヲ置ク町村ニ於テ町村各自ニ議會ヲ開クヘキ要用ナシ或ハ開クコト能ハサル場合アルトキハ聯合町村一體ニ關スル事項ヲ議スル爲メ其町村

役所々轄内ノ町村ヲ以聯合町村會ヲ開設スルコトヲ得其議員ノ數ハ第二十三條ノ例ニ

依ル

十八

第廿五條 聯合町村會議員、各町村會議員中ヨリ互選スルモノトス但第二十四條ノ議
員ハ各町村ヨリ撰舉セシムヘシ

第廿六條 一町村内ノ一局部若クハ數町村内ノ數局部ニ關涉セル水利土功ノ事項ニ關
シ水利土功會ヲ開設スルトキ及ヒ町村ノ境界ニ依ラサル小學校設置ノ區域ニ於テ其
學区内ノ教育事項ニ關シ議會ヲ開設スルトキハ左ノ例ニ依リ議員ヲ出スヘシ

一 二局部以上數局部ニ關涉スルモノハ第廿三條ノ例ニ準シ各局部ヨリ撰舉セシム
一 數局部ニ關涉スルモノト雖モ土地ノ狀況ニ依リ關係全部共通シテ議員ヲ撰舉スル
ヲ便宜ナリトスルトキハ郡長又ハ戶長ニ於テ縣廳ノ許可ヲ得テ施行スルヲ得但此
場合ニ於テ其議員ハ第五條ノ例ニ依リ撰舉セシム

第廿七條 聯合町村會水利土功會學區會ノ區域戶長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ其關係ア
ル戶長ヲメテ管理セシム但其事項重大ニ屬スルカ又ハ區域廣濶ナルカ若シハ數郡
ニ涉ルモノハ郡長カシテ管理セシム或ハ其議會ノ議決戶長ヲシテ施行セシムルコト
アルヘシ

第廿八條 聯合町村會水利土功會學區會ノ議員ハ任期ナシ該會終レハ即チ解散ス但毎
年該會ヲ要スルモノハ其任期ヲ三年トス

第廿九條 本章前各條ノ外ハ總テ第一章第三章第二章第四章ノ各條ニ準據ス
第六章 雜則

第三十條 町村會議員ハ俸給旅費日當ヲ給セス

一 旅費ハ片道三里以上十里迄ヲ一日程トシ一日金四拾錢トス

但片道三里以上十里未滿ト雖モ猶本項ノ額ヲ支給ス

一日當ハ滞在一日金貳拾錢トス

一日當ハ議員ノ參會スルモ議場ニ出席セサレハ支給セス

水利土功會聯合町村會ノ議員ハ片道三里以上ノ地ニシテ一日間ニ往復シ得サル者ニ
限リ旅費日當ヲ給ス其額ハ縣廳ニ於テ定ムル所ニ從ヒ會議費中ヨリ支給ス

第卅一條 町村會聯合町村會水利土功會等ノ書記ハ俸給ヲ給ス其額ハ會議ノ評決ヲ以
テ之ヲ定メ會議費中ヨリ支出ス

(參看)

○町村費及町村會取扱手續

乙第五拾六號

郡町村役所

町村費及町村會取扱手續左ノ通之ヲ定ム

一 町村會ニ於テ議定スヘキ費目ハ戶長役所費。會議費。土木費。教育費。衛生費。
救助費。災害豫防費。警備費。勸業費トシ其徵收科目ハ地價割(又ハ反別割)
戶數割トス但町村ノ狀況ニ依リ町村會ノ評決ヲ取り右費目科目ヲ取捨シ
又ハ現品或ハ夫役ヲ以徵收スルコトヲ得ヘシ

二 町村ノ狀況ニ依リ前項ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルコトアルカ又ハ諸營業

ニ就キ賦課ヲ要スルコトアルトキハ其營業及賦課方法ヲ具シ豫メ指揮ヲ乞フヘシ

三町村費ヲ以支辨スヘキ事業數年ヲ期シ施行スルモノハ其初年ニ於テ各年度ノ經費豫算ヲ具シ豫メ指揮ヲ乞フヘシ

又事業重大ニ屬シ其經費該年度間ニ徵收シ難ク爲メニ公借ヲ要スルトキハ其豫算及償還方法ヲ具シ豫メ指揮ヲ乞フヘシ

四町村費ハ二期ニ分テ(七月ヨリ十二月ニ至ルヲ第一期トシ一月ヨリ六月ニ至ルヲ第二期トス)毎月初月一日ヨリ十五日間ニ於テ徵收スヘシ

但徵收期限ハ豫メ町村内へ告示スヘシ

五戸長ハ其年七月ヨリ翌年六月ニ至ル町村費ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及其徵收豫算ヲ立翌年度ノ定額トナシ町村會ノ評決ヲ取り郡長ニ報告スヘシ又毎年七月ニ於テ前年度一週年間町村費ノ出納ヲ計査シ精算帳ヲ作り郡長ニ報告シ且翌年ノ通常會ニ報告スヘシ

郡長ハ前項戸長ノ報告ニ依リ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

六郡長ノ管理ニ屬スル聯合町村會水利土功會ニ於テ評決スヘキ町村費ハ前各項ニ準據シ郡長ニ於テ處理スヘシ

七戸長ニ於テ町村費々目ノ流用ヲ要スルトキハ郡長ノ認可ヲ得ヘシ
八聯合町村會水利土功會戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノ又ハ郡長ノ管理ニシテ數

郡ニ涉ルモノハ其關係戸長又ハ郡長ノ内二名ヲ指定シテ之ヲ惣理セシム但戸長ノ管理ニ係ル惣理者ヲ定ムルハ郡長ニ於テ意見ヲ具申シ指揮ヲ乞フヘシ

惣理者ハ自己ノ名ヲ以其會ヲ招集シ議案ヲ發シ其他會議ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス但議案ノ調整及ヒ其評決取扱ニ付テハ關係戸長又ハ郡長ニ協議スヘシ

九町村會聯合町村會水利土功會ノ評決ハ認可以前戸長之ヲ郡長ニ稟申シ認可ヲ得ヘシ

十通常町村會聯合町村會水利土功會等ノ開閉ハ其時々戸長ヨリ郡長ニ報告スヘシ

郡長ハ戸長ノ報告ニ依リ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ其管理ニ係ルモノモ亦同シ
十一戸長ニ於テ區町村會法町村會規則及ヒ前各項ニ依リ指揮又ハ認可ヲ乞フトキハ凡テ郡長ヲ經由シ郡長ハ其意見ヲ副申スヘシ

右相達候事

○聯合町村會及學區會

乙第五拾七號 明治十七年七月七日

郡 町 村 役 所

數町村ヲ以テ一學區ト爲ス町村ニ於テハ其學區内教育費ニ關スル事項ヲ議セシムル爲メ聯合町村會ヲ開設スヘシ又町村ノ境界ニ依ラサル學區ニ於テハ同

上ノ事項ヲ議セシムル爲メ學區會ヲ開設スヘシ
右聯合會并學區ノ會區域戶長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ其關係アル戶長ニ於テ
管理スヘシ

右相達候事

乙第五拾八號 明治十七年 七月七日

郡 町 村 役 所

町村費ヲ以テ支辨スヘキ事項ニシテ數町村ニ關涉シ聯合町村會ノ開設ヲ要ス
ルカ又ハ町村ノ區域ニ依ラサル一町村内ノ一局部若クハ數町村内ノ數局部ニ
關涉スル水利土功ノ事項ニ關シ水利土功會ノ開設ヲ要スルトキハ其區域ヲ調
査シ具申スヘシ此旨相達候事

乙第六拾八號 明治十七年 七月廿一日

郡 町 村 役 所

數町村ヲ聯合シ戶長一員ヲ置ク町村ニ於テハ其聯合町村一体ノ事項ヲ議スル
爲メ聯合町村會ヲ開設スヘシ此旨相達候事

乙第八拾四號 明治十七年 八月廿五日

郡 町 村 役 所

聯合町村會並水利土功會開設區域調査之義ニ付本年乙第五拾八號ヲ以テ相達
置候趣モ有之處從來該會開設ノ慣行アルモノニシテ此際其區域ノ變更ヲ要セ
サルモノハ別段具申ニ及ハス直ニ慣行ノ區域ニ從ヒ聯合町村會又ハ水利土功
會ヲ開設ス此旨更ニ相達候事

但其區域戶長數人ノ所轄ニ涉リ郡長ノ管理ニ屬スルヲ便宜ナリト認ムルモ

ノハ郡長ニ於テ本年乙第五拾九號達ニ依リ取調評決施行ノ區別共併テ意見
ヲ具スヘシ

六 學事會規則

○甲第五號 明治十七年 一月廿八日

學事會規則別冊之通之ヲ定ム

但明治十五年^三學事報告第六號ヲ以テ報告セシ學事會規則ハ廢止ス

右布達候事

學事會規則

第一條 本會ハ教育ノ普及改進ヲ圖ル爲メ其方法得失ヲ協議會談スル所トス

第二條 本會ニ於テハ縣令ヨリ諮問スル事件及會員ヨリ其意見ヲ衆議ニ附セシコトヲ
請フモノヲ以テ議案ト爲スヘシ

第三條 本會ニ於テハ議案ノ可否ヲ議スル外各會員互ニ教育上ノ所見ヲ報告演述スヘ
シ

第四條 本會ノ決議縣令ノ諮問ニ係ル事件ハ之ヲ復申シ會員ノ發案ニ係ルモノハ其施
行ヲ縣令ニ建議シ又ハ本會ノ考案トシテ備ヘ置クヘシ

第五條 本會ノ會員ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス

- 一 本會員 十五名
- 一 員外會員 十五名

本會員ハ管内在籍ニシテ德望ヲ有シ且教育ニ篤志ナルモノヲ取ル

員外會員ハ郡長及縣立學校職員縣立病院醫員ヨリ之ヲ取ル

第六條 會員ハ縣令ノ特選ヲ以テ之ヲ任ス

員外會員其本分ノ職務ヲ罷メタルトキハ共ニ會員ヲ罷メタルモノトス

第七條 會長副會長ハ本會員中ヨリ公撰シ縣令ニ報告スヘシ

會長副會長ノ任期ハ一年トシ一年毎ニ改選スヘシ但前任ノ者ヲ再撰スルヲ得

第八條 書記ハ學務課員又ハ縣立學校書記ヲ以テ之ニ充テ會場ノ庶務ヲ掌理セシム

第九條 會議ハ通常隔月ニ一回之ヲ開キ會期ハ每會三日以内トス

第十條 通常會ノ外本會ノ意見ヲ諮フヘキ事件アルカ又ハ會員過半數ノ求ニ依リ臨時

會ヲ開クコトアルヘシ

第十一條 決議ヲ要スル事件ニ付テハ會員半數以上出席スルニ非レハ議事ヲ開カサル

モノトス

第十二條 學務課長縣立學校長又ハ其代理者ハ會場ニ出席シテ其意見ヲ演述スルコト

アル可シ

第十三條 會場並ニ議事ノ細則ハ本會ニ於テ取設ケ縣令ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

(七) 町村聯合衛生會設立案

○甲第百號 明治十四年 七月八日

衛生事項ニ付テハ退々布告布達ノ旨モ有之候處該事項タル近傍數町村ニ關聯シ其利害

ナ同フスルモノ不少若シ之ヲ個々各別ニ施行スルトキハ自他ノ不便ノミナラス傳染病ノ豫防地方病ノ驅除等或ハ其無効ニ屬センヲ恐ル、モノアリ故ニ地勢ノ自ラ一區域ヲ爲シ利害ヲ同フスル町村聯合シテ衛生會ヲ開キ協同一致勉メテ一轍ニ出シコトヲ圖ルハ今日ノ急務ニ付別紙町村聯合衛生會設立方案取調相示候條右ニ依據シ協議ノ上該會開設倍々衛生事業ノ改良ヲ圖リ候様可致此旨諭達候事
但本文ノ規則ハ郡長ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ得テ施行スル義ト心得ヘシ

町村聯合衛生會設立案

第一條 本會ハ衛生上ニ係ル布告布達ヲ實施スルノ方法順序ヲ談議シ及町村衛生事項

ノ改良ヲ圖ル目的ヲ以テ設ケルモノトス

第二條 聯合ノ區域ハ成ヘルシ二三ヶ村若クハ數村地勢ノ自ラ一區域ヲ爲シ傳染病豫

防等共同施行セサルヲ得サル地ニ依リ聯合ヲ定メ郡長ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ得ヘシ

第三條 聯合衛生會ハ左ノ職員ヲ以テ編成ス

衛生委員

町村會議員

開業醫師

第四條 町村會議員及ヒ開業醫師ノ人員ハ聯合區域ノ廣狹大小ニ依リ聯合町村ノ戶長

協議ノ上之ヲ定ムヘシ但町村會議員ヨリ出ス會員ハ町村會ニ於テ開業醫師ヨリ出ス

會員ハ本會ニ於テ撰舉スヘシ

第五條 會長ハ聯合町村戸長中ヨリ副會長ハ會員中ヨリ本會ノ公選ヲ以テ定ムヘシ

第六條 議事ノ細則ハ議會ニ於テ議定シ之ヲ施行スヘシ

第七條 本會ハ少クモ隔月一回之ヲ開クヘシ

但郡長及ヒ聯合町村戸長ニ於テ特ニ會議ヲ要スル事件アルトキハ臨時會ヲ開キ又會員半數以上ノ請求ニ依テ之ヲ開クヘシ

第八條 本會ニ於テ議定スヘキ要件左ノ如シ

一 衛生上ニ係ル布告布達並報告等實施ノ方法

一 傳染病豫防法實施ノ方法

一 縣廳及ヒ郡長並地方衛生會等ヨリ諮問ニ係ル事項

第九條 議案ハ戸長ヨリ之ヲ發ス但戸長ハ其會議ニ付スヘキ事項ノ意見ヲ衛生委員ニ

問ヒ聯合町村戸長協議ノ上議案ヲ編成スヘシ

第十條 本會費及ヒ決議ノ事件ヲ實施スル爲メ要スル費用ハ各町村協議費ヲ以テ支辨

スヘシ

第十一條 本會ノ議事ハ之ヲ筆記シ時々其決議ノ要領ヲ舉ケ郡長ヲ經テ縣廳ヘ報告ス

ヘシ

第十二條 本會ハ事宜ニヨリ衛生官吏警察官吏郡吏員等臨席主務ノ事件ニ付其旨議ノ

說示ヲ請ヒ又ハ地方衛生會委員縣立病院醫員等臨席衛生上心得ノ說明ヲ請フヘシ

ナ同フスルモノ不少若シ之ヲ個々各別ニ施行スルトキハ自他ノ不便ノミナラス傳染病ノ豫防地方病ノ驅除等或ハ其無効ニ屬センヲ恐ル、モノアリ故ニ地勢ノ自ラ一區域ヲ爲シ利害ヲ同フスル町村聯合シテ衛生會ヲ開キ協同一致勉メテ一轄ニ出ニコトヲ圖ルハ今日ノ急務ニ付別紙町村聯合衛生會設立方案取調相示候條右ニ依據シ協議ノ上該會開設倍々衛生事業ノ改良ヲ圖リ候様可致此旨諭達候事

但本文ノ規則ハ郡長ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ得テ施行スル義ト心得ヘシ

町村聯合衛生會設立案

第一條 本會ハ衛生上ニ係ル布告布達ヲ實施スルノ方法順序ヲ談議シ及町村衛生事項

ノ改良ヲ圖ル目的ヲ以テ設ケルモノトス

第二條 聯合ノ區域ハ成ヘルク二三ヶ村若クハ數村地勢ノ自ラ一區域ヲ爲シ傳染病豫

防等共同施行セサルヲ得サル地ニ依リ聯合ヲ定メ郡長ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ得ヘシ

第三條 聯合衛生會ハ左ノ職員ヲ以テ編成ス

衛生委員

町村會議員

開業醫師

第四條 町村會議員及ヒ開業醫師ノ人員ハ聯合區域ノ廣狹大小ニ依リ聯合町村ノ戸長

協議ノ上之ヲ定ムヘシ但町村會議員ヨリ出ス會員ハ町村會ニ於テ開業醫師ヨリ出ス

會員ハ本會ニ於テ撰擧スヘシ

第五條 會長ハ聯合町村戸長中ヨリ副會長ハ會員中ヨリ本會ノ公選ヲ以テ定ムヘシ

第六條 議事ノ細則ハ議會ニ於テ議定シ之ヲ施行スヘシ

第七條 本會ハ少クモ隔月一回之ヲ開クヘシ

但郡長及ヒ聯合町村戸長ニ於テ特ニ會議ヲ要スル事件アルトキハ臨時會ヲ開キ又會員半數以上ノ請求ニ依テ之ヲ開クヘシ

第八條 本會ニ於テ議定スヘキ要件左ノ如シ

- 一 衛生上ニ係ル布告布達並報告等實施ノ方法
- 一 傳染病豫防法實施ノ方法
- 一 縣廳及ヒ郡長並地方衛生會等ヨリ諮問ニ係ル事項

第九條 議案ハ戸長ヨリ之ヲ發ス但戸長ハ其會議ニ付スヘキ事項ノ意見ヲ衛生委員ニ問ヒ聯合町村戸長協議ノ上議案ヲ編成スヘシ

第十條 本會費及ヒ決議ノ事件ヲ實施スル爲メ要スル費用ハ各町村協議費ヲ以テ支辨スヘシ

第十一條 本會ノ議事ハ之ヲ筆記シ時々其決議ノ要領ヲ舉ケ郡長ヲ經テ縣廳ヘ報告スヘシ

第十二條 本會ハ事宜ニヨリ衛生官吏警察官吏郡吏員等臨席主務ノ事件ニ付其旨議ノ說示ヲ請ヒ又ハ地方衛生會委員縣立病院醫員等臨席衛生上心得ノ說明ヲ請フヘシ

第三類 農工商附運漕

(一) 種牡牛馬取締規則

○甲第四拾壹號 明治十八年五月十四日

種牡牛馬取締規則別冊之通り制定ス
右布達候事

種牡牛馬取締規則

第一條 種牡牛馬ヲ飼畜スルモノハ左ノ各項ヲ記載シタル書面ニ第二條ノ各項ニ關スル牛馬醫ノ鑑定証書ヲ添ヘ管轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 種類 内國種又ハ洋種又ハ何々

一 年齡

一 寸尺

一 毛色

一 產地 何國何郡何村又ハ何牧場等

一 畜養地名 何國何郡何村又ハ何牧場等

第二條 種牡牛馬ハ左ノ各項ニ適合ノモノニアラサレハ之ヲ許サス

一 牛ハ滿二歲以上滿十歲以下ニシテ丈ケ 肩項ヨリ三尺六寸以上ノモノ
但洋種ハ其年齡十歲以上ニ至ルモ妨ケナシ

二 馬ハ滿三歲以上滿十六歲以下ニシテ丈ケ 肩項ヨリ四尺以上ノモノ

但洋種ハ十六歳以上ニ至ルモ妨ケナシ

三強壯ニシテ骨格善良ナルモノ

四遺傳病及惡癖ナキモノ

第三條 縣廳ニ於テ種牡牛馬ヲ許可シタルトキハ一頭毎ニ免許証書ヲ附與スヘシ所有者ハ其畜養ノ場所ニ於テ交尾セシムル外他ニ牽出シテ交尾セシムルトキハ必ス其免許証書ヲ携帶スヘシ

第四條 種牡牛馬交尾ノ期節及其度數ヲ定ムル左ノ如シ

一種馬交尾ノ期節ハ毎年二月ヨリ五月マテトシ其度數ハ一期節間牡馬四拾頭ニ接スルヲ極度トス

二種牛ハ交尾ノ期節ヲ定メスト雖トモ其度數ハ一年間牡牛六拾頭ニ接スルヲ極度トス

第五條 種牡牛馬ノ所有主ハ常ニ其飼養上ニ注意シ且ツ應分ノ運動ヲ爲サシムル外耕農若クハ駄運等ニ使用スヘカラス

但種馬ハ交尾期節中及ヒ期節ノ前後一ケ月間ヲ除ク外適宜使用スルヲ得ルト雖トモ過度ノ勞役ヲ爲サシメサルヲ要ス

第六條 種牡牛馬所有者其所用ヲ廢スルカ又ハ其牛馬斃死シタル時ハ其旨届出免許証ヲ返納スヘシ

種牡牛馬所有者其居所ヲ變轉スルカ又ハ免許証ヲ毀失シタル時ハ其旨届出免許証ノ

書換又ハ再與ヲ請フヘシ

種牡牛馬所有者其牛馬ヲ他ニ賣渡シ其買受人ニ於テ尙ホ其業ヲ繼續セント欲スル時ハ双方連署其旨届出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第七條 種牡牛馬所用中疾病等ノ爲メ第二條ノ第三項第四項ニ適セサルカ又ハ其年齒同條ノ第一項第二項ノ制限ヲ超ヘタルトキハ其所用ヲ廢シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 縣廳ハ臨時ニ種牡牛馬ヲ檢査シ若シ第二條ノ各項ニ適合セサルモノアルトキハ直ニ所用ヲ停止シ免許証書ヲ返納セシムヘシ

第九條 交尾ノ度數及其交尾ニヨリ懐胎シタル牝牛馬ノ數ハ前年中ノ分ヲ調査シ翌年一月限リ種牡牛馬飼畜者ヨリ届出ツヘシ

第十條 此規則ニ依ラスシテ種牡牛馬ヲ飼畜シタル者ハ違警罪ニ依リ處分セラルヘシ

(二) 田圃蟲害豫防規則

○甲第四拾號 明治十九年五月八日

田圃蟲害豫防規則別紙ノ通之ヲ定ム
右布達候事

田圃蟲害豫防規則

第一條 田圃ニ於テ左ノ種類ノ害蟲ヲ發生シタルトキハ耕作人ニ於テ直ニ相當ノ驅除ヲ行ヒ且ツ速ニ戶長ニ報告シ猶ホ其指揮ニ依リ驅除及ヒ豫防ニ從事スヘシ

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------|
| 一 螟蟲 | 方言ズイムシ | 一 浮塵子 | 方言ウシカ |
| 一 螟蛉 | 方言アチムシ | 一 蜻蛉 | 又コヌカムシ
方言ヂムシ |
| 一 蠹虫 | 方言シンムシ | 一 地蠶 | 又ノケサ
方言チムシ |
| 一 尺蠖 | 方言シヤグトリムシ | 一 蛄 | 又子キリムシ
方言ケムシ |
| 一 甲虫 | 方言コウラムシ
又ブンゾク
方言コカテムシ | 一 蚱蜢 | 方言ケムシ |
| 一 金龜蟲 | | 一 蚱虫 | 方言アプラムシ |

四

第二條 耕作人若シ害虫ノ驅除ヲ怠ルトキハ戸長ニ於テ直ニ之ヲ執行シ其費用ハ該耕作人チンテ支辨セシムヘシ

第三條 害虫蔓延スルカ若クハ蔓延ノ徵候アルキハ戸長ハ其町村内人民チシテ其驅除及ヒ豫防ニ從事セシムヘシ

第四條 害虫ノ勢ヒ猖獗ニシテ他町村ニ蔓延ノ徵候アルトキハ戸長ハ隣接町村ニ報知スヘシ報知ヲ受ケタル戸長ハ其町村内人民チシテ豫防及ヒ驅除ニ從事セシムヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ縣廳ハ時宜ニ依リ數町村ヲ聯合シテ豫防及ヒ驅除ニ從事セシムルコトアルヘシ

第六條 第三條第四條第五條ノ驅除及ヒ豫防ニ關スル費用ハ其町村費チ以テ支辨スヘシ

第七條 第一條ニ違背シ及ヒ第三條第四條第五條ノ指揮命令ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セララルヘシ

(參看)

○田圃害虫ノ景況申報方

乙第四十三號 明治十九年五月十四日

郡 役 所

今般甲第四十號ヲ以テ田圃害虫豫防規則布達候ニ付テハ戸長ニ於テ耕作人ヨ

リ害虫發生ノ報告ヲ得タルトキハ速ニ相當ノ驅除及豫防方ヲ指揮シ且害虫ノ發生蔓延撲滅ノ景況及施行シタル驅除豫防ノ方法等ハ其時々速ニ郡役所チ經

テ縣廳ニ申報スヘシ

(三) 統制期限

○縣令第二十五號 明治廿二年四月九日

自今統制免許期限ハ毎年九月十五日ヨリ翌年五月十五日迄チ一期ト定ム

但豫テ下渡シ置タル本期間免狀ハ本月三十日限リ所轄郡役所へ申出訂正チ乞フヘシ

(四) 有害鳥獸(威殺)統制規則 第十類警察ノ條ニ

(五) 獸醫假開業規程

○縣令第十九號 明治二十年二月十二日

明治十九年七月 本縣甲第五十號布達獸醫假開業規程左ノ通改正ス

獸醫假開業規程

第一條 獸醫免許規則第五條ニ據リ假開業免狀ノ下付チ請願セントスルモノハ別紙書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄郡役所チ經テ縣廳へ差出スヘシ

- 第二條 前條ノ出願ニ對シ縣廳ニ於テハ實際ノ狀況ヲ調査シ獸醫欠乏地ニアラスト認ムルトキハ農商務省ヘ具狀ノ手續ヲ爲サス直チニ之ヲ棄却スヘシ
- 第三條 假開業獸醫ハ區域ヲ定メ免許セラレ、モノトス且一區域内一人ニ限ルヘシ
- 第四條 假開業獸醫營業ノ免許年限ハ滿二ケ年以内トス
- 第五條 假開業獸醫ハ免許區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スヲ得ス但其免許區域内ニ牽キ來リタル病畜ヲ治療スルハ妨ケナシ
- 第六條 假開業獸醫免許期限ヲ經過スルモ仍ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此規程ニ因リ更ニ假開業免狀ノ下付ヲ請願スルコトヲ得
- 第七條 假開業獸醫免許年限中ト雖モ其區域内ニ於テ本免狀ヲ得タル獸醫ノ開業者アルトキハ該假開業免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ
- 第八條 假開業獸醫ニシテ本免狀ヲ得ルカ又ハ廢業スルカ若シハ假開業免狀ノ有効期限ヲ經過シタルトキハ所轄郡役所ヲ經由シテ該假開業免狀ヲ縣廳ヘ返納スヘシ
- 第九條 假開業獸醫死去又ハ逃亡シタルトキハ假開業免狀ハ其相續者相續者ナキトキハ親戚ヨリ十日以内ニ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ヘ返納スヘシ

(朱書)別紙

書式用紙美濃紙
正副四通

獸醫假開業免狀下付願

住所 寄留ナレハ本籍 族籍
ヲ併記スヘシ

氏 名

年 月 日

年 月 日

右 氏 名 印

戶 長 氏 名 印

農商務大臣宛

六 假開業獸醫營業區域及受持人名

○告示第七十六號 明治廿二年 六月八日
 明治廿年 告示第八十一號及全年 十一月 全第二百六號假開業獸醫營業區域并其受持人名
 左ノ通改正ス

假開業獸醫營業區域及受持人名

假開業獸醫營業區域	免許人氏名
東山梨郡ノ内 岡部、春日居、平等、上方力、八幡、岩手 中牧、諏訪、西保、釜和原、各村	東山梨郡八幡村 前田 利左衛門
東山梨郡ノ内 釜川、柚木、松里、七里、奥野田、各村	東山梨郡七里村 上野 唯 藏

私義何郡何町何番地ニ於テ獸醫開業仕度候間假開業免狀御下付被成下度別紙履歷書相
 添ヘ此段奉願候也

東山梨郡ノ内 初鹿野、鶴瀬、勝沼、等々、日川、加納 岩、日下部、後屋敷、山、菱山、小佐手休 息、納塚ノ各村	東山梨郡日川村 谷澤 勝藏
西山梨郡ノ内 能原、千代田、相川ノ各村	西山梨郡千代田村 未木 泰永
西山梨郡ノ内 甲府各町、全上府中組、全飯沼、鹽部、大 宮、千塚ノ各村	中巨摩郡松島村 水野 松太郎
西山梨郡ノ内 清田、山城、住吉、甲府稻門、朝井、國里 里道、甲運ノ各村	中巨摩郡二川村 吉岡 福作
中巨摩郡ノ内 二川、大里ノ各村	東八代郡相興村 駒澤 豐吉
東八代郡ノ内 木賊、田野、日影、祝、相興、御代咲、石蔵 一櫻、國立、清野ノ各村	東八代郡玉田村 植村 國作
東八代郡ノ内 玉田、英、錦、大野寺、竹居、奈良原、上黒 駒、下黒駒、藤ノ木、鶴飼ノ各村	東八代郡白井河原村 齋藤 伴左衛門
東八代郡ノ内 白井河原、金生、岡、高家、南八代、北八 代、増田、永井、米倉、富士見ノ各村	東八代郡龍川村 池谷 淺右衛門
東八代郡ノ内 龍川、豊富、上曾根、下曾根ノ各村	西八代郡三澤村

三澤、宮原、羽鹿島、楠甫、岩間、鴨狩津 向、共和、富里ノ各村	上田茂平太
西八代郡ノ内 三保、河頭、葛籠澤、落居、樋田、車田、切 房木、道ノ各村	西八代郡切房木村 赤池 利右衛門
西八代郡ノ内 大塚、上野、市川大門、印澤、高田、豊和、 八之尻、山家、九一色ノ各村	西八代郡山家村 前島 傳重
西八代郡ノ内 釜額、中ノ倉、根子、大磯小磯、氷船、芝 草、瀬戸、古關ノ各村	西八代郡瀬戸村 渡邊 平重
西八代郡ノ内 大河内、榮ノ各村	西八代郡大河内村 市川 平作
南巨摩郡ノ内 増穂、鯉澤、五開、大須成、等々ノ各村	南巨摩郡鯉澤村 青柳 安平
南巨摩郡ノ内 西島、手打澤、切石、夜子澤、八日市場、 伊豆、飯富、五箇、三里、湯島、奈良田、 各村	南巨摩郡西島村 笠井 源吉
南巨摩郡ノ内 福居、身延、本建、硯島、都川ノ各村	南巨摩郡福居村 高橋 治作
南巨摩郡ノ内 豊岡、睦合ノ各村	南巨摩郡福居村 高橋 莊藏
南巨摩郡ノ内 富河村	南巨摩郡富河村 成瀬 與十郎
中巨摩郡ノ内	中巨摩郡福岡村 九

宮本、清川、陸澤、福岡、松島、池田、吉澤 各村	横山 泰作
中巨摩郡内 龍王、玉幡、常永、小井川、花輪、忍、三條、 稻積、畷、鎌田、富田、豊住、貢川、押原、 西條各村	中巨摩郡 鎌田村 三神 儀右衛門
中巨摩郡内 御影、百田、源、飯野、在家塚、西野、田之 岡、上今諏訪、下今諏訪、下今井三惠、 鏡中條、藤田、南湖、淺原、五明、大井、明 穂、野々瀬、柳、塚原、平林、蘆安、落合、 豊、湯澤、秋山、川上各村	中巨摩郡 豊村 齊藤 長作
北巨摩郡内 登美、鹽崎、穂坂各村	北巨摩郡 鹽崎村 矢崎 謙源
北巨摩郡内 河原部、祖母石、大草、神山、旭、清哲、龍 岡各村	北巨摩郡 河原部村寄留 興石 文六
北巨摩郡内 駒城、新富、武里、圓野各村	北巨摩郡 菅原村 白砂市郎右衛門
北巨摩郡内 小淵澤、鳳來、菅原各村	北巨摩郡 鳳來村 名取 五左衛門
北巨摩郡内 秋田、大泉、小泉、清春、篠尾各村	北巨摩郡 秋田村 清水 直太郎
北巨摩郡内 熱見、甲、日野春各村	北巨摩郡 熱見村 淺川 貫道
北巨摩郡内	北巨摩郡 安都郡村

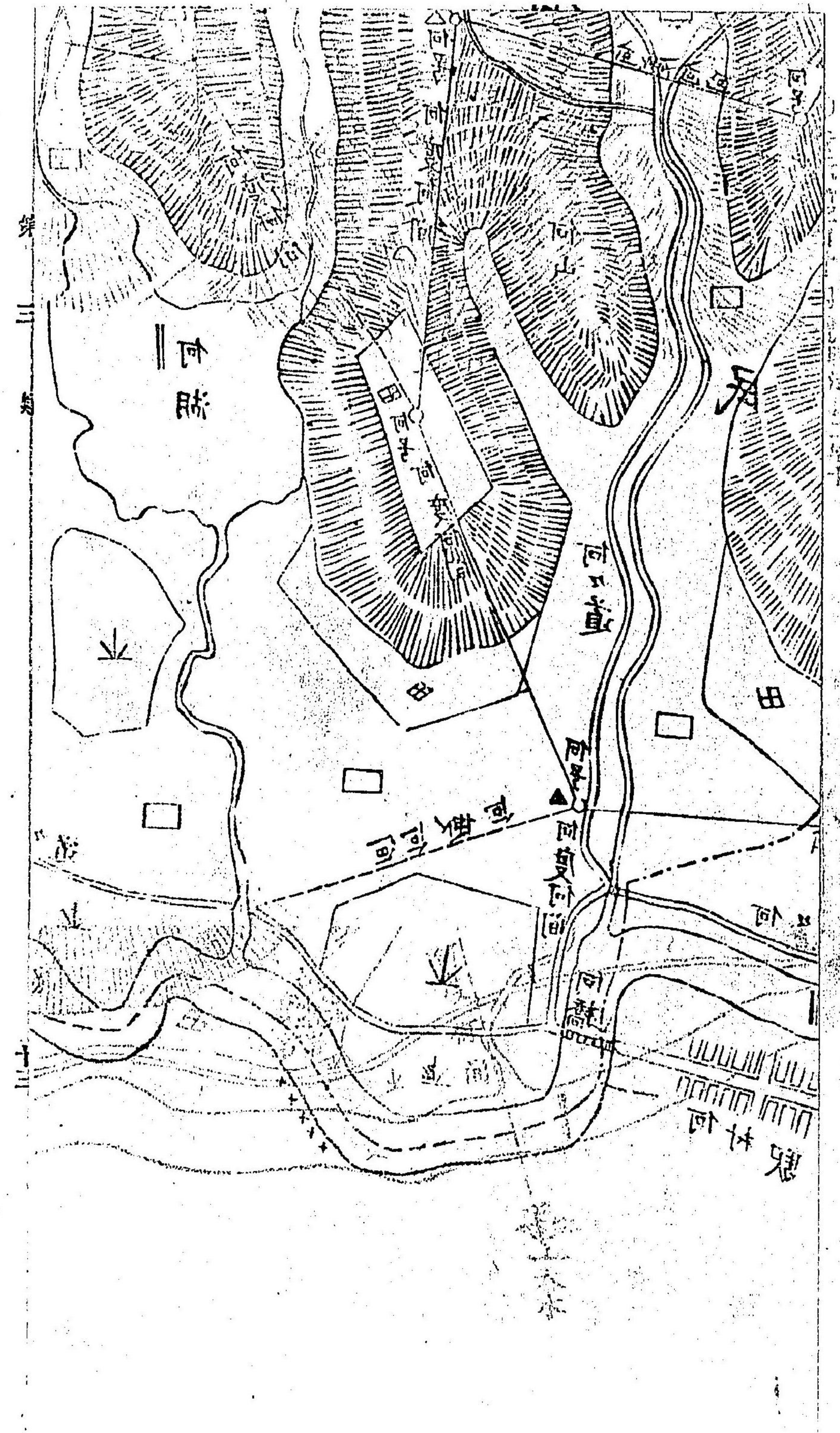
安都郡、安都玉、清里各村	清水 萬五郎
北巨摩郡内 東向、豊田、津金各村	北巨摩郡 穂足村 興石 金八
北巨摩郡内 朝神、穂足、若神子各村	北巨摩郡 穂足村 興石 準三
北巨摩郡内 江草、増富各村	北巨摩郡 江草村 窪田 豊作
北巨摩郡内 下條、中田、駒井、穴山各村	北巨摩郡 河原部村 岩下 新吉
北巨摩郡内 上手、三之藏、小笠原、更科各村	北巨摩郡 上手村 伊藤 彌右衛門
南都留郡内 瑞穂、福地、明見、中野、忍野各村	南都留郡 福地村 林 重吉
南都留郡内 大富、勝山、大嵐、長濱、鳴澤、大石、河口 各村	南都留郡 大富村 相澤 七郎右衛門
南都留郡内 桂、寶、開地、谷、三吉各村	南都留郡 桂村 山崎 彦左衛門
南都留郡内 禾生、盛里、秋山、道志各村	南都留郡 禾生村 都倉 小右衛門
北都留郡内 笹子、初狩、廣里各村	北都留郡 初狩村 奈良 福太郎
北都留郡内 賑岡、七保、大原各村	北都留郡 七保村 小泉 紋右衛門
北都留郡内 富濱、大目、甲東各村	北都留郡 富濱村 高橋 大作

北都留郡ノ内 梁川、巖、大鶴ノ各村	北都留郡大鶴村 池田、小平太
北都留郡ノ内 島田、上野原、桐原ノ各村	北都留郡上野原村 山下、富士太郎
北都留郡ノ内 西原、小菅、丹波山ノ各村	北都留郡西原村 奈良、助右衛門

(七) 借區開坑願圖面雛形

○甲第拾壹號 明治十七年
二月廿日

借區開坑出願之節日本坑法第三章第九款第二項之規則不了解ヨリ認方粗漏ノ圖面指出
候向キ有之不都合ニ付爾來別紙雛形ニ照準シ調製指出スヘシ
但從前借區開坑許可相成居候者モ右ニ準シ本月廿九日限リ指出スヘシ
右布達候事



(八) 借區開坑出願方
明治十七年

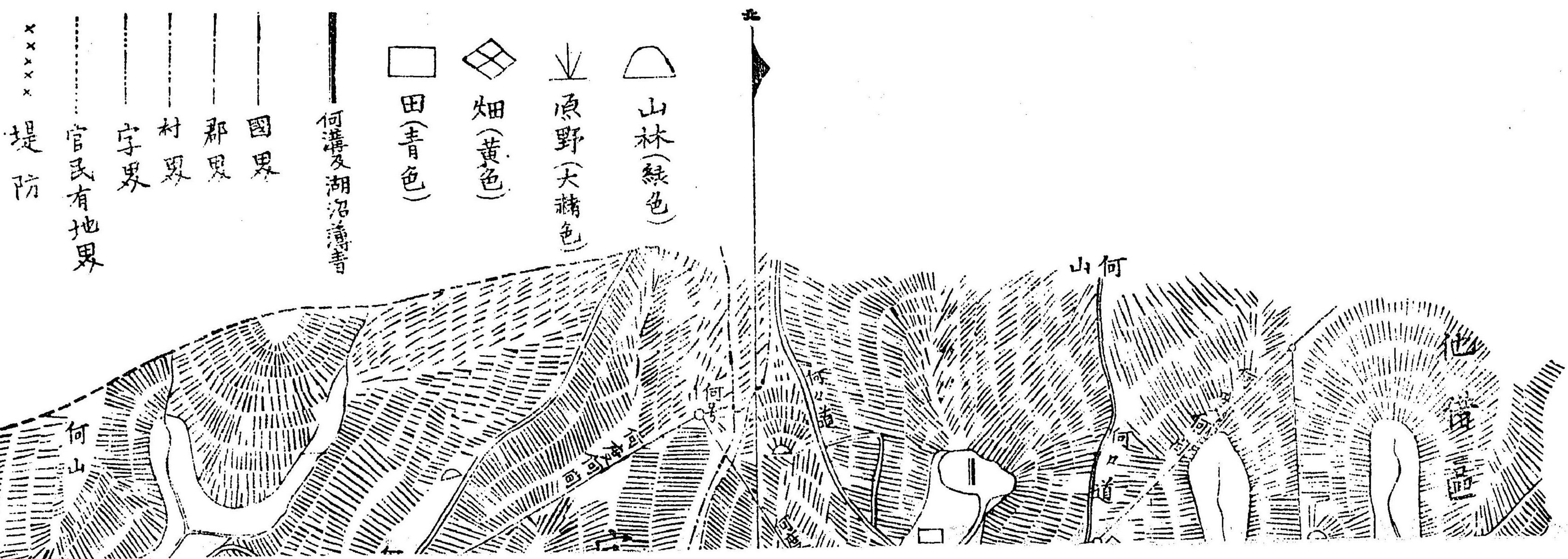
何縣何國何郡何村何字何

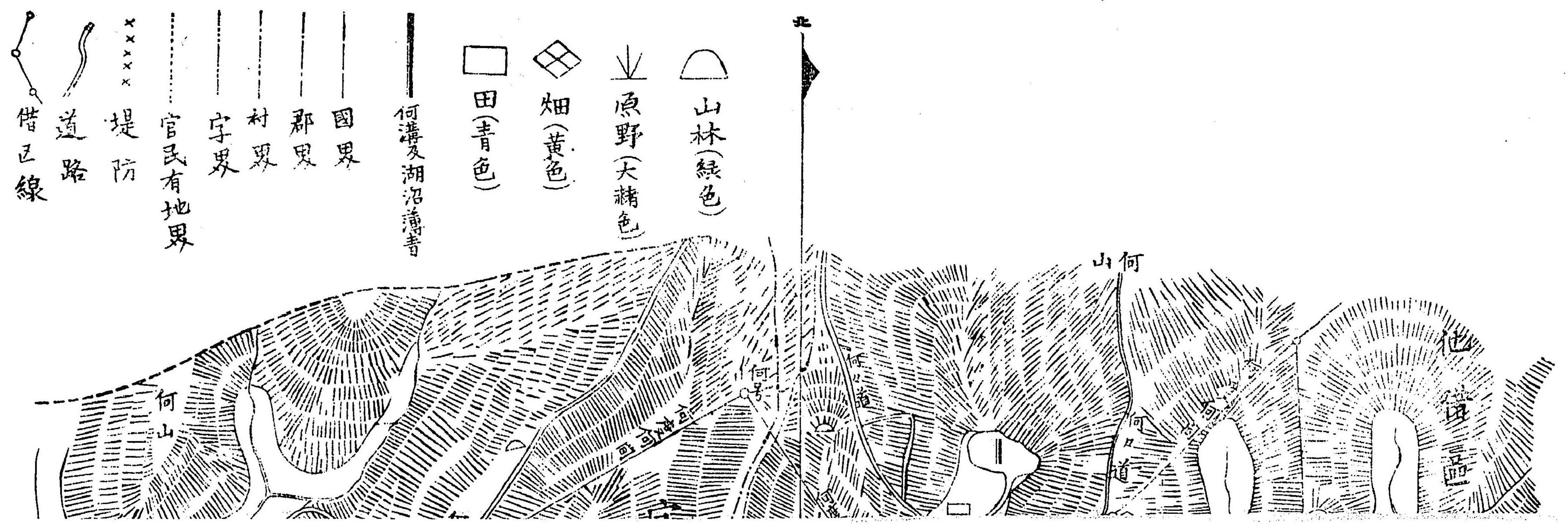
何鑛借區願地間尺度本形何分

官地字何何坪

民地字何何坪

合計何坪



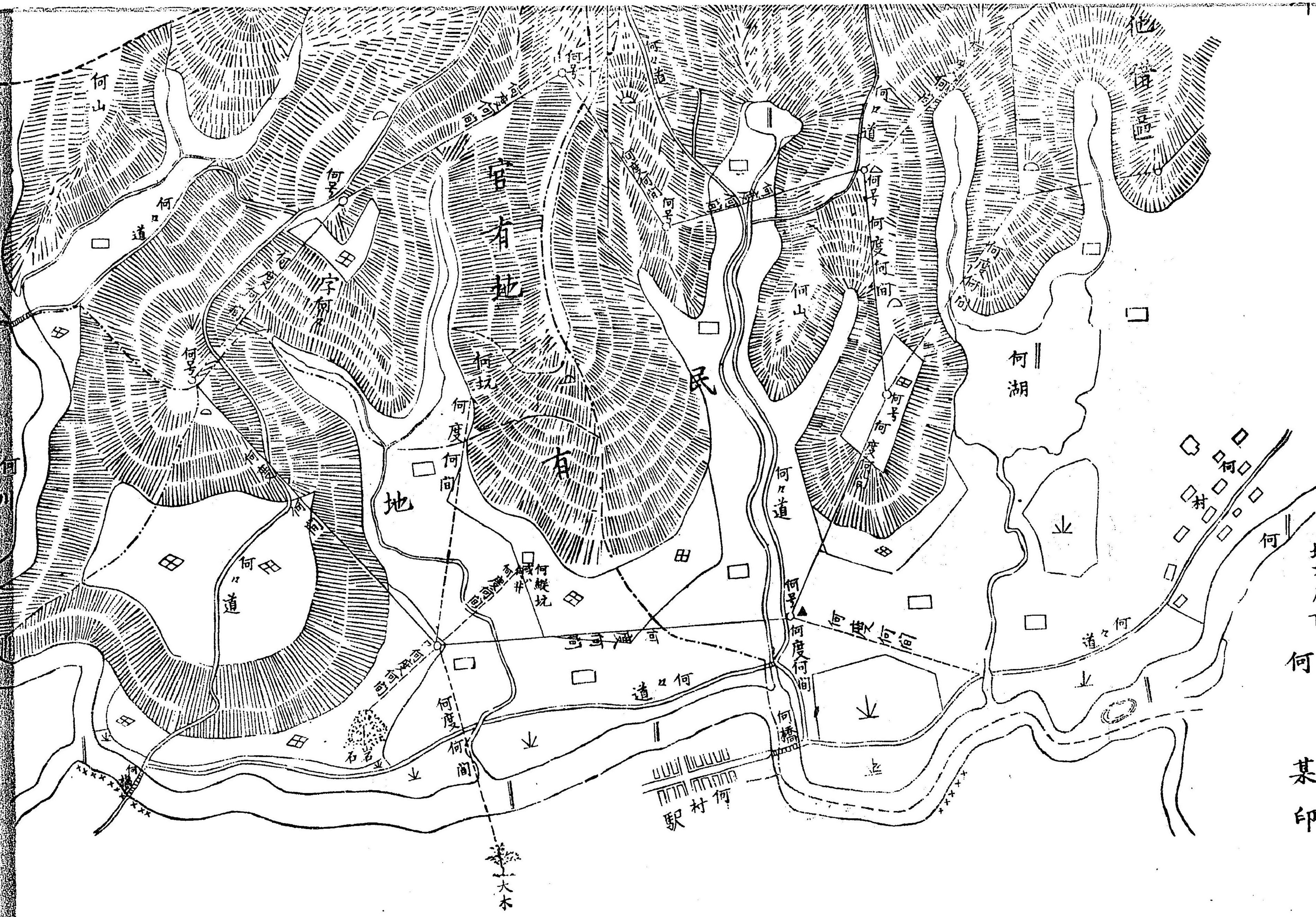


壹万坪以内ノ借区ニ於テハ岡上△或
 壹万坪以上ノ地ニテハ少クモ四ヶ所
 ノ深サニ打込ミ杭ヲ頭部凡貳寸ヲ地
 點トシテ測量ニ或ハ其杭ヨリ何方位
 ナレ岡ノ如ク其近傍他借区ノ間ハ少ク
 増減借区ノ片ハ原則ヲ制スル若干ノ増
 何部トアルハ基點ヨリ一二三路ト煩

村字何

間尺度本形何分一或八何實測用

何坪
何坪



何府何國何郡何村何番地

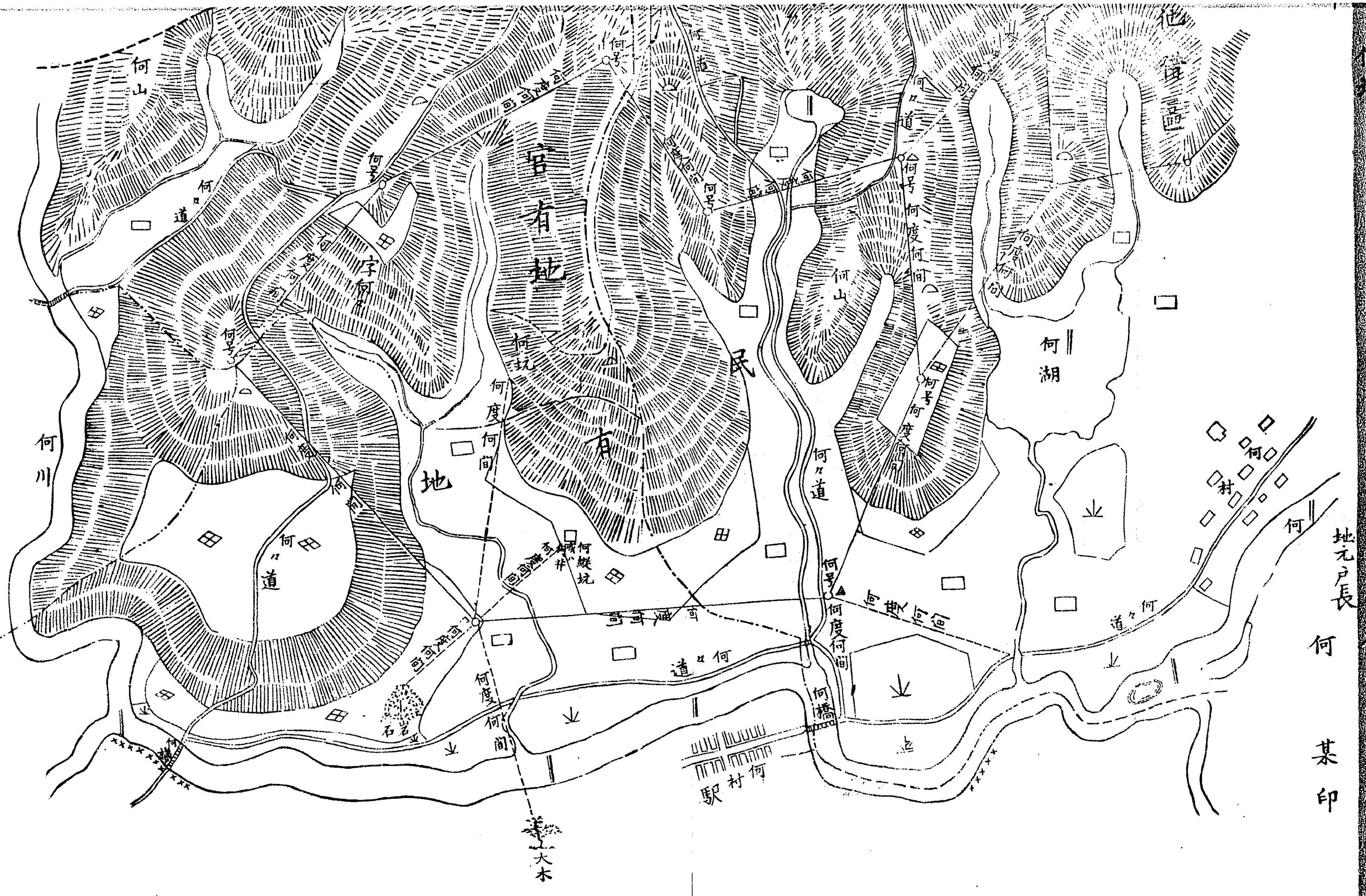
華士族平民
願人何

全全
地主何

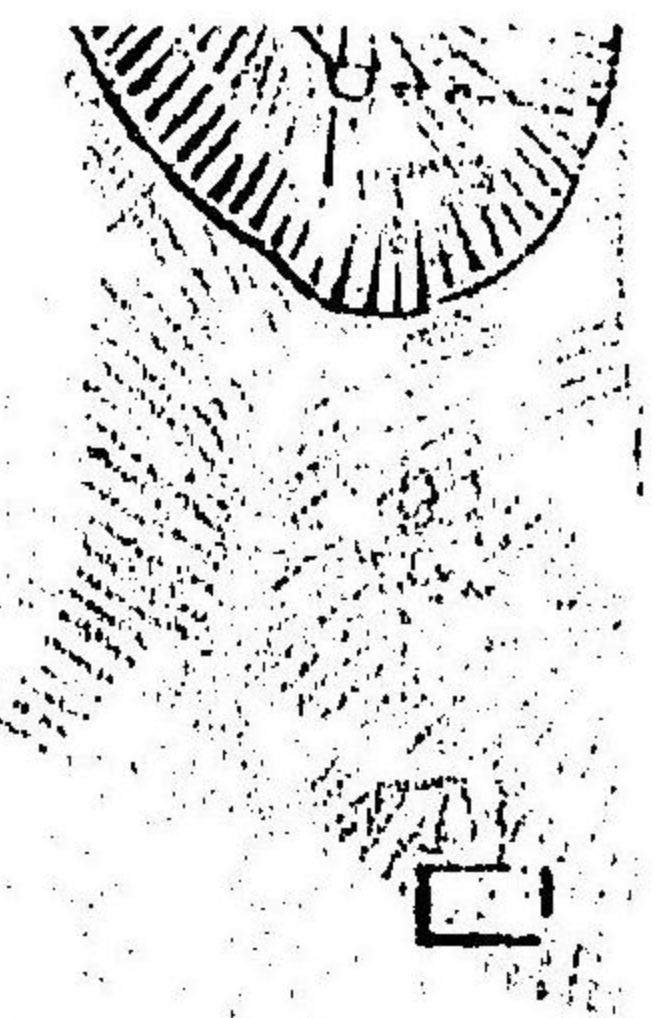
全
隣借区人何
地元戶長何

某印
某印
某印
某印

此ニ於テハ同上△或ハ▲印ノ如キ其区界ノ兩端ニ確乎トシテ容易ニ動カスヘカラサル物ヲ設クヘシ(家屋橋梁大木)
 テハ少クモ四ヶ所同様ノモノヲ置カザルヘカラス若シ其近傍(家屋橋梁大木)ナキ片ハ方四寸ニ下ラサル坑ヲ凡五尺
 坑ノ頭部凡或寸ヲ地面ニ出シ置クヘシ或ハ其近傍ノ道路ニ四ツ角ノ如キ地力又ハ郡界村界ノ傍坑アル片ハ其坑ヲ基
 礎ニ其坑ヨリ何方任何間ホテ測リ前ニ記セシ如キ方四寸ニ下ラサル坑ヲ同様ノ深サニ打込ミ之ヲ基點トスルモ妨ケ
 無ク他借区ノ間ハ少クモ或ハ其借区ノ何番坑ヨリ他借区ノ何番坑マテ方位及ヒ距離ヲ測リ圖面ニ記入シ置クヘシ
 然ルニ制表シ若干ノ増減區分ニ依ルヘシ減区ノ片ハ其区域ハ無彩色ニ製表ヘシ
 點ヨリ一二三階ト順次記載スヘシ



地元戸長
 何
 某印



(八) 借區繼年期出願方

○告示第百廿四號 明治廿二年十一月十六日

諸鑛山借區繼年期出願之義ハ其期限中出願スヘキ管ニ有之候條滿期ニ至リ其出願ヲ爲

サ、ル者ハ即廢業ト認メ証券引揚シヘシ

(九) 他府縣人ノ坑業ヲ出願スルキ代理者取定方

○縣令第九十三號 明治廿二年十一月廿四日

他府縣人民ニシテ管下諸鑛山坑業等既ニ許可ヲ得タル者及ヒ自今出願セル者ハ其坑業

地元町村ニ於テ相當ノ代理者ヲ定メ其人名等縣廳ヘ届出諸般代理處辨セシムヘシ

(十) 土石拂下規程

○縣令第六十二號 明治廿二年八月三十一日

土石拂下規程別紙之通之レヲ定ム

土石拂下規程

第一條 官有山野及其他ノ官有地ニ於テ土石ノ拂下ヲ出願セント欲スルモノハ別紙第

一號書式ニ準シ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 土石拂下ノ許可ヲ受ケタルトキハ速ニ代金ヲ完納シ其引渡ヲ受クヘシ

第三條 拂下ヲ受ケタル土石ノ採取及搬出期限ハ一ケ年以内トス但期滿ノ節ハ營業人

ノ自費ヲ以テ危險ノ虞ナキ様採取口ヲ修理シ檢査ヲ受クヘシ

第四條 前條ノ期限内ニ於テ採取及搬出セサルモノハ許可ノ効ヲ失シ其土石ハ官沒ス

但正當ノ事故ニ因リテ採取又ハ搬出シ得サルモノニ限り出願ニ依リ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第五條 土石拂下出願以前ニ於テ試掘ヲ爲サント欲スルモノハ半年以内ノ期限ヲ定メ別紙第二號書式ニ準シ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 凡ソ石ハ壹尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ分厘ヲ以テ算出シ土砂ハ六尺立方ヲ以テ一坪トシ坪以下ハ合勺ヲ以テ之ヲ算出スヘシ

第七條 此規程ハ日本坑法第壹章第三款所屬ノ土石類ニ限り施行ス

(第一號書式)

何石御拂下願

何郡何村字何々

一何

何程

此代金何程

但一切ニ付何程

此採取區域

縦何間横何間

採取又ハ搬出期限明治何年何月何日限

右ハ土石御拂下規程ヲ遵守シ保証人連署ヲ以テ別紙圖面ノケ所ニ於テ御拂下奉願候尤モ御聞届相成候上ハ速ニ代金上納可仕候也

何郡何町村何番地族籍

明治 年 月 日

何 ノ 某 印

全

保証人

何 ノ

某 印

山梨縣知事宛

(第二號書式)

何石試掘願

何郡何村字何々

一何石試掘場

何坪

此試掘期限 明治何年何月何日限

右土石御拂下規程第五條ヲ遵守シ別紙圖面ノケ所ニ於テ試掘仕度候間御聞届被成下度保証人連署ヲ以テ此段奉願候也

何郡何町村何番地族籍

何 ノ

某 印

全

保証人

何 ノ

某 印

山梨縣知事宛

(十一)

蠶種検査規則施行手續

○縣令第四十壹號

明治二十年四月三十日

明治十九年八月農商務省令第九號蠶種検査規則施行手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第三類

十五

蠶種検査規則施行手續

第一條 蠶種製造又ハ販賣ノ鑑札ヲ請フモノハ第一號書式ニ依リ住居地戸長ノ奥印ヲ受ケ管轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

第二條 鑑札ハ製造ト販賣トニ區別ス製造人ニシテ販賣ヲ兼スル者ハ兩様ノ鑑札ヲ受シヘシ

但販賣人ニシテ營業ノ爲メ外出スルトキハ該鑑札ヲ携帯スヘシ

第三條 蠶種検査所ノ名稱位置及其區域ヲ定ムルコト左ノ如シ
但時宜ニ依リ巡回検査スルコトアルヘシ

名稱	位置	區域
甲府検査所	西山梨郡甲府	西山梨郡
日川検査所	東山梨郡日川村	東山梨郡
鵜澤検査所	南巨摩郡鵜澤村	南巨摩郡
菲崎検査所	北巨摩郡河原部村	北巨摩郡
猿橋検査所	北都留郡大原村	北都留郡

第四條 夏蠶種ノ検査ハ毎年六月十日ヨリ始メ秋蠶種ノ検査ハ毎年八月一日ヨリ始ム
但夏秋蠶種ニシテ翌年孵化スヘキ分ハ春蠶種ノ検査期ニ依ル

第五條 春夏秋蠶種トモ検査ノ終期ハ其時々告示スヘシ

第六條 蠶種製造人ヨリ縣廳ニ届出ツヘキ蠶種ノ掃立枚數及製造額夏秋蠶種ハ豫算額ハ第二號書式ニ依リ住居地戸長ノ奥印ヲ受ケ管轄郡役所ヲ經由スヘシ
但春夏秋蠶トモ其掃立枚數製造額及ヒ製造豫算額等ノ届出期限ヲ經過スルモノニハ検査ヲ與ヘス

第七條 製造人ヨリ蠶種検査所ニ差出スヘキ蠶種ニハ第三號書式ノ書面ヲ添付スヘシ

第八條 蠶種組合員ノ製造ニ係ル蠶種ハ總テ蠶絲業取締所又ハ其組合事務所ノ檢認ヲ經タル後検査所ニ差出スヘシ

第九條 原種用ノ蠶種ニシテ検査上不合格ノモノ更ニ製糸用種ノ検査ヲ請フトキハ之ヲ許ス

第十條 一枚ノ蠶種ヲ截斷シテ販賣セントスル者ハ豫メ其裏面ニ截斷スヘキ區劃ノ線ヲ付シテ検査所ニ差出スヘシ

第壹號 書式

蠶種鑑札御下附願

私儀蠶種製造又ハ仕度候間製造販賣又ハ鑑札御下附被成下度此段奉願候也

郡町番地

年 月 日

氏

名

第 三 類

十七

第貳號 山梨縣知事宛

蠶種掃立枚數及製造額(豫算額)御届

春夏秋ノ區別	種	類	掃立枚數	蠶種製造額
春	赤	何	枚	何
夏	赤	何	枚	何
秋	赤	何	枚	何
合	計	何	枚	何
右之通ニ候間御届申上候也				

郡町番地

名

山梨縣知事宛

第三號

蠶種目錄

春夏秋ノ區別	種	類	原種	製糸用種
春	赤	何	枚	何
夏	赤	何	枚	何
秋	赤	何	枚	何
合	計	何	枚	何
右之通御検査被成下度候也				

郡町番地

名

某蠶種検査所宛

(十二) 蠶糸業組合規則

○甲第九號 明治十九年 二月八日

蠶糸業組合規則別紙之通制定候條該規則ニ準シ本月廿八日迄ニ組合及ヒ取締所相設ケ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クベシ

右布達候事

蠶糸業組合規則

第一條 蠶糸ノ業ニ從事スルモノハ郡又ハ町村ノ區畫ニ依リ左ノ種別ニ從ヒ組合ヲ設置スヘシ

但他管下ヨリ一時ノ行商人ニシテ本住地ノ組合証票ヲ携帯スル者並自用ノ繭蠶種

又ハ管内限リ織物用ニ供スル糸ハ此限リニアラス

一 蠶業組合

養蠶商業 蠶種製造業

一 生糸業組合

繭糸商業 蠶種商業

第二條 組合ノ名稱ハ山梨縣下何郡又ハ何町村若クハ地名其地方ノ總稱即チ万(蠶業)(生糸)組合ト稱スヘシ

第三條 蠶業組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 繭ハ春夏秋若クハ黃白ノ種類又ハ太陽殺蒸殺燥殺等混淆シタルモノヲ賣買

セサル事

第二項 製糸ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第三項 桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ全良ナラシムル事

第四項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第五項 蠶卵ノ製造法ヲ完全ナラシムル事

第六項 繭荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及ヒ製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第四條 生糸業組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 生糸ハ一梱又ハ一總若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ製造販賣セサル事

但等級ヲ區分シテ一梱トナシタルモノハ此限ニ非ス

第二項 生糸ノ製造及ヒ結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事

第三項 繰取アル揚雙ヲ用井尺度ヲ一様ナラシムル事

第四項 生糸ノ結束及總ノ量目ヲ一様ナラシムル事

第五項 提造島田折返造等ノ生糸ヲ變造シテ賣買セサル事

第六項 生糸檢査法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及製造上ノ弊害ヲ矯正スル事

第七項 生糸荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及ヒ製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第五條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

但委員撰定ノ上ハ縣廳ヘ届出ツヘシ

第六條 組合員ハ必ス其組合ノ証票ヲ携帯スヘシ

但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第七條 組合委員ハ毎ニ組合内ノ實況ヲ監査スヘシ

第八條 縣下西山梨郡甲府ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第九條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰シテ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但時宜ニヨリ委員外若クハ組合員外ノ者ト雖トモ撰舉スルヲ得

第十條 組合及ヒ取締所ニ關スル費用收支ハ各組合員集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 各地方蠶系組合取締所ノ氣應ヲ連迪スル爲メ各府縣下取締所ト協議ノ上全國中便宜ノ地ニ蠶系組合中央部ヲ設置スヘシ

第十二條 蠶系組合中央部ノ規約ハ農商務省ノ認可ヲ受クヘキモノトス

第十三條 蠶系組合中央部ノ役員ハ各地方蠶系組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スヘキモノトス

但時宜ニヨリ役員外ノモノト雖トモ之ヲ撰舉スルヲ得

第十四條 蠶系組合中央部ノ費用收支ハ各地方蠶系組合取締所役員ノ集議ヲ以テ定ムルモノトス

第十五條 組合及取締所ハ縣廳ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第十六條 右各條ノ外組合ニ於テ必要トナス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クル事ヲ得

(十三) 同業組合規則

第三 類

廿一

○甲第貳拾號 明治十八年三月十九日
同業組合規則別冊ノ通之ヲ定ム
右布達候事

同業組合規則

- 第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルトキハ適宜ニ地區ヲ定メ其區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ請フ可シ
- 第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ
- 第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ
第一 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱
第二 組合ノ地區及事務所ノ位置
第三 目的及方法
第四 役員ノ撰擧法及權限
第五 會議ニ關スル規程
第六 加入者及退去者ニ關スル規程
第七 費用ノ徵收及賦課法
第八 違約者處分ノ方法
右ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項

第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ必ス其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キ歟或ハ加盟ヲ拒ムヘキ正當ノ事情アルキハ縣廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事情及費用決算表ヲ毎年縣廳ニ報告スヘシ

第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ認可ヲ請フヘシ

○縣令第九十號 明治二十二年十二月廿二日

明治十八年三月 本縣甲第二十號布達同業組合規則第四條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

(參看)

○同業組合規則施行方

告示第四百十號 明治十八年八月十八日

本年三月 本縣甲第廿號布達同業組合規則ハ專ラ管内重要物産ノ改良蓄殖ニ關スル農商工業者ニ限リ施行スヘキ義ニ候條此旨告示候事

勸業通信規程

第三類

廿三

廿二

○達甲第四號 明治廿一年 二月三日

勸業通信規程左ノ通改正シ明治十二年 乙第八十二號勸業通信規則并ニ之ニ關スル從前ノ達ハ總テ廢止ス

勸業通信規程

郡 役 所
長 役 場

第一條 勸業通信規程ハ勸業事項通信報告ノ便ヲラシメテ圖リ縣廳農商務課ト各通信委員トノ間ニ於テ時々通信質問ノ便ヲ開キ農事工業商況ノ氣脈ヲシテ相聯絡セシムル爲メニ設クルモノトス

第二條 通信委員ハ縣廳ニ於テ各郡農工商實業者中ニ囑托シ年手當ヲ給ス但其人員ハ一郡一名トシ時宜ニ依リ一郡ニ二名又ハ數郡ニ一名ヲ置クコトアルヘシ

第三條 各通信委員ハ常ニ其郡内農事工業通商ノ景況ト將來勸奨ノ見込等ヲ詳記シ時々農商務課ニ通信スヘシ

第四條 前條通信ヲ分テ臨時報月報ノ二種トス其順序左ノ如シ
臨時報トハ事ノ重大又ハ急遽ニ係ルモノニシテ凡ソ左ノ事項トス

- 一 氣候不順ニシテ冷熱度ヲ失シ或ハ風雨水旱等ノ災ニ因テ農業蠶事等ヲ妨クルノ類
- 二 植物ノ虫害桑葉ノ霜災或ハ家畜傳染病ノ徵候又ハ蔓延スヘキ景況ノ類
- 三 新々ニ事業ヲ創起シ或ハ器械ヲ建設シタル者非常ノ災害ニ罹リ中途ニシテ廢業スル等ノ類
- 四 輸出入ノ權衡ニ係ル重大ナル物品生糸繭蠶種織物等ノ類ノ時價及其騰貴下落ノ理由

五 貿易上遼カニ其形勢ヲ變シタル有様譬ハ平常何品幾何ノ價格ヲ以テ本縣ヨリ幾許ノ高ヲ輸出セ且ツ其將來ノ景況ニ就テノ意見等
月報トハ事急遽ニ係ラス每一ヶ月間ノ事項ヲ蒐集シテ通報スヘキモノニシテ凡ソ左ノ事項トス

- 一 山野ヲ開キ廢田ヲ興シ新々ニ植物ヲ培養スル種類及ヒ其生育ノ景況等
- 二 新々ニ牧場ヲ開キ及畜養物生育ノ景況
- 三 耕作及養蠶等ノ方法ヲ改良セシ類
- 四 從來棄テ、顧ミカリシ山野ノ遺利ヲ拾ヒ有益ノ物産ヲ興セシ類
- 五 養蠶ノ盛衰興廢并ニ製糸所創設及ヒ其製品販路ノ景況
- 六 農具或ハ工業上便宜ノ機械ヲ用ヒ或ハ水力風力火力牛馬力等ニ因テ大ニ勞費ヲ減少セシ發明等ノ類
- 七 現時海外輸入品ニ代用スヘキ農工產物ノ繁殖或ハ新々ニ輸出シテ外國需用ノ適否ヲ試ミシ類
- 八 從來農產物ノ製産高ヲ増加シ又ハ減少セシコト及其品位ヲ改良又ハ退却シタル景況
- 九 縣下必需品ノ有餘不足及從來輸入セシ物品ノ増減及ヒ其價格ノ昂低并ニ產地等
- 十 農事工業上ニ於テ人民新々ニ一種ノ營業ヲ興起セシ類
- 十一 衆ニ擢テ、其業ヲ勉メ遺利ヲ興シ產ヲ開キ器械及模造品ヲ創造シ其他尙モ一般ノ公益トナルベキ事業ヲ起シ世人ノ標準トナルベキ者ノ姓名及ヒ其履歷等

第五條 凡ソ通信ハカメテ平易ノ文ヲ用ヒ虛飾失實ノ弊ナキヲ要ス其得失利害ニ關スルモノハ最モ注意スヘシ

第六條 報告書中筆述シ難キ物質ノ形狀等ハ圖畫ヲ添ヘ及ヒ數量ノ多端ナル統斗ニ係ルモノハ計表ヲ添フ可シ又々各郡村方言等ノ一般ニ解得シ難キモノハ傍訓ヲ施シ或ハ分註ヲ加フヘシ其物質形狀等摸寫シ難キモノハ現品ヲ送致スヘシ

第七條 農商務課ニ於テ各報ヲ檢點シ事實明瞭ナラザルカ或ハ疑義アリテ之レヲ質問スルカ若クハ別ニ問題ヲ發スルコトアルトキハ各通信委員ハ速ニ之レニ應答スヘシ

第八條 農商務課ニ於テハ各通信報告中ニ就キ一般ノ事業ニ關シ便益ヲ與ヘ又ハ當業者ノ參考トナルヘキモノト認ルトキハ或ハ之レニ本課ノ意見ヲ加ヘ内外ノ雜事雜説ヲ付記シテ之レヲ一般ニ報スヘシ但一郡一村ニ限り關係ノ事項ハ特ニ該郡村ノミヘ報告スルコトアルヘシ

第九條 各通信委員ニ於テ農工商事業ニ關シ疑義アルキハ農商務課ヘ質問スルコトヲ得ヘシ

附則

何人ヲ問ハズ農事工業及貿易通商ニ關スル事項ノ世益ト認メ又ハ其事項ヲシテ廣ク報告シテ世人ニ知ラシメ或ハ疑義ヲ質問セント欲スル者ハ此規程ニ依リ通信スルヲ得ヘシ但其事項ノ緩急及可否ハ農商務課ニ於テ取捨スヘシ

(十五) 富士川物貨運搬營業取締規則

○甲第九拾九號 明治十五年十一月廿七日

富士川物貨運搬營業取締規則別冊ノ通改定來ル明治十六年一月一日ヨリ施行ス

但明治八年五月番外達富士川通船規則並同十一年三月丙第廿六號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

右布達候事

富士川物貨運搬營業取締規則

第一條 富士川ニ據リ物貨運搬ノ營業ヲ爲サント欲スルモノハ營業規則保險受負方法ヲ設ケ縣廳ノ允可ヲ受クヘシ

第二條 允可ヲ得ル營業者ハ保險受負準備抵當トシテ公債証書地券ノ類ヲ縣廳ヘ納メ置クヘシ

第三條 營業者ハ發船毎ニ其積荷ハ送り券運輸依頼主及受繼者荷受主並簡數實數等ヲ詳記シタルモノ乗客ハ証券屬籍姓名上陸タル船頭ニ附シ改船所上下船ハ静岡縣下駿河國庵原郡岩淵村ニ出シ積荷數量乗客人員ノ檢査モノ船頭ニ附シ改船所上下船ハ山梨縣下甲斐國南巨摩郡鹽谷村ニ出シ積荷數量乗客人員ノ檢査ヲ受ケシムヘシ又積荷送券乗客証券ニ記載スル簡條ハ豫テ帳簿ヲ製シ詳細記載シ置クヘシ

第四條 上下通船共一經過毎ニ營業者ヨリ賦金五錢宛改船所ヘ上納スヘシ

但賦金納付ハ必ス通船券ヲ以テスヘシ

第五條 前項賦金通船券ハ豫テ見積ヲ以テ代リ金上納其所轄郡役所ヨリ受取置ク可シ

第六條 上下通船運貨ノ定額ハ改定ノ都度營業者ヨリ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ
第七條 營業者ハ毎月通船ノ艘數輸出入物貨個數乗客人員等ノ總計表ヲ製シ翌月十日迄ニ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツ可シ

第八條 營業者所有及ヒ所屬船艇ノ數並ニ船子人名豫テ所轄郡役所ヘ届出ツヘシ
但増減ノ都度同斷タル可シ

第九條 難破船アル時ハ乗客ハ勿論荷物ノ損傷ヲ防キ船方中相互ニ救援スヘシ
但乗客ノ死傷荷物ノ損亡等アルトキハ船頭ヨリ取敢ヘス最寄警察署分署交番所ニテモ妨ケナシ改

第十條 乘込人員及積荷ノ定量ハ左ノ通りタル可シ
船所ヘ届出猶其都度營業者ヨリ實況ヲ詳記シ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

一下リ船一艘人員十五人 但 船頭水主及乗客七歳未満ノ小兒ハ算入セス
一全上 荷物廿四個 但 一個十五貫目トシ惣貫數三百六十貫目

但旅客ト荷物トヲ積載スルトキハ荷物壹個六分ヲ壹人ノ割合トシ本條ノ定量ヨリ超過スヘカラス乗客ノ荷物凡三貫目迄ヲ手荷物トシ船頭荷物ハ食料並船中用

其他一人分五貫目迄ヲ手荷物トシ其餘ハ貫數ニ應ニ定量荷物ノ數ニ算入スヘシ
一上リ船壹艘食鹽四十八俵 但 小俵六貫目惣貫數二百八十八貫目
一全上 諸荷物廿四個 但 一個十二貫目惣貫數

但食鹽ト諸物貨トヲ積載スルトキハ食鹽一俵ヲ荷物一割ノ割合トシ船頭手荷物ハ前ニ全シ

第十一條 前項定量ニ充タサルニ發船スルカ或ハ中途ニ陸上ケテ爲シ積荷猶定量ニ及スト雖トモ營業者ノ出張所アル沿川各地ヨリ第三條ノ手續キヲ以証券或ハ送券ヲ渡シタル上ナラテハ旅客ヲ乗船セシメ又荷物ヲ積入ル可ラス

第十二條 船子ハ壹艘ニ付強壯ノ者四人以上トシ幼少未熟ノ者ヲ以テ定員ニ充テ又ハ夜中通船スヘカラス

第十三條 船艇破損ノ箇所ハ常ニ修繕ヲ加ヘ又船中必用ノ器械チ欠シ可カラス
第十四條 此規則ニ違背シタルモノハ改船所ニ於テ通船チ差止メ違警罪ニ依リ處分セラレタル上縣廳ニ於テ營業チ停止シ又ハ禁止スルコトアル可シ

第四類 土地並土功

(一) 土地開墾願出方

(印ハ朱書)

○甲第貳拾壹號 明治十五年一月廿八日

民有ノ土地ヲ開墾スルニ際シ、鍬下年期ヲ願出ルトキハ、實際要スル費用ト成功ノ後該地ヨリ得ヘキ收利ト豫算シ、其ノ費用ヲ償却シ得ヘキ方法別紙雛形ニ倣ヒ詳細取調願書ニ副ヘ可差出此旨布達候事

開墾費用並收利取調書

一開墾反別何反何畝歩

此人夫何人

但壹反ニ付何人積

此賃金何程

但壹人ニ付金何程

成功後壹ケ年收量

一麥 此金何程

但壹反ニ付何石

金何程

但壹石ニ付金何程

内 金何程

素地ニ係ル地稅並
地方稅協議費

殘收利金何程

種糶肥料

○桑縮大豆其他收量ノ物品
〔モ本文ニ倣ヒ記載スヘシ〕

右收利ヲ以豫算スレハ、何ケ年間ニシテ全費用ヲ償却可致見込ニ御座候右申仕候也

明治年月日

何一郡何村
何之誰
戸長
何之誰

(二) 耕地合併分裂ニ關シ地價訂正方

○甲第廿四號 明治十八年三月三十日

明治十五年 甲第九十號布達左ノ通告正ス

民有ノ耕地合併分裂等ノ爲メ畦畔ノミヲ廢設スルモノハ明治十七年第七號公布地租條例第十一條及ヒ第十三條第壹項前第二項ニ準シ月割ヲ以テ地租ヲ收除スヘキニ付新設ニ係ル分ハ同年本縣甲第四拾貳號布達地租條例心得書第十六條ニ準據シ廢除ニ係ル分ハ同第十七條ニ準據其時々地價訂正方郡役所ヲ經テ申出ヘシ

(三) 居住地外ニ所有地アル者等納稅代理者取定メ方

○甲第七拾貳號 明治十五年六月十日

居住地外ノ町村ニ於テ地所々有スル者又ハ居住町村ニ於テ地所々有スルト雖モ常ニ出稼等ヲ業トナスモノ、内單身ニシテ家族ナキモノハ地稅其他諸稅及町村費等納付方取扱ハシムル爲メ豫テ地元町村へ代理人ヲ置其氏名町村役所へ届ケ置ヘシ

但居住地外ト雖モ接近町村ニ居住ノ者ハ代理人ヲ置カサルモ妨ケナシ
右布達候事

(四) 居住地外ニ所有ノ地所反別地價等届出方

○甲第三拾四號 明治十七年五月廿三日

居住地外ノ町村ニ於テ地所々有スルモノハ地元戸長ノ認印ヲ受ケ其地ノ反別地價金共本籍町村役所へ届出ヘシ

但自今賣買讓與及ヒ反別地價金等ニ増減アルトキハ總テ本文ノ手續ヲ以テ其時々届出ヘシ

右布達候事

(參看)

○他町村民所有ノ地所其居住地ノ村役場へ通報方

訓令第廿九號 明治廿二年六月八日

郡役所戸長役場

縣下他町村ノ人民ニシテ現ニ其ノ村土地ヲ所有スル者アルトキハ其地目段別地價等取調所有者居住ノ戸長役場ニ通報シ自後賣買讓與等ニ係ル土地ニシテ所轄郡役所ヨリ所有者ノ異動通知ヲ得ザルトキハ其時々同様之ヲ通報スヘシ

(五) 土地分合筆取扱手續

○縣令第四十二號 明治廿年五月二日

土地分合筆取扱手續左ノ通之ヲ定ム

土地分合筆取扱手續

第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其ノ反別地價及ヒ野取圖ヲ添戸長役場ヲ經由シ郡役所へ出願スヘシ

第二條 戸長ハ 第一條ノ願書ヲ受領シタルトキハ奥書ヲナスヘシ若シ反別地價ノ分配ニ於テ不適當ト認ムルコトアルトキハ實地臨檢ノ上其旨ヲ說示シ承服セサルモノハ意見書ヲ作り郡役所ヲ經由シ縣廳ニ具申スヘシ

第三條 一類地ニシテ荒地成潰地成地目變換其他段別地目ノ異動ニ係ルモノハ一筆中分裂又ハ二筆以上合併ヲ爲ス場合ニ於テ其分裂ニ係ルモノハ殘地ヲモ丈量シ合併ニ係ルモノハ全部ヲ丈量スヘシ

(六) 水源ニ關スル民有山林取締心得

○第七十四號 明治十四年五月廿七日

本縣下河川大小幹支無慮二百餘流而シテ其河川ノ年々暴溢シテ民害ヲ爲スモノ一ニテ足ラス就中其害ノ尤著シキモノヲ富士川笛吹釜無鹽川ノ四川トス抑其害ノ由テ來ル所ヲ原ヌルニ川源ハ總テ山岳ニ發シ其水勢建瓶ノ如ク一降雨毎ニ山澤溪澗ノ土砂ヲ流下シ漸々河身ヲ埋メ水底ヲ堆クス故ニ其水常ニ旁流シテ終ニ本來ノ流心ニ復スル能ハス其夏潦秋霖ノ一回到ルニ當テハ縱橫汎濫堤ヲ決シ防ヲ潰セサレハ止マヌ爲メニ田園屋廬ヲシテ露然一掃シ居民其產ヲ失フニ至ルカ如キノ害既往ノ事蹟ニ就キ自ラ鑑戒スル所アリ然ルニ近年家屋ノ建築等盛ニ行ハレ工作製造ノ業年一年ヨリ増加スルヨリ山

腹溪間到ル處樹木ヲ濫伐或ハ開墾シテ田圃ト爲スカ故ニ水害年々ニ加ハルモノ、如ク今日ノ景況ヲ以テ見レハ假令巨額ノ費用ヲ以テ堤防ヲ修築スルモ其害ノ原因タル砂土ヲ扞止シ水勢ノ激怒ヲ殺シニ非サレハ其功蹟ヲ収ムル能ハス到底管下治水ノ要ハ砂土ヲ扞止ノ工事ヲ施シ効ヲ永遠ニ期スルノ外他ニ其道無之然レ共右工業ノ如キハ河川ノ景況ニ應シ施行其宜キヲ得サレハ徒ニ無益ニ屬スル而已ナラス又或ハ却テ釀害ノ虞ナシト云フ可ラス故ニ曾テ該工事ヲ施行スル岐阜縣下岐蘇川京都府下澗川ノ工場へ主任者ヲ派遣實地見究セシメ候處果シテ本縣河川ニ適應ス可キ見込ニ付差向キ害ノ最著シキ河川ノ水源ニ於テ工事ヲ創始シ漸テ以テ各河川ニ及ホサントス蓋シ此事業タル一朝能ク其ノ實効ヲ顯ハス可キモノニ非ス土功成テ雨露水源ニ保チ草木繁生シテ砂土ノ押出稍止ミ而シテ后始メテ水害ノ減輕ヲ見ル可ク畢竟該工事ノ主要ハ專ラ土砂ヲ扞止シ水源ニ樹木ヲ繁生セシムルニ有之候條山林樹木ノ取締等左ノ通可相心得此旨布達候事

水源ニ關スル民有山林取締心得

第一條 土砂扞止ニ緊要ナル民有山林ハ即今右工事施行スル場所ト否トニ拘ハラヌ安ニ樹木ノ伐採下草刈剪草根堀取石材切出レ等ヲ爲ス可ラス若シ不得止伐採等ヲ要スルモノハ所轄郡役所ヲ經テ伺出指揮ヲ可受事

第二條 土砂扞止ノ工事施行ノ場所民有地ニ係ル分ハ所有主へ相諮リ施行ス可キニ付豫テ相心得置ク可キ事

第三條 前條ノ場合ニ於テハ所有主若シ不得止差支ノ事情アルモノハ其土地ヲ買上ル

事可有之事

第四條 民有ノ山林水源ニ關スル地ニシテ樹木稀疎ノ場所ハ適應ノ樹木栽培可致事

(七) 民有林樹木伐採届出方

○甲第五號 明治十六年二月九日

明治十五年二月 太政官第三號布達ニ付テハ追テ其區域取調相達候迄當分ノ内左ノ場所ヲ除ク外民有林ノ樹木伐採セント欲スル時ハ其土地ヲ管轄スル郡役所ヲ經テ届出認可ヲ受ク可シ

- 一 平地ニシテ川除風除等ニ關係ナキ樹林
- 二 宅地内ノ樹木

三 河川溪澗ニ懸隔シ額雪又ハ雨水ノ爲メ岩石土砂流額及壅塞ノ患ナキ山林ノ芽樹

四 雨水又ハ額雪ノ爲メ道路或ハ田畑ヲ埋没スルノ患ナキ山林

○甲第五號 明治十六年二月九日

明治十五年二月 太政官第三號布達ニ付テハ調査上要用ニ付自今民有林ノ樹木伐採セント欲スルモノハ渾テ所轄郡役所ヲ經テ届出認可ヲ受クヘシ

但本條届出ニハ左ノ項目取調副申スヘシ

右布達候事

- 一 伐採ス可キ場所ノ地名反別字番號

一 木種員數回リ寸間ノ概略

一 間伐全伐ノ別及使用方

但間伐ナレハ全林ノ反別及木種員數回リ寸間ノ概略ヲ肩書スヘシ

一 伐採跡植栽方

一 地形及地質 嶮峻或ハ斜傾平坦歟石土砂地及乾濕地歟ノ別

一 接近川澤及道路等ヘノ距離 川ハ幹支流ノ別及其河名道路ハ街道ノ別

一 圖面 伐採スヘキ場所ノ區別並四隣地ノ地種方位及接近川澤道路ノ摸樣等ヲ詳記スヘシ

(八) 民有林樹木斫伐又ハ鑛物掘採届出方

○縣令第二十一號 明治二十年二月廿五日

自今左ニ掲グル民有林ノ樹木ヲ斫伐シ又ハ鑛物土石ヲ掘採セント欲スルモノハ其ノ土地所管ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ違フモノハ違警罪ノ刑ニ處ス

民有林樹木斫伐又ハ鑛物掘採ノ際届出方

一 河川溪澗ニ沿ヒタル傾斜山面ノ樹林

二 河川溪澗ニ沿ハサルモ既ニ土石崩潰ノ兆候アル山面ノ樹林

三 川除及公益ニ關スル風除ノ樹林

四 國道縣道ニ沿ヒタル傾斜山面ノ樹林

(九) 民有山野火入取締規則

第四類

○縣令第二十四號 明治廿一年三月廿九日

民有山野火入取締規則左ノ通相定ム

但明治七年^三本縣甲第六十一號全十年^三全第八十八號全十一年^三全第六十一號全十三年^四全第五十號全年^{十二}全第百八十一號布達自今廢止ス

民有山野火入取締規則

第一條 凡ソ民有ノ秣場茅野等肥饒ノ爲メ枯草ヲ燒ント欲スルモノハ左ノ各項ヲ具シ地元村長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ願出認可ヲ受クヘシ

一 火入期日

一 從前火入慣行ノ有無

一 箇所限地目反別及ヒ字番號

一 四至境界ヲ見ルヘキ實地繪圖面

第二條 前條ノ認可ヲ受ケタルモノハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接スル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者^{御料地ハ御料局靜岡支廳出張所又ハ同所分擔區吏}及警察署又ハ分署ヘ少シトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告スヘシ

第三條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉並塵芥ヲ除去シ或ハ土堤又ハ堀溝等ヲ設クヘシ

但道路谿谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニ非ス

第四條 日出前日没後及ヒ風勢穩カナラサルトキハ火入ニ着手スヘカラス

第五條 火入ノ期日間ハ延燒ノ防禦ヲ爲スニ足ルヘキ相當ノ人夫ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ル迄其場ヲ退クヘカラス

第六條 火入認可ヲ受ケタルモノト雖モ郡長警察官御料局官吏村長ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニ依リ他ニ延燒等ノ虞アリト思量スルトキハ直ニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

第七條 本則第一條認可ヲ受ケスシテ火入ヲ爲シタルモノ並第二條第三條第四條第五條ニ違背シ及ヒ第六條火入中止ヲ肯セサルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

共有山林保護取締要領

○訓令第七十四號 明治廿年九月九日

郡役所 戶長役場

山林ノ盛衰ハ國家ノ利害ニ關シ其保護ノ忽セニスヘカラサル義ハ勿論ノ處近時工事ノ用材薪炭ノ需用煩繁ナルニ際シ濫伐暴斫ノ弊甚シキニ及ヒ漸ク山林衰頽ノ傾向ヲ觀ル今ニシテ之レカ蕃殖保護ノ計畫ヲ爲サ、レハ將來如何ナル慘害ヲ被ムルニ至ルモ亦圖リ知ルヘカラス依テハ其ノ部下民林中一部落以上ノ共有ニ係ルモノハ共有者ヲシテ別紙要領ニ基キ保護取締規約ヲ設ケンメ戶長ヨリ縣廳ヘ届出認可ヲ受ケ施行候様取計ハルヘシ

右訓令ス

共有山林保護取締要領

第四類

- 一 山林中水源涵養土砂打止風除鎮雪止等荷シモ國土保安ニ係ルケ所ハ之レヲ區別シ樹木ヲ栽培養護スル事
- 一 伐木跡地又ハ林ノ地目ニシテ閑地ハ素ヨリ樹木稀疎ナルケ所ヘハ相當ノ苗木ヲ栽植スル事
- 一 凡ソ樹木ハ伐木年度ニ到ラサレハ伐採セサル事
- 一 萌芽再生スヘキ瀾葉樹ハ輪伐法ヲ以テ伐採シ且伐木期節ヲ定メ萌芽勢力ヲ養護スル事
- 一 林地境界ニ防火線ヲ設ケ火災延焼ヲ豫防スル事
- 一 共有人中ヨリ共有山林保護係ヲ置キ樹木植伐及ヒ其他山林保護取締ニ關スル事項ヲ擔任セシムル事
- 一 共有山林保護取締ニ關スル經費及ヒ其他諸般ノ協議ニ便スル爲メ共有人中ヨリ總代人ヲ選舉スル事一村又ハ數村ノ共有ニシテ村會ノ議定ニ付スルモノハ此限リニ非ス
- 一 總代人及ヒ保護係タルヲ得ヘキモノハ各其村内ニ現住スルモノニ限ル事
- 一 但盜罪詐偽取財ノ刑ニ處セラレ滿期後七ケ年ヲ經サルモノ及ヒ身代限リノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノハ總代人又ハ保護係タルヲ得サル事
- 一 共有山林保護取締ニ關スル一切ノ費用ハ一村又ハ數村ノ共有ニ係ルモノハ各村費一部落又ハ數部落ノ共有ニ係ルモノハ其部落人民ノ協議費ヲ以テ支辨スル事
- 一 但村費ヲ以テ支辨スルモノハ該村々費中ニ其費目増加ノ指揮ヲ乞フヘキモノ

トス

- 一 前項經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ハ戸長ニ於テ取調ヘ其村費ニ係ルモノハ該村會ノ決議ヲ取リ其部落人民ノ協議ハ總代人ノ評決ヲ取リ之ヲ施行スル事
- 一 規約書ニハ右ノ外總代人並保護係リノ數及其撰舉法并保護係ノ手當額其他保護取調ニ關スル要用ノ事項ヲ掲グル事

(十一) 堤塘樹竹保護方

○乙第七號 明治十年一月十七日

各區々長戸長土木掛

堤防ヲ堅硬ニスルハ竹木ヲ繁生セシムルニ有リ洪水ノ衝突ヲ防シモ亦竹木ニ據ラサルヲ得ス竹木ノ功用大ナリト云ヘシ然ルニ管下諸川ノ堤塘ヲ視ルニ適竹木繁盛スル有ルモ洪水一回蹂レハ水防ノ爲メ一時伐シ其跡ノ植繼ハ措テ問ハサルカ如此ニシテ歲月ヲ遷ス遂ニ竹木ノ遺類ヲ絶テ將來何ヲ以テ急水ヲ防カンヤ依之自今新堤築立ノ向ハ勿論兀堤或ハ伐採跡堤脚疎濶ノ場所ヘハ松竹ノ苗及ヒ柳枝等ヲ挿植シ繁盛保存ノ方等厚シ注意可致且新規植ノ向ハ各區土木掛ノ見届ヲ受ケ土木掛ニ於テハ年々三月三十日限箇所限取調可届出此旨相達候事

○乙第四十六號 明治十二年三月十八日

郡町村役所

堤防保存方ノ義ニ付テハ明治十年乙第七號ヲ以テ相達置候趣モ有之候處近來竹木生育ヲ名トシ堤脚ノ竹木等ヲ濫伐シ又ハ竊ニ盜伐スルモノ有之哉ニ相聞甚不都合ニ付不取締ノ儀無之候篤シ注意可致此旨相達候事

(十二) 堤塘竹林委託規則

○乙第五十四號 明治十九年 六月八日

郡役所 戸長役場

堤塘ノ竹林ハ治水上最モ有益ノモノニ付平素其町村ニ於テ篤ク保護ヲ加フヘキハ勿論ノ義ニ候處近時往々盜伐等ノ弊有之哉ニ相聞ヘ竹林ノ繁殖ヲ妨ケ隨テ治水上ノ障害不
少ニ付今般堤塘竹林委託規則別紙之通相定候條右規則ニ依リ保護取締行届候様可致此
旨相達候事

堤塘竹林委託規則

- 第一條 堤塘ノ竹林ハ自今其町村ニ委託シテ保護管理セシムヘシ
- 第二條 委託竹林保護取締ノ方法ハ戸長ニ於テ適宜之ヲ設ケ郡役所ノ認可ヲ得テ施行スヘシ
- 第三條 委託竹林保護手入レノ爲メ洗伐ヲ要スルトキハ其竹數取調ヘ郡役所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ
但洗伐シタル竹ハ現品又ハ代價ノ半額ヲ該町村ニ給與スヘシ
- 第四條 委託竹林洗伐ノ期節ハ八月ヨリ十二月マテトシ其洗伐スヘキ立竹ハ發生後二年以上ヲ經タルモノニ限ルヘシ
- 第五條 委託竹林ハ其町村ノ堤防修築用ニ限り相當代價ノ半額ヲ以テ拂下シルコトアルヘシ
- 第六條 出水ニ際シ其堤防ノ水防用ニ供シ及ヒ水防ノ障害トナルヘキ立竹ハ前各條ノ制限ニ拘ハラズ臨機伐採スルヲ得但此場合ニ於テハ其伐採ノ事由及ヒ該竹數取調ヘ速ニ郡役所ヘ届出ヘシ

- 第七條 各町村ハ每歲七月委託竹林ニ於テ其年發生シタル竹數及該竹林盛衰ノ狀況取調ヘ郡役所ヘ届出ヘシ
- 第八條 委託竹林内ニ於テ盜伐其他異狀アリタルトキハ其都度速ニ郡役所ヘ届出ヘシ
- 第九條 委託竹林保護取締ノ費用ハ其町村費中土木費ヲ以テ支辨シ該竹林洗伐ニ依リ給與ヲ受ケタル現品又ハ代金ハ其町村ノ土木費ニ充用スヘシ
- 第十條 町村ニ於テ此規則ニ違背シ若クハ保護取締ヲ怠タルトキハ其情狀ニ依リ委託ヲ解除スルコトアルヘシ

(十三) 公園地保護取締委託

○告示第八十八號 明治廿一年 六月廿三日

甲府太田町公園地保護取締ノ義今般甲府錦町外三十六ヶ町ヘ委託候條自今該園地内ヲ借用セントスルモノハ右役場ニ就キ公園地貸渡條規熟覽ノ上同役場ヘ願出ヘシ
(參看)

○公園地貸渡條規

訓令第五十二號 明治廿一年 六月廿一日
甲府太田町公園地保護取締ノ義今般甲府錦町外三十六ヶ町ヘ委託候ニ付該園地貸渡之義ハ別紙條規ニ據リ戸長ニ於テ取扱處分ノ都度所轄郡役所ヲ經テ報告スヘシ

但年期ヲ以テ新ニ貸渡スモノ及ヒ條規第十七條ニ依リ處分ヲ要スルトキハ
經伺ノ上執行スヘシ
公園地貸渡條規

第一條 衆庶觀樂若クハ便利ノ爲メ左ノ業ヲ營ムモノニハ公園地内ヲ貸渡スヘシ

但園内ノ都合ト同業ノ多寡及ヒ建物構造ノ模様ニ依リ許可セサルコトアルヘシ

- 一 休憩所席貸ノ類
- 一 文書圖書寫真骨董植木盆栽等販賣展覽所ノ類
- 一 遊技演藝遊觀場ノ類
- 一 料理店ノ類
- 一 温泉業ノ類

第二條 公園地内ヲ借用シ前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ其地坪並ニ營業ノ種類ヲ
記載シ建物若クハ小屋掛構造圖面ヲ添ヘ所轄戸長役場ヘ願出ヘシ

第三條 年期貸渡ハ十五ヶ年以内トス

第四條 地所貸渡許可セシ日ヨリ五十日以内家作ニ着手セサルモノ又ハ其着手セシ月
ヨリ十ヶ月ヲ過キ開業セサルトキハ貸渡ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 借地人ハ相當ノ借地料ヲ納ムヘシ其徵收期限ハ一般ノ官地貸渡ノ例規ニ依ル

第六條 借地人ハ借地ハ勿論其他之ニ接續シタル地ニ於テ割當テラレタル區域内ノ掃
除ヲ負擔スヘシ

第七條 借地人ハ所轄戸長役場ノ承認ヲ受ケスシテ他人ヲ宿泊セシムヘカラス

第八條 借地人ハ自家ノ雇人ハ勿論來客ト雖トモ風俗ヲ亂シ又ハ猥褻ノ所業ヲ爲サシ
ムヘカラス

第九條 借地區域内ト雖トモ新ニ家屋ヲ設ケ又ハ在來ノ建物模様換テ爲サントスルト
キハ所轄戸長役場ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第十條 借地人ハ借地區域内ヘ草木ヲ植付又ハ塙垣ヲ設クル等渾テ風致ニ關スルモノ
ハ所轄戸長役場ノ差圖ヲ受クヘシ

第十一條 借地人ハ常ニ掃除受持區域内ヲ清潔ニシ風烈ニハ水ヲ濫キ又積雪ハ速カニ
掃除スヘシ

第十二條 所轄戸長ニ於テ借地人家屋ノ修理及ヒ掃除等不都合ト認ムルトキハ其借地
人ニ對シ適宜日限ヲ定メ修理及ヒ掃除ノ仕直方等指揮スルコトアルヘシ

但本條指揮ニ隨ハサルトキハ所轄戸長ニ於テ直ニ之レカ修理掃除ヲ爲シ其費用ヲ
徵收スルコトアルヘシ

第十三條 借地人ニ於テ借地繼年季ヲ請ハント欲スルトキハ期限前所轄戸長役場ヘ願
出許可ヲ受クヘシ右期限ヲ過キ申出テサルトキハ返地シタルモノト見做スヘシ

第十四條 借地人ニ於テ所有ノ家屋建物ヲ他人ヘ賣渡貸渡シ若シクハ讓渡ントスルト
キハ双方連署ヲ以テ所轄戸長役場ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第十五條 借地人ニ於テ借地年期明又ハ事故アリテ返地スルトキハ其返地シタル日ヨ

リ五十日以内ニ家屋ヲ引拂跡地ハ元形ニ復スヘシ
但本條ノ場合ニ於テ自費植栽ノ樹木ヲ移植セント欲スルトキハ所轄戸長役場ノ認
可ヲ受シヘシ

第十六條 借地ノ許可ヲ受ケタルモノハ別ニ定ムル書式ニ依リ受書ヲ出スヘシ
第十七條 第五條第七條第八條第九條第十條第十四條ニ違背シ又ハ第十二條管理者
ノ指揮ニ隨ハサルモノ又ハ風俗ヲ亂ルヘキ行爲アリト認ムルトキハ一時營業ヲ差止
メ或ハ貸渡年限中ト雖トモ立退ヲ命スルコトアルヘシ

(請書式)

御 請 書

今般何々^{業名ヲ}營業ノ爲メ公園地ノ内拜借相願御許可相成候ニ付テハ公園地貸渡條規
堅ク相守可申候若シ相背キ候トキハ該條規第十七條ノ如ク御處分相成候共申分無之候
依テ御請書差上候也

年 號 月 日 何 郡 何 村町 之 誰

山梨縣西山梨郡甲府錦町外卅六ヶ町

〔十四〕 墓地及埋葬取締細則^{第十類警察ノ條}
〔十五〕 共葬墓地外ニ於ル埋葬禁止^上

〔十六〕 寺院舊境内墓地下渡方

○甲第三十三號^{明治十八年四月廿二日}
寺院舊境内ニ係ル從前檀家共葬ノ墓地及ヒ寺院單用墓地ニシテ官有地第二種ニ屬スル
モノハ自今民有地第二種ニ編入シ檀家共葬墓地ハ地元町村ノ共有トシ寺院單用ニ係ル
墓地ハ其寺院ノ所有トシテ下渡スヘシ
但地元町村ニ下渡ス墓地ニシテ從前檀家ノ故ヲ以テ他町村ノ者埋葬シ來リタルモノ
ハ其慣行ニ從ヒ今後仍ホ埋葬スルヲ得ルト雖トモ地元町村ノ規定ニ從ヒ墓地ニ關ス
ル相當ノ費額ヲ納付スヘシ
右布達候事

(參 看)

○共葬墓地ハ町村共有地ニ定ムヘキ件

乙第五十九號^{明治十八年五月廿一日}

郡役所戸長役場

共葬墓地ハ一町村一ヶ所ニ限リ設置スヘキ筈ニ候處實際ノ便宜上不得巳モノ
ハ一町村内ノ一村落又ハ數村落ノ埋葬ニ充ナル爲メ數ヶ所ニ設置スルヲ許ス
ト雖トモ墓地及埋葬取締細則第三條ノ通總テ其町村ノ共葬地タルヘキニ付該
地所ハ則チ町村共有地ニ相定ムル義ト心得ヘシ此旨相達候事
但從前一部落若シハ數部落共有トシテ地券下附シタル分モ之アラハ此際書
換下附スヘシ候條書換方可申出事

第 四 類

(十七) 砂防工事施行ノ個所ニ係ル禁制

○縣令第十二號 明治十九年十一月廿七日

富士川流域源流諸山中砂防工事施行ノ箇所ニ於テ左ノ所業ヲ禁ス違フモノハ違警罪ノ刑ニ處ス

但其箇所ハ別ニ告示スヘシ

- 一 砂防ノ爲メ新規植付タル松杉其他雜木ヲ拔取又ハ伐採スル事
- 一 砂防ノ爲メ新規植付ヲナシタル山地ニ於テ火ヲ焚キ土石ヲ堀取シ落葉ヲ掻取リ下草ヲ刈リ及牛馬ヲ飼養シ又ハ之ヲ其植樹ニ繫ク等ノ事
- 一 其他施設ノ工事ヲ毀損スヘキ諸般ノ所業

(參看)

○砂防工事施行ノ個所

告第百一號 明治廿年四月二日

明治十九年縣令第十二號富士川流域源流諸山中砂防工事施行ノ個所左ノ如シ

右告示ス

中巨摩郡野々瀬村地内一之瀬川通

- 一 宇日向畑
- 一 全一ノ澤
- 一 全抄子岩

一 全大日蔭

一 全青岩

一 全北谷

一 全仙尻

一 全日向畑下

全郡同村地内秋山川通

一 字南畝澤

一 全北畝澤

一 全眞虫岩

一 全雨鳴山

一 全郷士澤

東八代郡豐富村地内淺利川水源通

一 字畑草岩

一 全藤房澤

一 全大澤

一 全二澤

一 全蛇岩

一 全奈良澤

- 一 全源太郎岩
- 一 全七日神立
- 一 全欠腰
- 一 氷神森
- 全郡同村地内七覺川通
- 一 字大崩
- 一 全クツ掛ケ
- 一 全猫又
- 一 全鳩口
- 一 全北澤
- 全郡瀧川村地内瀧戸川通
- 一 字唐澤
- 一 全ヒリ澤
- 一 全サクマン澤
- 一 全床別當
- 一 全水出澤
- 一 全大平澤

- 一 全小寺平澤
- 一 全築石

告示第七拾九號 明治廿二年 六月十五日

明治十九年縣令第十三號富士川流域御勅使川水源砂防工事施行ノ個所左ノ如

中巨摩郡源村地内御勅使川流域

- 一 字駒澤
- 一 字后菴澤
- 一 字蛭食澤
- 一 字城山
- 一 字鹽澤
- 一 字社澤
- 全郡蘆安村地内全川流域
- 一 字唐松澤
- 一 字カクシノ澤
- 一 字水澤
- 一 字日向平太澤

(十八) 河身改修工事落成ノ個所ニ於ル禁制

○縣令第二十六號 明治廿一年 三月廿九日

第四類

富士川流域河身改修工事落成ノ個所ニ於テ左ノ所爲ヲ禁ス犯スモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

但工事落成ノ個所ハ別ニ告示スヘシ

- 一 改修工事落成シタル個所ヘ舟筏ヲ繫留シ權棹ヲ突立ル事
- 一 上裝面ニ於テ漁業或ハ洗濯干物等ヲ爲ス事
- 一 施行ノ個所ヘ植付タル草木ヲ折リ或ハ堤外地ヲ掘取且猥ニ往來ヲ爲ス事
- 一 前各項ノ外護岸沈床等ヲ毀損スヘキ所爲

(參看)

○河身改修工事落成ノ個所

告示第六拾壹號 明治廿一年 四月廿一日

本年縣令第三十六號富士川流域河身改修工事中落成ノ個所左ノ如ク

釜無川西岸

一 中巨摩郡田之岡村地先

合 川東岸

一 全 郡玉幡村地先

全 川東岸

一 全 小井川村先地郡

告示第五十五號 明治廿二年 四月六日

昨明治廿一年三月縣令第二十六號富士川流域河身改修工事中落成ノ箇所全年

四月第六十一號ヲ以テ及告示置候處猶落成ノ箇所左ノ如ク

釜無川西岸

一 中巨摩郡上今諏訪村地先

富士川東岸

一 西八代郡豐和村地先

全

一 全 郡羽鹿島村地先

(十九)

量水標建設ノ個所ニ於ル禁制

○甲第五十五號 明治十六年 九月廿五日

當縣下富士川釜無川笛吹川各筋左ノ場所ニ内務省土木局於テ量水標建設相成候條標柱十間以內ニ於テ游泳又ハ漁業ヲ爲シ及ヒ船浮等ヲ繫クヲ禁ス

右布達候事

富士川筋量水標位置

南巨摩郡鯉澤村地内

全 郡切石村地内

全 郡身延村地内

全 郡陸合村地内

第五番

第二番

字竜ヶ鼻

字伊勢ノ岩

西八代郡市川大門村地内

字 押切

全 郡大河内村地内

字 關谷

全 郡榮村地内

第 壹 番

釜無川筋同

北巨摩郡鹽崎村地内

字 落合

中巨摩郡龍王村地内

字 重箱岩

笛吹川筋同

中巨摩郡二川村地内

荒川落合

(二十) 河川ニ關係アル水車新設願出方

○縣令第五十六號 明治廿年 七月一日

自今水車新設ニシテ河川ニ關係アルモノハ縣廳へ其他ハ渾テ郡役所へ願出許可ヲ受クヘシ

(廿一) 堤防工事人夫課出法

○甲第三拾四號 明治十六年 六月廿九日

堤防工事人夫課出法別紙之通相定メ明治十六年度 十六年 七月一日ヨリ施行ス右布達候事

堤防工事人夫課出法

第一條 地方稅ヲ以テ經費ヲ支辨スル堤防ノ工事ニ使役スル人夫ハ左ノ規程ニ從ヒ沿

河町村ニ賦課スヘシ

第二條 前條ノ人夫ハ沿河町村ノ地價金百圓ニ付壹人ノ割合ヲ以テ之ヲ課ス但數町村

合併シタル町村ニシテ從前ノ慣行ニ依リ堤防ニ關係ナキ舊町村ノ地價ハ之ヲ除ク

前項ニ依リ堤防ニ關係ナキ舊町村ノ地價ハ之ヲ除クト雖モ其課出ハ全町村ニ於テ之

ヲ負擔ス可キモノトス但土地ノ狀況ニ依リ便宜負擔ノ輕重ヲ定ムルヲ得

第三條 人夫課出ノ方法ハ町村會ノ評決ヲ以テ之ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ得テ施行ス可シ

第四條 第二條ノ課役ハ沿河町村通常一周年度ノ定限トス此定限ニ超ルモノハ地方稅

ヨリ支辨ス若シ工事ノ都合ニヨリ定限迄課出スルニ及ハサルトキハ其殘餘ニ屬スル

分ハ之ヲ免除ス

第五條 此法ハ町村費ヲ以テ支辨スル堤防ノ工事ニ關セサルモノトス

(參 看)

○堤防工事人夫課出法調理手續

乙第六十號 明治十六年 八月十七日

郡 町 村 役 所

本年 六 月 甲第三十四號布達堤防工事人夫賦課法實施ニ付テハ調理ノ手續別紙ノ

通可心得此旨相達候事

但十六年度ニ於テ賦課スヘキ地價ノ取調ハ別紙第二條ノ手續ヲ以テ本年八

月一日ノ調査額ニ據リ九月二十日迄ニ届出ヘシ

堤防工事人夫賦課法調理手續

第一條 賦課法第二條ニ依リ人夫ヲ賦課スヘキ町村ノ地價ハ毎年一月三十一

第 四 類

日ノ調査額ヲ以テ翌年度ノ賦課額ヲ定ムル標準トス

第二條 戶長ハ前條賦課ヲ受クヘキ町村若クハ組限ノ地價額取調第一號書式ニ依リ毎年二月五日迄ニ郡役所ニ届出ツヘシ郡役所ハ之ヲ調査シ一郡内取纏メ第二號書式ニ依リ全月十日迄ニ縣廳ニ届出ツヘシ

但町村若クハ組限リノ地價合計拾圓未満ノ端數ハ記載スルニ及ハス

第三條 前條ノ届出ヲ爲シタル後水害等ノ爲メ損地ト爲リ地價額ノ減少ヲ致シタルトキハ其事由及減少額取調其時々届出ツヘシ其他荒地起返及地種地目ノ變換等ニヨリ増減ヲ生シタルモノハ前條ニ從フヘシ

第四條 賦課法第四條ノ定限ハ定式臨時通常ニノ係ル分工事ニ通用シ猶餘剩アルトキハ之ヲ免除スルモノトス但非常ノ災害ニ係ルモノハ此定限外トス

第五條 數町村組合負擔ニ係ル堤防ノ工事アルトキハ課出法第二條ニ據リ各町村ヨリ課出ス可キ定限人夫ノ内ヲ以テ先ツ組合工事ニ充ツ其組合町村負擔ノ歩合ハ豫メ聯合町村會ノ評決ヲ取リ之レヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ但組合工事ニ使用ノ殘餘ヲ以テ各自町村負擔ノ堤防工事ニ課出シ尙ホ殘餘又ハ不足ニ屬スルモノハ第四條ニ據テ處分スヘシ

第六條 賦課法第二條第二項但書ニ依リ負擔ノ輕重ヲ定ムルハ先其堤防ニ關係ノ有無厚薄ヲ量リ其直接ニ關係ナ有セサル部分ニハ平時ニ在テ全ク賦課セス非常ノ場合ニ於テ之ヲ課シ又ハ平常直接ノ關係アル部分ニ比シ幾分ヲ

輕減シテ之ヲ賦課シ又或ハ其ニ直接ノ關係アルモ其厚薄ヲ量リ輕重ノ差等ヲ立ツル等町村會ノ評決ヲ取リ賦課法第三條ニ依リ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

(第一號書式)

(印ハ朱書)

堤防工事人夫賦課地價額

何 郡 村

一 地價金若干圓

十六年度以後其前年ニ對シ増減ヲ生スルモノハ左ノ如ク朱書スヘシ

○内

○某 組ノ分

○金 圓

○起返又ハ何々ニヨリ前年ヨリ増ス

○外

○金 圓

○損地又ハ何々ニヨリ前年ヨリ減ス

合併ノ町村ニテハ左ノ如ク内譯スヘシ

從前官普請所 何川

地價金

某 組

全

某 組

右全町村又ニテ負擔ス

全町村ノ内關係ナキ組アルトキハ左ノ如ク外書スヘシ

外某組ハ堤防ニ關係ナキヲ以テ除ク

右之通取調及御届候也
年 月 日

郡 長 宛

某村戸長何某

(第二號書式)
某郡下堤防功事人夫賦課地價金額表
明治何年何月何日調査

町 村 名	舊町村名	地價金額	起返又ハ何々ニ損地又ハ何々ニヨリ前年ヨリ増		ヨリ前年ヨリ減ス		關係無之舊村
			内金	外金	内金	外金	
○某 町	○何 組	○金 圓	○内金	○外金	○内金	○外金	○何々組
○某 村	○幾 組	○金 圓	○増	○減	○幾	○幾	○何々組
一村限合計							

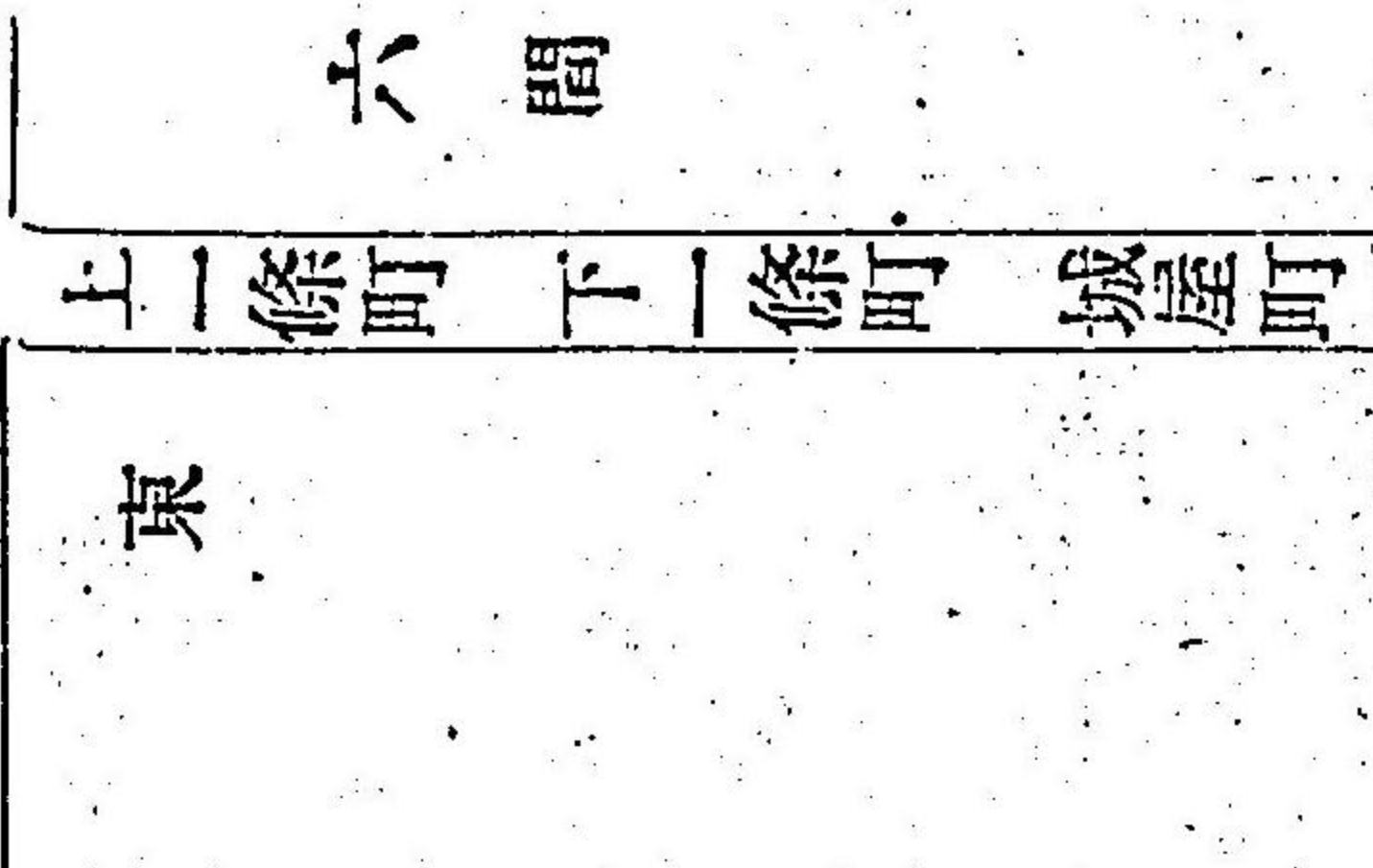
合何ヶ村合計 ○幾 組 ○金
増 ○ 減
幾 ○ 組

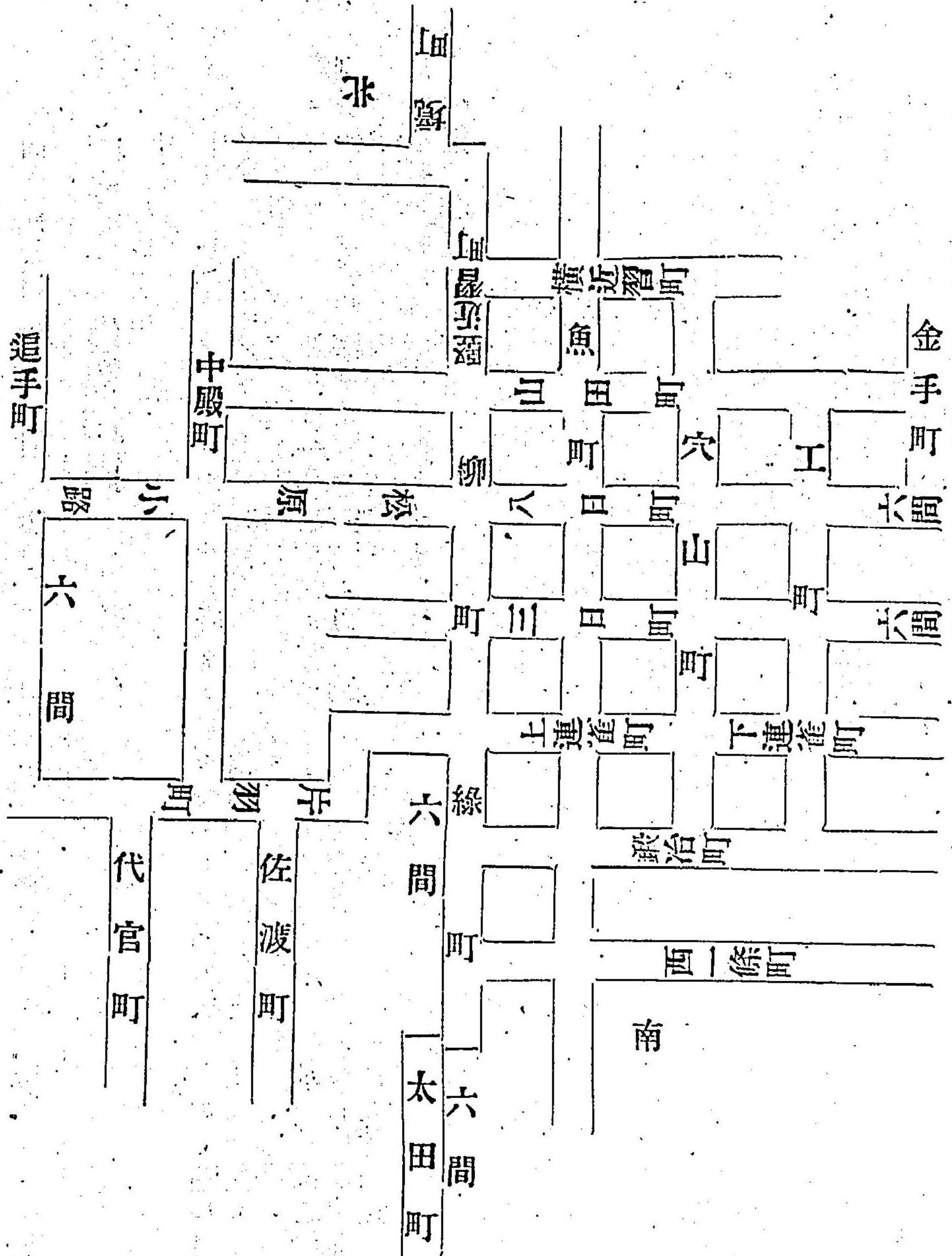
(廿二) 甲府市中道幅制限

○甲第三百二十七號 明治六年六月五日

往昔甲府市中道幅其制アツテ今ニ比スレハ廣カリシモ後年人ノ識量狹少ナルニ隨ヒ漸々道路ヲ犯シ建家ヲ張出シ今日之景況ヲ以テ既ニ車輪相觸レ人馬雜沓ノ不便ヲ生セリ
 退々物産富殖シ四方運輸之便開ケ車馬輻湊人肩相摩スルニ至ラハ其雜沓モ亦想像スヘシ
 豈注意セサルヘケンヤ然レハ一朝是ヲ改ル容易ノ事ニアラス依之此般別紙圖面之通
 道路之制限相定メ今後修繕新築等之節漸チ以テ改正候條其旨可相心得尤券狀申受之義
 ハ右道敷ヲ除去取調可差出既ニ券狀申受候町々ハ券面之腹書ニイオン可相渡候條銘々
 屋敷地之内道敷可相成坪敷取調來ル十五日限リ差出ヘン事
 右之趣市中無洩相達スル者也

第 四 類





三十

(間數書入ナキハ町幅五間)

〔廿三〕 驛村道路ノ制限取定方

○甲第百三號 明治七年 五月八日

兼テ告諭ノ旨趣ヲ了得シ道路ノ修築陸續功ヲ竣ヘ馬車來往日ヲ追テ隆盛ニ趣キ候處本道枝道ノ驛村ニナイテ從來道路ノ制限無之ヨリ或ハ道幅ヲ犯シ或ハ家并ヲ亂シ各自隨意ニ家屋ヲ築造イダシ候ヨリ自然直線モ屈曲トナリ道幅モ狹隘ニ相成リ諸車ノ往來甚不便ヲ極メ不都合ノ事ニ有之然レトモ今一朝コレヲ改メル又容易ニアラサレハ漸チ以テ改正セサルチ得ス就テハ自今左ニ掲グル條件ヲ体認シ追々驛村内規矩相立テ道路ト共ニ運輸ノ至便ヲ得候様深ク注意可致事

第一 本道枝道ニ關ハル驛村ハ前後道路ノ幅員ヲ目的ニ定限ヲ定メ向後家屋新築又ハ建替等ノ節ハ右定限ニ依リ修理可致事

第二 右定限ハ其區々長立會即今戸長ニ於テ取調道幅ノ圖面ヲ製シ置キ追テ新築又ハ建替等ノ節々右圖面ニ引合セ建築可致事

第三 新築又ハ建替等致ス時ハ區長ハ届出檢査ヲ可受事
 第四 從來驛村内ニナイテ肥シ溜テ路傍ニ取建有之ヨリ臭氣往來ニ溢レ通行馬人ノ妨害ト相成候ニ付漸テ以テ取除可申事
 右之趣市中ヲ除クノ外各區無洩相達スル者也

〔廿四〕 路傍溝渠開修浚潔工費負擔方

○縣令第十八號 明治十九年 十二月十六日
 路傍溝渠ノ新設修繕并浚潔等ニ關スル工費負擔ノ區別左之通り之ヲ定ム
 但用惡水路ヲ兼用スルモノ及ヒ其他從前規約アルモノハ此限リニアラス

路傍溝渠新設修繕并浚潔等工費負擔區別方

- 一 路傍溝渠新設修繕浚潔ノ工費ハ所屬ノ道路費又ハ掃除費ヨリ支辨シ其民有地ニ沿ヒタル片側ノ築造及修繕ノ工費ハ其地主ノ負擔トス
 但其他所民有ニアラサルモノハ其地ヲ使用スルモノノ負擔ニ屬シ且市街宿驛内溝渠ノ浚路ハ大下水ヲ除クノ外ハ都テ其接續地所用者ノ負擔トス
- 一 路傍溝渠ノ上面各自通行等ノ爲メニ設クル甲蓋ニ關スル費用ハ其所用者ノ負擔トス

〔廿五〕 地方稅支辨ニ係ル道路掃除方

○縣令第六十四號 明治廿二年 九月廿二日
 明治二十年 縣令第八十九號 明治廿二年 八月 縣令第五十七號 道路取締

規則施行ノ路線ヲ除ク外地方稅ノ支辨ニ係ル道路ハ爾後隔月一回宛掃除ヲ爲スヘシ其掃除負擔ノ區分ハ道路取締規則第三條ニ適用ス

(參看)

○地方稅支辨ニ係ル道路保護規程

達甲第十五號 明治廿二年 九月廿一日

村市郡 役役役 場所

地方稅ノ支辨ニ係ル道路保護規程左ノ通相定ム

道路保護規程

- 第一條 此規程ハ地方稅ノ支辨ニ係ル路線ニ施行スルモノトス
- 第二條 郡市長ハ通常毎月一回及暴風雨出水等ノ節ハ臨時ニ路線ヲ踏査シ左ノ各項ニ係ルモノハ直ニ修理ヲ加フヘシ
 - 一 雨潦又ハ車輪等ノ爲メニ生シタル凹窪及罅隙ノ箇所
 - 一 岩石ノ露出又ハ散在シテ車馬通行ニ妨ケアルモノ
 - 一 道縁ノ缺損又ハ石垣杭柵等ノ破損シタルモノ
 - 一 山側崩落等ノ爲メ土砂路上ニ堆積シ又ハ濕拔ヲ填塞シタルモノ
 - 一 橋梁柵道駒寄等一小部分ノ損壞シタルモノ
 - 一 並木ノ傾覆及根圍支柱ノ損傷シタルモノ
 - 一 右ノ外ト雖トモ些細ノ損傷ニシテ捨措クトキハ大破ヲ釀スノ虞アルモノ

第三條 前條ノ工事ニシテ其經費市又ハ一村一回金五圓ヲ超ヘサルトキハ各郡市道路保護費定額内ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ其五圓ヲ超ヘルモノハ別ニ其費金ヲ支辨スヘキヲ以テ其時々伺出指揮ヲ受クヘシ

第四條 暴風雨出水等ニ際シ支出ヲ要スルトキハ前條ニ準據スヘシ

第五條 毎月支出シタル金員ハ其線路ノ種類及箇所等ヲ詳記シ翌月七日限り縣廳ヘ報告スヘシ

第六條 郡長ハ工事ノ執行ヲ捷速ナラシムル爲メ豫テ定額ノ幾分ヲ分付シ村長ヲシテ本規程ノ工事ヲ取扱ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其支出報告ハ村長ヲシテ之ヲ爲サシメ檢査シ上前條報告ト同時ニ縣廳ニ進達スヘシ

○甲第百三十號 明治六年 四月廿八日

往來ニ並木ヲ栽ルハ夏ハ蒸暑ヲ消シ冬ハ寒風ヲ防ク等渾テ往來人ノ健康ヲ保護スル爲ナレハ追々道路修繕落成ニ隨ヒ諸木栽付相成シ處間々猥リニ拔キトリ又ハ伐リ折ルモ有之甚ク不心得至極ニ付右様不既ノ所行イタスモノハ差押ヘ可申旨其筋ヘ申達置候條各村々ニ於テ申合誰レニテモ見當リ次第差押ヘ摸寄選卒屯所ヘ申出ヘシ猶心得違ノ者無之様區戸長ヨリ各戸無洩申達シ別テ幼童ヘハ小學訓導又ハ其父兄ニテ教諭イタスヘシ此旨布達候事

〔廿七〕 私設ノ渡津橋道等賃錢ニ關スル件

○乙第三十號 明治十五年 三月廿八日

郡 町 村 役 所

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送并郵便物遞送集配 特ニ配達人タルヲ証スルノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨其筋ヨリ達有之候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ヘ無洩可相達此旨相達候事

○縣令第二十二號 明治廿年 三月五日

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津等該費補填ノ爲メ賃錢請求差許置候場所ニ於テ自今警部巡查制服着用通行ノ節及ヒ巡查看守押丁等囚人護送ノ節ハ護送者并其囚人ニ對シ賃錢請求スヘカラス

○達甲第四十三號 明治廿一年 十二月廿七日

郡 役 所 戸 長 役 場

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ着シタル電報配達人ヨリ賃錢請求不相成候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成候條此旨該免許人ヘ相達スヘシ

印 鑑 雛 形

第 號
何國何地郵便電信(電信)局集配人 誰

明治年月日
何國何地郵便電信局

第五類 兵 事

(一) 現役免除願出方

○達甲第貳拾四號 明治廿一年六月二日

本年勅令第十七號陸軍各兵科現役下士補充條例第八條ニ據リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄ノ死亡處刑若シハ失踪等ハ戶長ノ證明書癡疾不具等ハ醫師ノ診斷書ヲ其親族ヨリ本人へ送付セシムヘシ

郡 役 所
戶 長

(二) 兵員身上異動届出方

○縣令第二十八號 明治廿二年四月廿七日

左ニ掲クル者轉籍其他總テ身上ノ異動ハ戶主 戶主不在ナレハ ヨリ本年三月三十日以後ノ分ハ此際今後ハ七日以内ニ戶長ニ届出戶長ハ之ヲ調査シ左ノ區別ニ依リ當廳及郡役所ニ報告スヘシ

但現役兵之内歸休兵并豫備役後備役兵員ノ異動ハ戶主ヨリ届出ニ及ハス本人ヨリ監視區長ニ差出スヘキ届書ヲ戶長ノ手ヲ經テ郡役所ニ差出スヘシ

兵員身上異動届出方

一 海軍下士卒

但徴兵ヲ除ク

右ハ郡役所ヲ經テ當廳へ

一 現 役 兵

一 豫備徵員

一 豫備役驅員兵員

一 後備役驅員兵員

一 徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十一條ニ當リ徵集延期ノ者

一 犯罪并逃亡失踪等ニテ其年徵集ニ應セザリシ者

右ハ郡役所

(參看)

○歸休兵並豫備後備其他ノ兵員犯罪處分等通報方

乙第三十九號 明治十五年五月十七日

郡 町 村 役 所

陸軍省ヨリ達ノ趣モ有之ニ付常備歸休兵及豫備後備軍籍ニ在ル者郷里ニ於テ罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタル節ハ罪狀並刑名ヲ詳記シ其時々身元ヨリ届出サセ當廳へ送達スヘシ此旨相達候事

乙第六十三號 明治十九年六月廿四日

郡 長 役 場 所

歸休兵並豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルトキ及ヒ其帶動者ニシテ勳章ヲ褫奪セラレタルトキハ原籍戸長ヨリ郡駐在官へ通報スヘキ旨陸軍省令甲第十五號及同第十八號ヲ以テ達セラレ候處補充員並ニ第一豫備徵員ニ在テモ右同様通報可致此旨相達候事

○歸休兵並豫備後備其他ノ兵員召集ニ關スル件

乙第二號 明治十八年一月十二日

郡 長 役 場 所

自今豫備後備其他在郷諸兵非常若クハ平時演習ノ爲メ召集入營ノ節自己ノ衣服諸品格護ノ爲メ大約三尺四方ノ澁紙或ハ油紙壹枚縛リ緒壹本姓名縣郡村名等ヲ記シタル木札壹枚每人壹通リ宛持參候様可爲致此旨相達候事

乙第四十七號 明治十九年五月廿八日

郡 長 役 場 所

豫備後備兵點呼召集ハ本籍地方ニ於テ施行スヘキ筈ノ處學術修業若クハ商業等ノ爲メ他府縣下へ寄留ノ者ハ本人ノ願ニ由リ寄留地ノ點呼召集ニ應スルコトヲ得ヘシニ付後備軍司令部條例第二十五條但書ニ該當ノ者同様本籍戸長ノ稟書証印ヲ以テ其郡駐在官及縣駐在官ヲ經テ同司令部へ願出許可ノ上ハ其旨寄留地郡區駐在官へ爲届出候様取扱ヘシ此旨相達候事
達甲第廿五號 明治廿年七月一日
郡 長 役 場 所
陸軍歸休兵並ニ豫備後備軍驅員兵員ニシテ定時演習召集ニ際シ父母ノ重病或ハ死亡ノ故ヲ以テ召集ノ延期ヲ願フモノハ二週間以内ノ延期ヲ許可セラル可シ其手續ハ左ノ如シ

一 豫備役後備軍驅員ハ後備軍司令官ニ願出テ許可ヲ受ケシムヘシ
一 歸休兵並豫備役後備役兵員ハ戸長ノ稟書証印ヲ以テ府縣駐在官ニ願出テ許可ヲ受ケシム可シ

一 父母重病ニハ徵兵事務條例第五書式ノ診斷書
 病院ノ與書 又死亡ニハ左
 式ノ証明書ヲ願書ニ添ヘ差出サシムヘシ
 證 明 書

郡 町 村 住

歸休兵(豫備役)後備軍

(編員)兵員何某父(母)

何 之 某

右ハ何々症ニ罹リ何月日死亡セシニ相違無之候間此段証明候也

郡 町 村 戸 長

年 月 日

何 之 某 印

一 延期ノ許可ヲ受ケルトキハ其願書ノ寫ヲ添ヘ又期滿チ出發セントキ
 ハ其月日ヲ詳記シ編員兵員ヨリ戸長及ヒ所轄郡役所ヲ經テ當縣廳ヘ届
 出サシム可シ

三 失踪逃亡ノ徵兵相當者所在發見届出方

○縣令第七十二號 明治廿二年

明治廿二年

明治廿二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失踪逃亡ノ爲メ徵集ニ應セザリシ者所在發見シテ
 ルトキハ其時々戸主又ハ親族ヨリ郡ニ在テハ村役場及郡役所市ニ在テハ市役所ヲ經テ

ルトキハ其時々戸主又ハ親族ヨリ郡ニ在テハ村役場及郡役所市ニ在テハ市役所ヲ經テ
 當廳ヘ届出ヘシ

四 横濱大隊區所屬監視區長駐劄地全區域

○告示第七十五號 明治廿一年

六月二日

横濱大隊區ニ屬スル監視區長駐劄地並其監視區域左ノ如シ

大隊區 監視區長 駐劄地

全 上 區 域

甲 府	西山梨郡	東山梨郡	西八代郡
南巨摩郡	中巨摩郡	北巨摩郡	
足柄下郡	足柄上郡	津久井郡	大住郡
足柄上郡	南都留郡	北都留郡	
横濱 小田原	横濱 愛甲郡	高座郡	三浦郡

第六類 教育

(一) 學校幼稚園書籍館等設置廢止手續

○縣令第三十六號 明治二十年三月二十日

學校幼稚園書籍館等設置廢止手續ヲ定ムル左ノ如シ

學校幼稚園書籍館等設置廢止手續

第一條 諸學校通則第三條ニ據リ學校(小學校ヲ除ク)幼稚園書籍館等ヲ設置セントスル時町村立ニ係ルモノ、其管理者ヨリ私立ニ係ルモノハ其設立者ヨリ左ノ各項ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一 名稱及設置ノ目的

第二 位 置

第三 學科學期課程試驗法等(幼稚園書籍館等ハ之ヲ除ク)

第四 敷地建物、零圃坪數及其所有ノ區別

第五 校則(入退學、休日、授業料、生徒心得等)又ハ園則(入退園、休日、觀覽料、觀覽人心得等)

第六 職員ノ數及其俸額

第七 經費ノ收入支出及其細目

第八 職員ノ學力品行及其履歷但學校幼稚園ニ限ル

第九 學校幼稚園ニ在テハ生徒又ハ幼兒ノ數書籍館ニ在テハ書籍ノ種類部數

第二條 學校幼稚園書籍館等設置ノ後第一條ノ各項中ニ變更アル時第一項乃至第八項

ハ其都度伺出テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ第九項ハ當廳へ届出ツヘシ

第三條 學校幼稚園書籍館等ヲ廢止セントスル時ハ其事由及ヒ資産處分ノ方法ヲ具シ町村立ニ係ルモノハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ私立ニ係ルモノハ當廳ニ届出ヘシ

但學校ニシテ教旨ニ弊害アリト認ムル時ハ當廳ヨリ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 私立學校幼稚園書籍館等ニ關スル前各條ノ伺并届書ハ所轄郡役所ヲ經由スヘシ

第五條 當廳ノ認可ヲ受ケスシテ學校幼稚園書籍館等ヲ設立シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處ス

(二) 小學校設置區域及位置

○縣令第四號 明治二十年一月十四日

勅令第十四號 小學校令第二條ニ基キ小學校ノ設置區域及位置左ノ通之ヲ定メ本年四月一日ヨリ施行ス

小學校設置區域及位置

第一條 小學校ノ設置區域及其位置ハ別表ニ依ル

第二條 土地ノ情況ニ依リ小學簡易科ヲ設ケテ尋常小學科ニ代用セントスル時ハ其旨具申シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

○縣令第四十九號 明治廿二年六月廿九日

明治二十年一月縣令第四號 小學校設置區域及位置ノ内尋常小學校設置區域位置及小學簡

易科ニ關スル件左ノ通改正明治二十二年七月一日ニリ施行ス

- 一 尋常小學校設置區域及位置ハ前表定ムル所ニ依ル但表中記載ナキモノハ當分從來ノ通リトス
- 一 土地ノ情況ニ依リ分校ヲ設ケントスルモノハ其事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 尋常小學校設置區域ニハ小學簡易科ヲ併置シ若クハ單ニ小學簡易科ノミヲ設ケテ尋常小學科ニ代用スルコトヲ得
- 一 前項ニ依リ小學簡易科ヲ設置セントスルトキハ其事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

×印ハ改正達第一項但書ニ係ル當分從來ノ儘施行ノ分

高等小學校位置	高等小學校設置區域	尋常小學校位置	尋常小學校設置區域
山西梨郡甲	山西梨郡一圓	相生町 瀨村 橋村 田垣 本	甲府市 住吉村 朝井村 山城村 清田村 國里村 甲運村 里垣村 相川村

第六組

郡代八東	村部下
東八代郡一圓	
南河竹中夏錦下上土御金國中下石 八代村內居川原村村村塚村田村尾崎和	鶴菱勝歌休三 瀬山沼息ヶ 村村村田村所
高南富竹英錦下上御國和祝石 家八士野野村黑駒村代立村興村和 村代見村村村村村一櫻村櫻村 村北八代村	初菱等勝日小休後 鹿山々々沼川手息屋 野山力村村村村村敷 村鶴瀬村

五

日郡梨山東	府
東山梨郡一圓	
小原東 熊上小釜釜室倉中市八下落平熊鎮 於里里萩屋和幡神等野 會村野村原敷原川伏科村河村川合村堂目	竹下千 日帶 向那塚
日奧××神松三諏中西八加上平春岡 下野野(千野組ヲ除ク)金里富訪牧保村幡納萬等日居部 村田村(千野組ヲ除ク)村村村村村村村村村 村千七里野村	能千千 泉代塚 村田村村 大宮村

四

<p>二字村穂増郡摩巨南</p>	<p>村門大川市</p>
<p>南巨摩郡 増穂澤開島石成 大西五 切八須 伊八日 飯沼富 曙川箇 三都 湯里 三島 奈島 観田 六類</p>	<p>大河内村榮 一圓</p>
<p>最勝寺 字八幡 柳川前 西島 大石 切富 飯山 中村 鹽上</p>	<p>岩間村 近田 字田 下田 古田 車田 常田 帶田 内船</p>
<p>増穂澤開島石成 大西五 切八須 伊八日 飯沼富 曙川箇 三都 湯里 三島 奈島 観田 七</p>	<p>葛籠村 楠雨宮原岩 山保村 落居村 共和村 古關村 久那土村 富里村 大河内村 榮村</p>

<p>郡代八西</p>	<p>村飼鶴</p>
<p>西八代郡</p>	
<p>上高古 市川大門 字東村 字東村 高田屋 豐和</p>	<p>米倉村 石橋村 小芦川 中蘆川 上會根村 下會根村 龍川 大鳥居 日影村 藤井村</p>
<p>上九一色村 下九一色村 市川大門村 大塚村 上野村 高野村 八之尻村 羽鹿村</p>	<p>永井村 圭林村 五成村 上芦川村 上會根村 下會根村 左右口村 左口村 豐富村 日影村 木賊村 藤井寺 尾村</p>

村豐部摩巨中	村王龍
<p>中巨摩郡 御影村 田之岡村 百野村 芦安村 飯野村 在家塚村 西野村 在家塚村 今野村 在家塚村 豐中村 在家塚村 榑中村 在家塚村 鏡田村 在家塚村 藤田村 在家塚村 五明村 在家塚村 野合村 在家塚村 落合村 在家塚村</p>	<p>國母川村 大田村 三田村 小川村 花井村 花井村</p>
<p>榑田 有野 飯野 蘆野 西野 吉野 小宮 上地 加美 鏡中 藤田 大井 古市 榑村</p>	<p>下西押 大田 三田 下井 小川 花井 三田 大田 西野 吉野 小宮 上地 加美 鏡中 藤田 大井 古市 榑村</p>
<p>御影村 田之岡村 百野村 芦安村 飯野村 在家塚村 西野村 在家塚村 今野村 在家塚村 豐中村 在家塚村 榑中村 在家塚村 鏡田村 在家塚村 藤田村 在家塚村 五明村 在家塚村 野合村 在家塚村 落合村 在家塚村</p>	<p>國母川村 大田村 三田村 小川村 花井村 花井村</p>

郡摩巨中	組部南村合陸郡摩巨南	騎十
<p>中巨摩郡 龍王村 玉嶮村 松島村 池田村 福岡村 貢川村 陸澤村 吉澤村 清川村 宮本村 西條村 常永村</p>	<p>南巨摩郡 本居村 延岡村 身延村 岡合村 豐岡村 陸河村 陸河村 萬代村 西八河内郡 榮大内村</p>	
<p>龍王 松島 福岡 陸澤 清川 西條 宮本 常永</p>	<p>本居 延岡 身延 岡合 豐岡 陸河 萬代 西八河内 榮大内</p>	
<p>龍王 松島 福岡 陸澤 清川 西條 宮本 常永</p>	<p>本居 延岡 身延 岡合 豐岡 陸河 萬代 西八河内 榮大内</p>	
<p>龍王 松島 福岡 陸澤 清川 西條 宮本 常永</p>	<p>本居 延岡 身延 岡合 豐岡 陸河 萬代 西八河内 榮大内</p>	

橋猿郡留都北	
北都留郡一圓	
鶴大四野犬綱鳥猿葛畑花中阿彌初陀 方田ノ	山内小上 明吉
島濱津尻目上澤橋野倉咲狩海	中野見田
島大巖甲大梁富大七賑廣初笹 田鶴東目川濱原保岡里狩子	中忍明福 野野見地
村村村村村村村村村村村村	村村村村

村谷郡留都南	
南都留郡一圓	
下大長西天大河船小小櫻栗馬小谷朝大宮大金中小 吉田石立日形	小櫻 尾山
田和濱湖石村口津立村井谷場沼村場津原幡井島山	尾山
瑞鳴西大河船勝秋道桂谷盛開三寶禾 穗澤湖石口津山志里地吉生	增清 富里
村村村村村村村小立村	村村村

上野原村	上野原村	上野原村	上野原村	上野原村	上野原村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村
丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村	丹波山村

十四

(三) 小學校ノ學科及其程度實施方法

○縣令第三十三號 明治二十年三月廿八日

明治十九年文部省令第八號小學校ノ學科及其程度實施ノ方法ヲ定ムル左ノ如ク

第一條 小學校ノ學科及其程度實施方法

第一條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ一學級ノ修業期限トス

第二條 小學校ノ學科程度及教科用圖書ノ配當ハ別表ニ依ル但唱歌ハ當分之ヲ缺シコトヲ得

第三條 小學校ノ休業日ヲ定ムル左ノ如ク

日 曜 日

大祭日祝日

夏季 自八月一日至全月卅一日

冬季 自十二月廿五日至一月十日

第四條 尋常小學校ニ於テハ全科卒業ノ後高等小學校若クハ其他ノ學校ニ入學スルコト能ハサル者ノ爲メ温習科ヲ設ケ一ケ年間既修ノ學科ヲ温習シ且ツ之ヲ補修セシムルコトヲ要ス

第五條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ因リ英語ヲ省キ若クハ之ヲ省カス農業ヲ加フルコトヲ得

但本文ノ場合ニ於テハ管理者ヨリ其旨當廳ヘ開申スヘシ

第六條 小學校ニ於テハ一學年内三回以上小試験ヲ施行シ生徒ノ座次ヲ進退シ學年末ニ大試験ヲ施行シ及第落第ヲ判シ學級ヲ定ムルモノトス

第七條 試験ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トス

但修身科ハ四十點ヲ平素行狀點トシ六十點ヲ試験點トス

第八條 小試験ニ於テハ各學科ノ得點數ヲ合計シ之ヲ通約シテ評點ヲ定ムルモノトス

第九條 大試験ニ於テハ各學科得點平均數ニ一學年内小試験評點ヲ平均シタルモノヲ合計シ之レヲ折半シ其評點トス

第十條 大試験ニ於テハ各大大試験評點ノ平均數ヲ合計シ之ヲ折半シテ其評點トス

但評點六十點以上ヲ得ルト雖トモ一學科ノ得點定點ノ三分ノ一ニ滿タサル者ハ尙

※落第トス

第十一條 小試験評點ノ平均數五拾點ニ滿タサルモノハ大試験ヲ受クルヲ許サス

第十二條 大試験ニ於テ一學科ノ得點定點ノ三分ノ一ニ滿タサルモ他ノ各學科ノ得點ノ和其總定點ノ五分ノ三以上ニ滿ツルモノハ其不合格ノ學科ニ限り特ニ再試スルコトアルヘシ

第十三條 試験ノ成績ハ學校ニ揭示スヘシ

但大試験ノ成績ハ生徒ノ父母後見人等ニ報告スヘシ

第十四條 試験課題ヲ定ムル左ノ如シ

修 身	第 一 年	第 二 年	第 三 年	第 四 年
讀 書	二 行 題	全 行 上	全 行 上	全 行 上
作 文	一 題	凡 十 字 上	二 十 字 題 上	全 十 字 上
習 字	六 字 題	八 字 上	十 字 上	全 十 字 上
算 術	五 題	全 上	凡 一 演 習 上	全 上
體 操				

尋 常 科

修 身	第 一 年	第 二 年	第 三 年	第 四 年
讀 書	二 行 題	全 行 上	凡 二 十 行 上	全 行 上
作 文	二 五 字 題	全 上	二 十 字 上	全 上
習 字	五 字 題	全 上	全 上	全 上
算 術	四 五 題	全 上	全 上	全 上
地 理	四 題	全 上	全 上	全 上
歷 史	四 題	全 上	全 上	全 上
理 科	四 題	全 上	全 上	全 上
圖 畫	一 題	全 上	全 上	全 上
唱 歌	一 題	全 上	全 上	全 上
休 操	一 演 習	全 上	全 上	全 上
英 語	一 章	全 上	全 上	全 上
農 業	一 題	全 上	全 上	全 上
裁 縫	一 題	全 上	全 上	全 上

高 等 科

第十五條 第一第二第三年級大試験ニ及第シタルモノニハ第一號書式ノ証書第四

年級大試験ニ及第シタルモノニハ第二號書式ノ証書ヲ授與スヘシ

第 六 類

十 七

體操	算術	習字	作文	讀書
六 / 三 遊戲	六 / 六 實物ノ加減乘除 物ノ用數字 算珠ノ命位 簡易ナル用法 記數珠算 及暗算	六 / 六 假名 行書 簡單ナル日用 文字	三 / 三 假名ノ單語單 句及簡易ナル 漢字交リノ短 句	九 / 九 假名假名ノ單 語短句 簡易ノ漢字交 リノ短句
六 / 三 全上	六 / 六 筆算珠算加 法減法及暗 算	六 / 六 行書 日用文字	三 / 三 簡易ナル漢 字交リ文及 口上書類	九 / 九 簡易ナル漢 字交リ文
六 / 三 徒身体操	六 / 六 筆算珠算乘 法除法及暗 算	六 / 六 行書 日用文字及 日用書類	三 / 三 簡易ナル漢 字交リ文及 口上書類及 日用公川私 用書類	九 / 九 全上
六 / 三 啞鈴體操	六 / 六 筆算珠算四 則普通ノ度 量衡貨幣日 用適切ノ雜 題及暗算	六 / 六 全上	三 / 三 簡易ナル漢 字交リ文及 日用公川私 用書類	九 / 九 全上
			溫習	

修身	學科
三 / 二、三 簡易ナル事柄 及格言作法	第一年級 每時數 / 每週度
三 / 二、三 全上	第二年級
三 / 二、三 全上	第三年級
三 / 二、三 全上	第四年級
	第五年級 溫習

尋常小學校課程表

第一號

証
學校印
族籍
姓名
年月生

高等尋常小學校第何年級修業候事
明治年月日
某高等尋常小學校長訓導 某印

第二號

証
學校印
族籍
姓名
年月日生

高等尋常小學校卒業候事
某高等尋常小學校長訓導 某印

理科	歷史	地理	算術
二 / 二 水等 氣雲露霜雪 空氣溫度水蒸 草木等日月星 昆寶穀物菜蔬	二 / 二	四 / 四 學校近傍ノ地 形山梨縣地理	四 / 四 筆算 簡易ナル分數 小數及雜題暗 算珠算 温習
二 / 二 時計等 槓杆滑車天秤 山地震潮沙及 等雷電風雨火	二 / 二 良問ニ在リシ事蹟 王朝政治及其位 武天皇ノ即位神	二 / 二 本邦地理	四 / 四 全上 全上
二 / 二 計蒸氣器械等 響寒暖計晴雨 筒噴水音響返 金銀銅鐵等 響噴水音響返	二 / 二 蹟忠良賢哲ノ事 其間ニ在リシ 川氏ノ治蹟及	二 / 二 藤原氏ノ專權 霸府ノ創立德 目等及外國地 夜四季ノ原因 大洋洲ノ名	四 / 四 筆算 簡易ナル比例 利息算及雜題 暗算
二 / 二 敗等 電機燃燒鑄腐 眼鏡色虹磁石	四 / 四 良問ニ在リシ事蹟 文物人情風俗 交通貿易世態 王政維新外國	二 / 二	四 / 四 全上

高等小學科課程表

習字	作文	讀書	修身	學科	通計
二 / 二 楷書 日用文字	二 / 二 漢字交リ文及 日用書類	五 / 五 稍高尙ナル漢 字交リ文	三 / 一三 簡易ナル事柄 及格言作法	第一年度 每週 / 時數	三 / 三八 〇 / 三八 六
二 / 二 全上	二 / 二 全上	五 / 五 全上	三 / 一三 全上	第二年度 每週 / 時數	三 / 三八 〇 / 三八 六
二 / 二 楷書 日用文字	二 / 二 全上	五 / 五 全上	三 / 一三 全上	第三年度 每週 / 時數	三 / 三八 〇 / 三八 六
二 / 二 全上	二 / 二 全上	五 / 五 全上	三 / 一三 全上	第四年度 每週 / 時數	三 / 三八 〇 / 三八 六

圖畫	唱歌	體操	裁縫	英語	農業
自在畫 直線曲線ノ單 形及簡易ナル 器具	單音唱歌	輕體操及隊列 運動	運針 簡易ナル裁縫法	綴字 習字	
自在畫 簡易ナル器具 及花葉	全上	全上	通常ノ衣服類	全上	○三 / ○三 土地氣候水 肥料農具及 穀物ノ栽培
自在畫 器具花葉草木 用器畫 簡易ナル幾何 圖及器具	複音唱歌	全上	全上	讀會 話書 習字 作文	○三 / ○三 蔬菜ノ栽培 及家畜家禽牧 草
自在畫 花葉草木禽獸 用器畫 簡易ナル幾何 圖及器具	全上	全上	全上	全上	○三 / ○三 菓樹及特用 草木ノ栽培 養蠶及農家ノ 經濟

通計	第一學級	第二學級	第三學級	第四學級	第五學級(溫習)
三〇三男 三五女	一〇三男 一三五女	一一三男 一三五女	一一三男 一三五女	一一三男 一三五女	一〇三男 一三五女

裁縫ノ教授時間ハ修身ヨリ三十分算術ヨリ一時休操ヨリ一時三十分ヲ取テ之ニ充ツ
 〇〇印ハ朱書トス
 〇〇英語及農業ヲ並課スル時農業ハ時間外ニ之ヲ課ス
 〇〇唱歌ハ時間外ニ之ヲ課ス

尋常小學教科用書配當表

學科/學級	第一學級	第二學級	第三學級	第四學級	第五學級(溫習)
修身	兒童訓 普通小學修身談一 并圖式 小學作法演習書	全上 全上	全上 全上 四、五	全上 全上	△剛定家道訓 六、七
讀書	新讀方書一ノ下 初等小學作文教授	全上 全上 二ノ下	全上 全上 三ノ下	全上 全上 四ノ下	△新刻 木史略
作文	小學初等 作文全書 一、二	全上	全上 中等小學 作文教授書 上	全上 小學女用文 全	全上

體操	○戶外遊戯法 ○小學普通体操法	全 全	上 上	全 全	上 上	全 全	上 上	全 全	上 上	全 全	上 上
算術	○小學和洋算教授 ○小學珠算全書	全	上	全	上	全	上	全	上	全	上
習字	○小學習字甲一、二、三、四、五、六、七、八	全上 全上 全上 全上 全上 全上 全上 全上									

廿四

一表中。符ヲ附シタルモノハ參考書トス。△ハ既習ノ學科ヲ補修スル爲ニ課ス

尋常科 小學校教科用圖書表

尋常科 讀書ノ部

圖書名	卷冊記號	著譯編者氏名	出版者氏名
讀書入門	全一	文部省編輯局	文部省編輯局
尋常小學讀本	全一	全上	全上
幼學讀本	初一至七	西村貞	原亮三郎
初學讀本	一至八	島崎友輔	池部活三
新定讀本	一至八	中原貞七	小林義則
尋常讀本	一至八	小松忠之輔	內藤恆右衛門

習字ノ部

圖書名	卷冊記號	著譯編者氏名	出版者氏名
小學習字本	自甲一號至甲八號	徽典館	內藤傳右衛門
新習字帖	自一八至一八	名和熹七	小林義則
小學習字帖	自一四至一八	東京府學務課	東京府

算術ノ部

圖書名	卷冊記號	著譯編者氏名	出版者氏名
小學用校算書	第一	下河邊半五郎	辻敬之
尋常算書	第一	古川四郎	小林八郎
尋常算書	第二	佐久間文太郎	原亮三郎
新撰算書	第一	岡村増太郎	小林義則
實用算書	第一	尾關正求	三浦源助
小學新算書	第一	青野尹諧	原亮三郎
小學珠算指南	第一	古川四郎	小林八郎
小學珠算指南	第二	羽田貞義	竹內願十郎
小學和算新書	第一	小林義則	小林義則
尋常算教科書	第一	佐久間文太郎	原亮三郎

高等科 第六類

廿五

讀書ノ部

增訂小學讀本	自一八八	內田嘉市	原亮三郎
高等普通讀本	自一八八	高橋熊太郎	小林八郎
小學讀本	自一八八	池村正三郎	辻敬之
高等小學讀本	自一八八	西村正三郎	文部省編輯局

習字ノ部

小學習字木	自甲九號	微典館	內藤傳右衛門
三體千字文	自甲十二號		內藤傳右衛門

算術ノ部

小學暗算書	高等科一冊	青野尹諧	原亮三郎
數學三千題	上中二冊	尾關正求	三浦源助
筆算教授書	自一八八	永峯秀樹	內藤傳右衛門
小學校教師用筆算書	一至一	下河邊半五郎	辻敬之

地理ノ部

小學校用地理誌	三一	辻敬之	辻敬之
新撰地理誌	三一	岡村增太郎	小林義則
日本地理書附圖	一	高木與五郎	小林喜右衛門
甲斐地誌略	全	山梨縣師範學校	內藤傳右衛門
甲斐地誌畧	全	矢羽根孝太郎	東浦榮次郎

歴史ノ部

國史記要	自三一	岡本監輔	大野堯運
日本史要	自三一	古谷傳	高見年之助
小學日本歷史	自三一	山縣悌三郎	山縣悌三郎

圖畫ノ部

畫學楷梯	前後編共十冊	岡村政子	岡村竹四郎
小學習畫帖	八冊	文部省	大場石男
小學習畫帖	幾何法三冊	井波陸二郎	三浦源助
小學圖畫帖	自一八八	上村昌訓	中村清躬
初學臨畫本	自一八八	宮島鏡八	

理科ノ部

新撰理科書

自一上下八冊
至四四冊

高島勝次郎
小野太郎

小林義則
小林八郎

英語ノ部

ナショナルリーダー

自三三冊

米國ハルソス會社

(參看)

○小學校規則取設方

訓令第六號 明治廿一年
二月六日

小學校規則左ノ項目ニ依リ管理者者學校長協議ノ上取調其高等科ニ係ルモノハ
當應其尋常科ニ係ルモノハ郡役所ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 總則
- 一 生徒入退學規則
- 一 生徒心得
- 一 生徒賞罰法
- 一 寄宿舎規則 但高等科ニ限ル
- 一 職員處務規程

郡長役校場所

- 一 圖書器械等管理規則
- 一 前各項ノ外必用ノ事項ハ適宜記載スヘシ

○小學校休業日ニ關スル件

訓令第三十六號 明治廿一年
五月十九日

公立小學校ニ於テ定期ノ休業日ヲ變更シ若クハ臨時休業セントスルトキ一週
自以內ハ管理者及學校長ニ於テ便宜施行シ一週日以上ハ郡長ニ稟申シ郡長ハ
其事情ヲ取調認可ヲ與ヘ即時當廳ニ報告スヘシ

郡長役校場所

○小學校印章取定方

訓第二十九號 明治二十年
四月廿八日

各小學校ノ印章左之通彫刻スヘシ

郡長役校場所

曲尺方一寸五分	某尋常
字體篆書	高等
印材適宜	小學校

右訓令ス

○小學校費支辨方

第六類

訓令第三十九號 明治廿二年
六月廿九日

郡長 役所

明治二十二年七月一日以後小學校經常ノ費用及創業費建築費等ノ臨時費ハ市町村費トシ撥業料寄附金等ハ其市町村ノ收入トス可シ尤モ其經常費ハ小學簡易科ニ係ルモノヲ除クノ外ハ撥業料及寄附金等ヲ主トシ之ヲ支辨スルヲ要スル義ト心得ヘシ

(四) 小學簡易科教則

○縣令第三十四號 明治二十年
三月三十日

小學簡易科教則ヲ定ムル左ノ如シ

小學簡易科教則

- 第一條 小學簡易科ノ修業年限ハ三ヶ年トス
- 第二條 小學簡易科ハ讀書作文習字算術ノ四學科トス
- 第三條 小學簡易科ノ授業時間ハ毎日三時間トス
- 第四條 小學簡易科ノ學科程度及教科用圖書ノ配當ハ別表ニ依ル
- 第五條 休業ノ定日及試驗法等ハ總テ尋常小學校ニ準ス

小學簡易科課程表

學科	每週時間	第一學年級	第二學年級	第三學年級
學科	每週時間	第一學年級	第二學年級	第三學年級
讀書	三時	假名假名ノ單語短句 簡易ナル漢字交リノ 短句	簡易ナル漢字交リ文全	上
作文	二時	假名ノ單語短句簡易 ナル漢字交リノ短句	簡易ナル漢字交リ文全	日用書類
習字	四時	假名 日用文字	行 日用文字	行 日用文字
算術	九時	實物ノ計ヘ方實物ノ 加減乘除 數字簡易ナル命位記 珠算 暗算	珠算 乘除 暗算	珠算 四則 度量衡 貨幣 暗算
學科	第一學年級	第二學年級	第三學年級	
讀書	簡易小學讀本 一、二	全上 三、四	全上 五、六	
作文	小學初等作文全書 一、二 初等小學作文教授書	全上 三、四	全上 五、六	
習字	小學習字本 甲一、二	全上 甲三、四	全上 甲五、六	
算術	普通和算教授書 小學簡易珠算書	全上	全上	

小學簡易科用書配當表

小學簡易科用書表
讀書ノ部

簡易科讀本	自一至六	安春之助	安春之助
簡易讀本	自一至六	植村善作	辻敬之
尋常讀本	自一至六	太田忠恕	內藤恆右衛門
簡易小學讀本	自一至六	小松忠之助	西郷壹名
小學よみかき教授書	上	飯田直丞	文部省編輯局

(五) 小學校生徒授業料額

○縣令第五十八號 明治廿年七月七日

本年一月縣令第九號ヲ廢シ小學校生徒授業料ノ額ヲ左ノ如ク更定ス

- 尋常小學科 一ヶ月金拾錢以上五拾錢以下
- 高等小學科 一ヶ月金五拾錢以上壹圓以下

(六) 學齡未滿ノ幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育スヘキ件

○乙第二十一號 明治十七年三月八日

郡 町 村 役 所
學 務 委 員
町 村 立 小 學 校

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ學齡兒童ト區別シ幼稚園ノ方法ニ因リ保育ス可シ此旨相達候事

(七) 幼兒保育心得

○乙第百十號 明治十七年十一月十一日

郡 戶 町 役 所
學 務 委 員
村 長 小 學 校 場 所

幼兒保育心得別冊之通相定候條此旨相達候事

山梨縣幼兒保育心得

第一章 通 則

第一條 幼稚園ノ設ケナキ町村ニ於テ學齡未滿ノ幼兒ヲ教育セント欲スルモノハ小學校內ニ於テ學齡兒童ト別異シテ之ヲ保育スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ其事情ヲ具シ縣廳ヘ伺出ヘシ

第二條 保育法ニヨリ保育スヘキ幼兒ハ滿四年以上學齡未滿ニシテ種痘若クハ天然痘ヲ歴タルモノタルヘシ

第三條 保育ノ課程ハ修身ノ話庶物ノ話畫キ方數ヘ方讀ミ方書キ方及ヒ遊嬉トス

第四條 保育ノ時間ハ修身ノ話庶物ノ話遊嬉ヲ各二十分トシ他ノ諸課ヲ各三十分トス
即チ一日三時一週十八時トス

第五條 年中休日ハ其本屬小學校ト同シ

第二章 保育ノ要旨

第六條 修身ノ話ハ古今聖賢ノ教ニ基キ近易ノ談話ヲナシ孝弟忠信ノ道ヲ知ラシメ且時々行儀等ニ就テ訓誨ヲ加ヘ務メテ善良ノ性質慣習ヲ養ハシムコトヲ要ス

第七條 庶物ノ話ハ專ラ日用普通ノ家具什器鳥獸草木等幼兒ノ知リ易キ物或ハ其標本繪圖ヲ示シテ之ヲ問答シ以テ觀察注意ノ良習ヲ養ヒ兼テ言語ヲ習ハシメシムコトヲ要ス

第八條 書キ方ハ始メニハ野アル石盤ノ上ニ直線曲線ヲ以テ物ノ畧形ヲ畫カシメ終ニハ鉛筆ヲ以テ之ヲ野アル紙ニ畫カシム

第九條 數ハ方ハ專ラ果物小石介殼其他ノ實物ニ由リテ物ノ數ヲ知ラシムルヲ旨トシ數ノ觀念ヲ畧得タル者ニハ又實物ニ依テ簡易ナル寄セ方引キ方ヲナサシメ兼テ數字ノ讀ミ方書キ方ヲ教フ

第十條 讀ミ方ハ片假名平假名ヲ以テ幼兒知リタル物ノ名等ノ綴リ方易キモノヲ黑板ニ書示シテ假名ノ稱ヘ方用ヲ方ヲ教フルヲ旨トシ後ニハ假名ヲ記セル管牌ヲ以テ物名等ヲ綴ラシム

第十一條 書キ方ハ片假名平假名ヲ以テ既ニ授ケタル物ノ名等ヲ綴ラシム
第十二條 遊嬉ハ幼兒ニ適スルモノヲ撰テ之ヲナサシメ以テ身體ヲ健カニシ精神ヲ爽カナラシメシムコトヲ要ス

第三章 雜則

第十三條 幼兒ヲ取扱フニハ保育者一人ニ付幼兒二十五人ヲ度トス可シ

第十四條 幼兒六ヶ月以上保育ヲ受ケタルモノニハ左ノ書式ノ保育証書ヲ與フ可シ

保育証書式

証	姓	名
	年	月
右ハ本校幼稚保育法ニ依リ何年何月ヨリ何年何月マテ何年月間保育ヲ受候事		
年月日		
山梨縣何郡第何學區		
公立某學校 印		

尋常中學校ノ學科及其程度實施方法

○縣令第四十五號 明治廿年五月四日

明治十九年文部省令第十四號尋常中學校ノ學科及其程度ヲ實施スル方法ヲ定ムル左ノ如シ

尋常中學校ノ學科及其程度實施方法

- 第一條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ一學級ノ修業期限トス
- 第二條 學科中第二外國語ハ獨語トス
- 第三條 學科及其程度ノ配當ハ別表ニ依ル但第三年ノ學科ヲ卒リ實業ニ就カント欲スル者ニハ獨語ヲ省キ高等ノ學校ニ入ラント欲スル者ニハ農業ヲ省ク
- 第四條 始業終業時間ハ左ノ如シ

月	日	始業	終業
四月	一日	午前第八時	午後第二時
五月	三十一日	午前第七時	正午
六月	三十日	午前第八時	午後第二時
七月	三十一日	午前第九時	午後第三時
八月	三十一日		
九月	三十日		
十月	三十一日		
十一月	三十日		
十二月	三十一日		

第五條 休業日左ノ如シ

- 日 曜 日
- 土 曜 日 午後
- 大 祭 日 祝 日
- 夏 季 自 八 月 一 日 至 全 月 三 十 一 日
- 冬 季 自 一 月 十 五 日 至 一 月 三 十 一 日

第六條 生徒ノ入學ハ學年ノ始ニ於テスルヲ常トシ欠員アルトキハ臨時募集スルコトアルヘシ

但募集ノ期日人員等ハ其都度豫メ廣告スヘシ

第七條 一學年内ニ四回乃至六回臨時試験ヲ施行シ生徒ノ座次ヲ進退シ學年末ニ學級試験ヲ施行シ及第落第ヲ判シ學級ヲ定ム

第八條 試験ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トス

但國語及漢文講讀書取作文第一外國語第二外國語ノ讀方譯解書取會話作文及第一外國語ノ文法翻譯數學ノ算術幾何代數三角法ハ各一學科トシテ評點ヲ定ム

第九條 平素行狀ノ評點ハ各學科ノ評點ト同シク一百ヲ以テ定點トシ試験ノ際之ヲ算スルモノトス

第十條 學級試験ニ於テハ每學科ノ得點ニ臨時試験ノ得點ヲ通算シ學級臨時各試験ノ總回数ヲ以テ之ヲ除シ其評點トス

前項ニ於テ得タル各學科ノ評點ヲ合計シ之ヲ學科目ノ數ニテ除シ總學科ノ平均點トス

第十一條 學級試験ニ於テハ各學科ノ評點五十以上總學科ノ平均點六十以上ヲ得タルモノヲ以テ及第トス

第十二條 學業拔群ノ生徒若シハ事故アリテ學級試験ニ欠席シ又ハ學級試験ニ落第セシモ温習已ニ熟シタル生徒ハ臨時ニ試験ヲ施行シ學級ヲ進ムルコトアルヘシ

第十三條 各試驗ノ評點ハ學校ニ揭示シ其學級試驗ノ評點ハ生徒保証人ニ報告スヘシ
 第十四條 第一年第二年第三年第四年ノ學級試驗ニ及第シタル生徒ニハ第一號書式ノ
 證書第五年ノ學級試驗ニ及第シタル生徒ニハ第二號書式ノ證書ヲ授與スヘシ

式書號一第

尋常中學校 第一級 第一學年

明治年月日

山梨縣尋常中學校長

某 印

族 籍 名

年 月 生

式書號二第

尋常中學校 第二級 第三學年

明治年月日

山梨縣尋常中學校長

某 印

族 籍 名

年 月 生

學級	學年	科目	每週授時數
第五級	第一年	倫理	上
第四級	第二年	倫理	上
第三級	第三年	倫理	上
第二級	第四年	倫理	上
第一級	第五年	倫理	上

國語及漢文	第一外國語	第二外國語	農業	地理	歷史	算學
講讀 漢字交リ文 書取 漢字交リ文 及書讀文 作 漢字交リ文	綴字 讀方 譯解 讀方 會話 讀方			日本地理ノ概	日本歷史	算術ノ復習 幾何ノ初步
講讀 漢字交リ文 及漢文 書取 前級ニ同シ 作 前級ニ同シ	綴字 讀方 譯解 讀方 會話 讀方			亞細亞及歐羅巴ノ地理	萬國歷史	算術ノ復習 幾何ノ初步
講讀 前級ニ同シ 作 前級ニ同シ	綴字 讀方 譯解 讀方 會話 讀方			亞米利加及亞非利加ノ地理	支那歷史	算術ノ復習 幾何ノ初步
講讀 前級ニ同シ 作 前級ニ同シ	綴字 讀方 譯解 讀方 會話 讀方		養蠶 養畜及樹木栽培	日本ノ地文及政治地理	日本歷史	算術ノ復習 幾何ノ初步
講讀 漢字交リ文 作 前級ニ同シ	綴字 讀方 譯解 讀方 會話 讀方				萬國歷史	算術ノ復習 幾何ノ初步

博物	博物示數								
物理		物理及化學							
化學			無機化學						
習字	楷行草三体及細字速寫	上							
圖畫	自在畫法	上							
唱歌	單音唱歌	復音唱歌							
體操	普通體操 準備法矯正 徒手啞鈴	徒手啞鈴混 球棒	徒手體操 徒手體操 徒手體操	徒手體操 徒手體操 徒手體操	徒手體操 徒手體操 徒手體操	徒手體操 徒手體操 徒手體操	徒手體操 徒手體操 徒手體操	徒手體操 徒手體操 徒手體操	徒手體操 徒手體操 徒手體操
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三

九 尋常中學校中學豫科規程

○縣令第八號 明治廿一年 二月三日

山梨縣尋常中學校內ニ中學豫科ヲ設ケ其規程ヲ定ムル左ノ如シ

山梨縣尋常中學校中學豫科規程

- 第一條 本科ハ尋常中學校ニ入ラント欲スル者ニ其學科ノ階梯ヲ教授スルモノトス
- 第二條 修業年限ヲ二ケ年トシ其學科及程度ハ別表定ムル所ニ依ル
- 第三條 本科ニ入學シ得ヘキモノハ年齡滿十歲以上滿十三歲以下ノ男子ニシテ左ノ資格アルモノニ限ル
 - 一 尋常小學校ヲ卒業シタル者若シハ之ト同一ノ學力アルモノ
 - 一 品行端正身體健康ナルモノ
 - 一 種痘又ハ天然痘ヲ畢リタルモノ

- 第四條 入學ヲ許否スルハ試驗ニ依ル其課目程度ハ其都度廣告スヘシ
- 第五條 授業料ハ一人一ヶ月金壹圓トス
- 第六條 前條ノ外總テ尋常中學校規則ニ依ル

尋常中學校中學豫科學科及程度

倫理	第一級	第二級	第一級	第二級
倫理	第一級	第二級	第一級	第二級
倫理	第一級	第二級	第一級	第二級
倫理	第一級	第二級	第一級	第二級

國文	六	講讀 書取作文 漢字交リ文及 公用文	六	講讀 書取作文 漢字交リ文及 公用文
英語	六	習讀 字方 綴譯 讀字	六	習讀 字方 綴譯 讀字
數學	六	算術	六	算術
地理	一	地理ノ概要		
歷史			一	歷史ノ概要
理科	一	動物植物 會石ノ話	一	生理物理 物ノ話 衛生
習字	二	行書	二	楷行書
圖畫	一	自在畫法	一	用器畫法
唱歌	一	單音唱歌	一	全音上
體操	三	普通體操 準備法 徒手啞鈴	三	普通體操 徒手啞鈴 棍棒 球式 兵隊運動 輕體操

合計 二八

二八

〔十〕尋常中學校附屬獸醫專修科規程

○縣令第十號 明治廿一年 二月六日

山梨縣尋常中學校附屬獸醫專修科ヲ設ケ其規程ヲ定ムル左ノ如シ

山梨縣尋常中學校附屬獸醫專修科規程

第一條 本科ハ獸醫免許規則ニ依リ開業試驗ヲ受ケント欲スル者ニ適當ノ獸醫學ヲ兼修セシムル所トス

第二條 本科修業年限ヲ三ケ年トシ其學級學科程度ハ別表定ムル所ニ依ル

第三條 本科ノ課程ヲ卒ヘタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條 本科ニ入學ヲ請フモノハ入學試驗ノ期ニ先タチ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ尋常中學校ヘ申出ヘシ但入學試驗ノ期日人員等ハ別ニ之ヲ報告スヘシ

第五條 本科ニ入學シ得ヘキモノハ年齡十七年以上三十五年以下ニシテ左ノ各項ニ適當スルモノトス

- 一 品行端正身體健康ノモノ
- 一 本縣内ニ獸醫開業セントスルモノ
- 一 入學後一ケ年内徴兵ニ關係ナキモノ
- 一 入學試驗ニ合格ノモノ

第六條 入學試験ノ科目左ノ如シ

- 一 讀書 假名交リ文
- 一 作文 假名交リ文及日用文
- 一 算術 四則比例
- 一 理科 物理化學動物植物ノ大意
- 一 筆 蹟

第七條 前條各科ノ定點ヲ百點トシ總定點數二分ノ一以上ヲ得タルモノヲ合格トス但一科零點ノモノハ不合格トス

第八條 授業料ハ一人一ヶ月金五拾錢トス

第九條 生徒ハ不得已事故ノ外半途退學ヲ許サス尤品行正シカラス若クハ學業進歩ノ見込ナキモノハ退學ヲ命ス

第十條 試験規程并休日生徒ノ心得等ハ總テ本校規則ニ依ル

獸醫學專修科學科課程

學科	第三級 第一年		第二級 第二年		第一級 第三年	
	時數	每週	時數	每週	時數	每週
化學	無機	有機	無機	有機		
解剖學	血管	骨格軟帶筋肉內臟	血管	刀神經	六	實習
生理學	五	家畜生理				

內科學	四	內臟諸機疾病徵候療法	四	疾病類別一般症候普通豫后經過歸轉鑑別病ノ原因		
外科學	五	止血縫合帶縛壓定刺絡等手術				
藥物學	五	藥品形狀成分服量丸散膏油丁幾煎劑等ノ調合製造				
產科		二	家畜ノ孕胎分娩			
蹄鑢學及相馬學	三	蹄鑢ノ大要			四	馬體檢査法
獸醫警察法及動物疫論					四	家畜傳染病ノ豫防製遏撲滅及其病理
寄生蟲學					二	動物性寄生蟲性狀占地生育蕃殖豫防療法
家畜管理法					四	家畜原種種類性狀使用放牧飼養製御法
畜病院實習			二	內外科實習	二	內外科實習
體操	三	普通體操	三	兵式體操	三	兵式體操
作文	一	漢字雜リ文及ヒ書	一	前級ニ同シ	一	漢字雜リ文

合	計	三〇	三六	三六
---	---	----	----	----

表中ノ兵式体操ハ明治十九年六月二十九日文部省訓令第六號第一表ニ據リ中學校生徒ト同シ之ヲ課ス

(十一) 尋常師範學校ノ學科及其程度實施方法

○縣令第八十六號 明治廿二年 十一月十六日

明治二十年五月縣令第四十四號山梨縣尋常師範學校ノ學科及其程度實施方法左ノ通改定ス

山梨縣尋常師範學校ノ學科及其程度實施方法

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學科及其程度授業時間配當ハ別表ニ依ル

第三條 授業時間ハ毎日六時間トス

但土曜日ハ四時間トス

第四條 始業終業時限ハ左表ノ如シ

月	日	始業	終業
自四月一日	至四月三十日	午前第八時	午後第三時
自五月一日	至五月三十一日	午前第七時	午後第二時
自六月一日	至六月三十日	午前第八時	午後第三時
自七月一日	至七月三十一日	午前第八時	午後第三時
自八月一日	至八月三十一日	午前第九時	午後第四時

第五條 休業日左ノ如シ

日	曜	日
大	祭	日
祝	日	
夏	期	自八月一日 至全月廿五日
冬	期	自十一月十日 至一月十日

第六條 一學年內四回乃至六回臨時試業ヲ施行シ學年末ニ學級試業ヲ施行ス

第七條 試業ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トス

第八條 學級試業ニハ各學科ノ得點ニ臨時試業ノ得點ヲ通算シ之ヲ學級臨時各試業ノ

總回數ヲ以テ除シ其學科ノ評點トス

前項ニ於テ得タル各學科ノ評點ヲ合計シ之ヲ學科目ノ數ヲ以テ除シ總學科ノ平均點

トス

第九條 學級試業ニハ各學科ノ評點六十以上ヲ得タルモノヲ及第トシ以下ヲ落第トス

但一學科若シハ二學科不合格ナルモ總學科ノ平均點六十以上ナルモノハ教員會議

ノ上及第セシムルコトアルヘシ

第十條 最終學年ノ學級試業ニ及第シタルモノニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

博物	歷史	地理	簿記	數學	英語	漢文	國語
二 植物總論根莖 枝葉花實等 形論作用生活 種類分類法 種法記述法探 析法記述法探 集法記述法探 隱花植物形質 概畧	三 日本歷史ノ要 日本製圖法 日本製圖法 日本製圖法	三 外國地誌ノ要 日本歷史外國 日本歷史外國 日本歷史外國	三 總論日本地誌 日本製圖法 日本製圖法 日本製圖法	四 筆算ハ命位記 數四則分數小 數比例利息算 自乘法開平開 立求積法珠 算ハ加減乘除 及四則雜題	五 綴字習字讀法 綴字習字讀法 綴字習字讀法 綴字習字讀法	二 支那ノ文法文 學ノ要畧	三 日本ノ文法文 學ノ要畧
動物ノ人身生 理學ノ要旨 動物ノ要旨 動物ノ要旨 動物ノ要旨	三 外國地誌ノ要 日本歷史外國 日本歷史外國 日本歷史外國	三 外國地誌ノ要 日本歷史外國 日本歷史外國 日本歷史外國	三 代數符號四則分 法一次方程式 幾何一次方程式 理直線形 幾何一次方程式 理直線形	四 讀法文法 讀法文法 讀法文法 讀法文法	二 支那ノ文法文 學ノ要畧	二 支那ノ文法文 學ノ要畧	
動物 解剖ノ初步	三 外國歷史ノ要 外國歷史ノ要 外國歷史ノ要 外國歷史ノ要	三 外國歷史ノ要 外國歷史ノ要 外國歷史ノ要 外國歷史ノ要	三 代數自乘法 求根法指數法 二次方程式比 例 幾何面積比 例 幾何面積比 例	三 讀法文法翻譯 讀法文法翻譯 讀法文法翻譯 讀法文法翻譯	二 支那ノ文法文 學ノ要畧	二 支那ノ文法文 學ノ要畧	
礦物總論形象 化學及物理上 ノ性質等及燃 燒ノ類石類 礦類ノ普通 諸論ノ概畧 鑑識ノ概畧	二 單記複記 單記複記 單記複記 單記複記	二 單記複記 單記複記 單記複記 單記複記	二 單記複記 單記複記 單記複記 單記複記	三 讀法文法翻譯 讀法文法翻譯 讀法文法翻譯 讀法文法翻譯	二 支那ノ文法文 學ノ要畧	二 支那ノ文法文 學ノ要畧	

教育	倫理	第一學年級	第二學年級	第三學年級	第四學年級
一 倫理道德ノ要 旨	一 倫理道德ノ要 旨	上全	上全	上全	上全
二 總論智德體 育ノ理	一 全上	上全	上全	上全	上全
八 學校設置編制 管理ノ法方教 授ノ原理各學 科ノ教授法	一 全上	上全	上全	上全	上全
四 教育ニ關スル 本邦法令教育 史外國教育史 ノ概畧	一 全上	上全	上全	上全	上全
三 實地授業	一 全上	上全	上全	上全	上全

尋常師範學校男生徒學科程度授業時間配當表

卒業證書式

卒業證書

族 籍 姓 名

何年何月生

尋常師範學校卒業候事

明治何年何月何日

山梨縣尋常師範學校長 位勳姓名印

番號

物理	化學	農業	手工	習字	圖畫	音樂	體操
二 物理總論力學 物質論熱學	二 物理 光學 磁氣學	二 土地ノ成分耕 耘ノ理實業		四 楷行書	四 自在書法	二 單音唱歌音樂 上ノ名稱記號 拍子等ノ概略	六 普通體操 兵式體操
二 物理 音響學 磁氣學	二 化學 諸元素及其化 合物ノ製法性 質	二 肥料ノ用法植 物ノ生育實業		四 行草書	四 自在書法 用器書法	二 全	六 全
二 化學 非金屬金 屬中ノ重ナル 諸元素及其化 合物ノ製法性 質	三 化學 農業工業 上重要ナル有 機物ノ性質等 ノ要畧	二 畜ノ糞事家 畜ノ糞保護	二 木工具ノ種類 ノ用法等工業上 ノ要畧		一 自在書法	一 複音唱歌移調 法樂器使用法	六 全
		六 全上及蠶事	六 全上		二 自在書法 用器書法	二 全上及旋律 和聲教授法	六 全上

尋常師範學校女生徒學科程度授業時間配當表

第一一年級	第二一年級	第三一年級
週一 數時	全上	全上

倫理	教育	國語	數學	地理	歷史	理科	家事
一 人倫道德ノ要旨	三 總論智育德育體 育ノ理	五 日本ノ文法文學 ノ要畧作文	三 筆算命位記數四 則分數小數 珠算加減乘除四 則雜題	四 總論日本地誌ノ 要畧 日本歷史ノ要畧	二 博物ノ要畧	二 衣食住ニ關スル 事項	
一 全	五 學校ノ設置編制管 理ノ方法教授ノ原 理各學科ノ教授法	四 全	三 筆算 比例利息 開平開立求積法 幾何ノ大意	二 外國地誌ノ要畧 外國歷史ノ要畧	二 生理ノ要略	一 作育兒ニ關ス ル事項	
上	六 全上 教育ニ關スル本 邦法令	四 全	三 全	二 地文ノ概論	二 化學ノ要略	二 簿記	
上	三 實地授業	上	上				

第六類

五十一

五十一